

中南米日系農業者等との連携強化・ビジネス創出委託事業(農林水産省)
 中南米日系農業者団体データベース

中南米日系農業者団体位置図



中南米日系農業者団体データベース一覧

No	国	州・県	市	団体名(日本語)	団体名(原語)	略称	農産物(活動内容)	ページ
1	ブラジル	バラ州	トマス	トマス農協	Cooperativa Agrícola Mista de Tomé-Açu	CAMTA	カカオ豆、アサイー、胡椒、ドラゴンフルーツ、クブアス	1
2	ブラジル	バラ州	メディスランディア	トランスアマゾンカ農協	Cooperativa Agroindustrial da Transamazônica	COOPATRANS	カカオ	3
3	ブラジル	バラ州	サンタイザベルドバラ	サンタイザベル・サントアントニオダウア組合	Sindicato dos Produtores Rurais de Santa Izabel do Pará e Santo Antônio do Tauá	SINPRIZ	鶏肉、卵、バナナ、アサイー、パパイヤ、デンデヤシ	5
4	ブラジル	ペルナンブコ州	ベトロリーナ	ノバリアンサ農協	Cooperativa Agrícola Nova Aliança	COANA	ぶどう	7
5	ブラジル	ミナスジェライス州	トゥルボランディア	スルミナス農協	Cooperativa Agrícola Sul de Minas	CASM	スモモ、アテモヤ、アボカド、デコボン、ドラゴンフルーツ、柿、ピーマン	9
6	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	セラードブラジレイロ農協	Cooperativa de Agronegócios do Cerrado Brasileiro Ltda	Coopacer	にんにく、にんじん、大豆、アボカド、コーヒー	11
7	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	サンゴタルド地域協議会	Conselho da Região de São Gotardo	CRSG	にんじん、アボカド、にんにく、じゃがいも	13
8	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	アルトバラナイーバ農協	Cooperativa Agropecuária do Alto Paranaíba	COOPADAP	にんじん、とうもろこし、大豆、じゃがいも、にんにく、コーヒー、アボカド	15
9	ブラジル	マットグロッツドル州	カンボグランデ	バルゼアアレグレ農協	Cooperativa Agrícola Mista da Várzea Alegre	CAMVA	鶏卵、うずら卵、レモン、ドラゴンフルーツ、グアバ、アボカド、ボンカン/みかん	17
10	ブラジル	マットグロッツドル州	ナビライ	スルマットグロセンセ農協	Cooperativa Agrícola Sul MatoGrossense	Copasul	大豆、とうもろこし、キャッサバ、綿	19
11	ブラジル	サンパウロ州	イビウナ	イビウナ農協	Cooperativa Agropecuária de Ibiúna	CAISP	リーフレタス、ケール、玉レタス、ブロッコリー、キャベツ、白菜、エンダイブ	21
12	ブラジル	サンパウロ州	モジダスクルーゼス	モジダスクルーゼス農村組合	Sindicato Rural de Mogi das Cruzes	SRMC	葉野菜、きのこ、柿、観葉植物、アテモヤ・ピワ	23
13	ブラジル	サンパウロ州	ピラールドスル	APPC 農協/サンパウロ州柿生産者組合	Cooperativa Agroindustrial APPC / Associação Paulista Produtores de Caqui	APPC	ぶどう、デコボン、アテモヤ、柿	25
14	ブラジル	サンパウロ州	ピラールドスル	南伯ピラールドスル農協	Cooperativa Agrícola SulBrasil Pilar do Sul	CASBPS	ぶどう、アテモヤ、柿、葉野菜	27
15	ブラジル	サンパウロ州	サンミゲールアルカンジョ	南伯サンミゲールアルカンジョ農協	Cooperativa Agrícola Sul Brasil de São Miguel Arcanjo	CASBSMA	ぶどう、びわ、柿、ドラゴンフルーツ、野菜、核果類(桃など)	29
16	ブラジル	サンパウロ州	レジストロ	レジストロ日伯文化協会	Associação Cultural Nipo-Brasileira de Registro	Registro	紅茶・緑茶、餅米、いぐさ、ジュサラバルブ	31
17	ブラジル	サンパウロ州	カッポンボニート	カッポンボニート農協	Cooperativa Agrícola de Capão Bonito	CACB	大豆、とうもろこし、小麦、フェイジョン豆、ソルガム、じゃがいも	33
18	ブラジル	サンパウロ州	グアタバラ	グアタバラ農協	Cooperativa Agrícola de Guataporá	COAG	鶏卵、養鶏用飼料	35
19	ブラジル	サンパウロ州	グアタバラ	JATAK 農業技術普及交流センター	Instituto de Pesquisa Técnicas e Difusão Agropecuária da JATAK	IPTDA-JATAK	とうもろこし、大豆、落花生、サウキビ、ライチ、ドラゴンフルーツ、野菜、れんこん、にんにく、ベリー	37
20	ブラジル	サンパウロ州	バストス	バストス地域鶏卵生産者協会	Associação dos Produtores de Ovos de Bastos e Região	APROBARE	鶏卵、肉用牛、蜂蜜、落花生アボカド、ユーカリ・マホガニー、キャッサバ、豚	39
21	ブラジル	サンパウロ州	ミランドポリス	弓場農場	Associação Comunidade Yuba	Yuba	グアバ、マンゴー、椎茸、カボチャ	41
22	ブラジル	サンパウロ州	サンパウロ	ブラジル農協婦人部連合会	Associação Dos Departamentos De Senhoras Cooperativistas	ADESC	市場での農産物・加工品・弁当販売	43
23	ブラジル	バラナ州	カストロ	ウニオンカストレンセ農協	Cooperativa Agrícola União Castrense	UNICASTRO	大豆、とうもろこし、小麦、じゃがいも、キノコ	45
24	ブラジル	バラナ州	ポントグロッツサ	ポントグロッツセンセ農協	Cooperativa Agrícola Pontagrossense	Cooperonta	大豆、とうもろこし、小麦、オート麦、フェイジョン豆	47
25	ブラジル	バラナ州	ロンドリーナ	インテグラダ農協	Integrada Cooperativa Agroindustrial	Integrada	大豆、とうもろこし、小麦、コーヒー、オレンジ	49
26	ブラジル	バラナ州	ピトゥルナ	ピトゥルナマテ茶協会	Abem - Associação Biturunense da Erva Mate	ABEM	マテ茶	51
27	ブラジル	バラナ州	ノバアメリカダコリーナ	ノバアメリカダコリーナ地域果樹生産者組合	Cooperativa dos Fruticultores de Nova América da Colina e Região	Nova Citrus	オレンジ、アボカド(ハス)、パパイヤ	53
28	ブラジル	サンタカタリーナ州	サンジョアキン	サンジョアキン農協	Cooperativa Agrícola de São Joaquim	SANJO	りんご、ブルーベリー、ぶどう、フェイジョア	55
29	ブラジル	サンタカタリーナ州	フレイロジェリオ	ラーモス果樹生産者地域連合	União Regional dos Produtores de Fruta	UNIFRUTA	にんにく、梨、大豆、桃、とうもろこし	57

30	アルゼンチン	ミシオネス州	ハルディンアメリカ	ハルディンアメリカ生産者組合	Cooperativa Yerbatera de Jardin América Ltda.	Jardin América	マテ茶、キャッサバ、きゅうり、ミニコーン、パパイヤ	59
31	アルゼンチン	ブエノスアイレス州	ラプラタ	メルコフロール花卉生産者組合	Cooperativa de Productores de Flores y Plantas Mercoflor	Mercoflor	切花、鉢物	61
32	アルゼンチン	ブエノスアイレス州	ブエノスアイレス	エコフロール花卉農協	Establecimientos Cooperativos Florícolas	Ecoflor	切花、観葉植物・花の苗・果物	63
33	パラグアイ	アマンバイ県	ベドロファンカバレリヨ	アマンバイ農協	Cooperativa Amambay Agrícola	Amambay	大豆、とうもろこし	65
34	パラグアイ	イタプア県	ラパス	ラパス農協	Cooperativa La Paz Agrícola	La Paz	大豆、小麦、とうもろこし、ひまわり	67
35	パラグアイ	イタプア県	ピラポ	ピラポ農協	Cooperativa Pirapó Agrícola	Pirapó	大豆、小麦、なたね、とうもろこし、もろこし	69
36	パラグアイ	バラグアリ県	ラコルメナ	コルメナアスンセーナ農協	Cooperativa Agro-Industrial Colmena Asuncena	CAICA	トマト、ピーマン、レモン、メロン、ぶどう	71
37	パラグアイ	アルトパラナ県	イグアス	イグアス農協	Cooperativa Yguazu Agrícola	Yguazu	大豆、とうもろこし、小麦、マカダミアナッツ、肉用牛	73
38	パラグアイ	アルトパラナ県	イグアス	パラグアイ農牧総合試験場	Fundación Nikkei CETAPAR	CETAPAR	トマト、レタス、ピーマン	75
39	パラグアイ	アスンシオン市	フェルナンドデラモラ	パラグアイ日系農協中央会	Central Cooperativa Nikkei Agrícola	Chuokai	農協行政手続き、融資、指導・研修、農牧総合試験場運営	77
40	ボリビア	サンタクルス県	オキナワ	コロニアオキナワ農協	Cooperativa Agropecuaria Integral Colonias Okinawa	CAICO	大豆、小麦、米、とうもろこし、ソルガム	79
41	ボリビア	サンタクルス県	サンフアン	サンフアン農協	Cooperativa Agropecuaria Integral San Juan de Yapacani	CAISY	卵、米、大豆、とうもろこし	81
42	ペルー	リマ県	ウアラル	エスキベル農畜産物生産者協会	Asociación de Productores Agropecuarios de Esquivel	APAE	飼料用とうもろこし、コリアンダー、にんじん、さつまいも、ピーズ	83
43	ペルー	リマ県	カニエテ	ペルー日系人協会カニエテ	Asociación Peruano Japonesa de Cañete	APJ Cañete	ぶどう、みかん、アスパラガス、ブルーベリー	85
44	コロンビア	バージェデルカウカ州	カリ	コロンビア日系人協会	Asociación Colombo Japonesa	ACJ	サトウキビ、トウモロコシ、大豆、綿花、タヒチレモン	87
45	メキシコ	チアパス州	アカコヤグア	アカコヤグア江戸村協会	Asociación Edomura A.C. de Acacoyagua	Edomura	マンゴー、マンゴスチン、ランブータン、米、エスクミテ豆、グアナバナ	89

ブラジル
パラ州
トメアス市

①トメアス農協 CAMTA

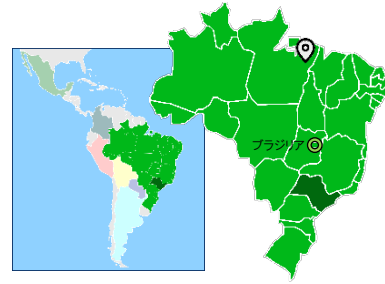
困難を乗り越えた歴史・配慮・持続性の CAMTA ブランド



ロゴ



施設



位置

記入：2025/02/28, Tomé-Açu/PA

[1] 組織の概要

組織名	トメアス総合農業協同組合 CAMTA Cooperativa Agrícola Mista de Tomé-Açu		
代表者名	Alberto Ke-Iti Oppata		
組合員人数	168 人	組合員人数	200 人
設立年	1949 年	年間売上	110.000.000,00 BR
組織紹介	<p>【歴史】 1949 年にパラ州トメアスで設立されたトメアス農業協同組合 (CAMTA) は、同地域における日本人移民の歴史から生まれました。90 年以上にわたり導入されてきたトメアス・アグロフォレストリーシステム (SAFTA) の開発により、持続可能な農業の国際的なモデルとして注目されています。このシステムは、革新と伝統的な知恵を組み合わせ、農業生産と環境保全のバランスを追求する CAMTA の歩みを象徴しています。</p> <p>【活動】 CAMTA は、カカオ、胡椒、アサイー、クプアス、熱帯果実などの持続可能な栽培を行い、家族経営の農家に短期、中期、長期の収入をもたらしています。特に、日本政府の支援により設立されたポリパ加工施設は年間 5,000 トンの生産能力を持ち、地域の付加価値を高めています。また、CAMTA は食料安全保障、環境保護、伝統的な知識の尊重にも力を入れています。</p> <p>【展望】 CAMTA は、収益創出、環境保全、社会的包摂を統合した持続可能な生産のグローバルモデルとなることを目指しています。SAFTA を通じて、革新的な手法を拡大し、地元の生産チェーンを強化し、他の地域にも同様のモデルを広めることで、より均衡の取れた繁栄した未来を築くことを追求しています。</p>		
住所	Avenida Dionísio Bentes, 210, Bairro Centro, Tomé-Açu, Pará, Brasil		
電話番号	+55 91 99144-6166		
E-mail	analistasistema@camta.com.br		
ウェブサイト	www.camta.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	カカオ豆	1381 ha	450	2024
(2)	アサイー	816 ha	6880 t	2024
(3)	胡椒	400 ha	422t	2024
(4)	ドラゴンフルーツ	175 ha	157 t	2024
(5)	クプアス	821 ha	1800 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	カカオ豆	1 月・4 月	5 月	9 月・11 月	9 月
(2)	アサイー	1 月・4 月	11 月	1 月・2 月	4 月
(3)	胡椒	1 月・4 月	7 月	1 月・2 月	7 月
(4)	ドラゴンフルーツ	11 月・1 月	1 月	6 月・11 月	7 月
(5)	クプアス	1 月・4 月	2 月	1 月・4 月	2 月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	果物パルプ	日本、フランス、ドイツ	1635 t
(2)	カカオ豆	日本	0 t
(3)	胡椒	アルゼンチン、日本	422 t

2-4 農業生産以外の活動

	Tópico	Conteúdo
(1)	農業資材・機械	果物パルプ(アセロラ、アサイー、パイナップル、カシュー、クプアス、グアバ、サワーソツ

ブ、マンゴー、パッションフルーツ、ドラゴンフルーツ、ムルシー*1、タペレバ*2)

*1: ムルシー樹は、アセロラと同じキントランオ科の植物で、高さ5メートルほどの灌木。指先ほどの大きさの丸い黄色い果物になる。

*2: マンゴーの親戚にあたりブラジルに古くからあるフルーツで、アマゾンのスパイスとして知られている。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

CAMTA は果物パルプ、胡椒、カカオアーモンドの取引を行っています。20 年以上も日本市場と取引を行っており、日本の行政や民間企業からの援助や協力のもと高品質な商品の生産に取り組んでいます。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	認証	果物パルプ	国際市場での競争力を上げ、より高品質で安全性の高い商品を生産	研修の導入、生産工程の資料化や効率化、商品トレーサビリティの構築など技術への投資
(2)	保管	果物パルプ	冷凍庫の最大保存量に達してしまった	商品の冷凍保存用エリアの最適化と増築
(3)	加工(カット・乾燥)	果物パルプ	果物パルプの最大パッキング量が不十分	より高品質な商品製造のため生産増加を効率的に可能にする新しい包装機器の導入に投資
(4)	種苗・品種	カカオ	国際市場での需要に応えるため生産量を増加	SAFTA で導入しているカカオ樹を病(Moniliophthora perniciosa)に強くより生産性の高いものとの交換に投資
(5)	環境対策	有機ミネラル肥料 製造過程で出る液体廃棄物の処理	環境への負担と化学農薬使用量の削減。 現在のシステムよりも環境への負荷が少ない処理方法での廃棄。	農業生産によって生み出される廃棄物の有効活用や化学農薬の使用量の削減によって環境負荷を減らすため、有機ミネラル肥料の生産技術導入に投資。 水処理センターの改善・増築プロジェクトへの投資。

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

工場生産をリアルタイムで監視・管理。インダストリー4.0 の導入により生産品の品質向上やコスト削減。炭素クレジット販売システムの導入。CAMTA はアグロフォレストリー分野の研究・開発団体との連携を通して「トメアスアグロフォレストリーシステム-SAFTA」の認知度を拡大したいと思っている。商業的パートナーシップや環境保全・持続可能な生産等に関心のある投資家からの協力を通して果物パルプの需要を拡大していき、SAFTA から産出される炭素クレジットの販売を可能にしたい。



農業資材店舗正面



果物パルプ



CAMTA 本部正面



アサイー(ポスター)



移民90周年記念バナー



コショウ

ブラジル
 パラ州
 メディシランディア市

② トランスアマゾニカ農協 COOPATRANS

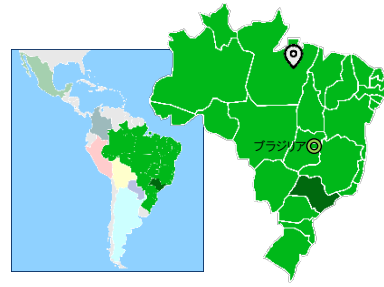
カカオ生産地／独自ブランドのチョコレート製造



ロゴ



施設



位置

記入：2025/03/12, Fernando S. Mariano

[1] 組織の概要

組織名	トランスアマゾニカ農協 COOPATRANS: Cooperativa Agroindustrial da Transamazônica		
代表者名	Ademir Venturin		
組合員人数	32 人	職員人数	18 人
設立年	2009 年	年間売上	280,000 USD
組織紹介	<p>【歴史】 2009 年に設立されたトランスアマゾニカ農協(COOPATRANS)は、カカオの栽培から高級チョコレートの生産まで、カカオの生産チェーンを強化するという使命を持って誕生しました。パラ州のカカオ生産地の中心であるメディシランディアに位置するこの協同組合は、地域経済の変革を推進し、収入の創出と農業従事者家族の生活の質の向上に貢献してきました。</p> <p>設立以来、COOPATRANS はトランスアマゾニカ地域初の農業産業協同組合として、カカオの加工と付加価値の創出において先駆的な役割を果たしてきました。持続可能な開発に基づく活動を通じて、この協同組合は高品質なカカオ豆の生産において国内のさまざまなコンテストで認められ、受賞するなど、その地位を確立しています。</p> <p>【活動】 COOPATRANS はカカオの加工工場を運営し、厳選されたカカオ豆を高付加価値製品に変え、CACAUEWAY ブランドで販売しています。商品には以下のようなラインアップがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョコレート:トリュフ、板チョコ、ココアパウダーなど。アサイー、ブラジルナッツ、クブアス、カカオジャム、カカオニブなど、地域特有の製品を展開しています。 ・カカオマス: カカオ含有量が異なる(30%、50%、52%、65%、70%)製品を生産し、多様な消費者層や市場のニーズに対応しています。 ・カカオの副産物: カカオの残渣を活用して、カカオハニー(カカオ果汁を煮詰めたもの)、ジャム、リキュール、ラバドゥーラ(黒糖のような砂糖菓子)などを製造し、カカオの完全利用と組合員の追加収入創出を促進しています。 <p>また、COOPATRANS は女性の生産的包摂を強化する重要な役割も果たしており、カカオ由来の美味しい製品の製造において女性の積極的な参加を奨励しています。これらの製品は、工場や提携店舗で販売されています。さらに、COOPATRANS はカカオ豆、ニブ、カカオマスの新市場開拓にも力を入れており、戦略的ビジネスパートナーシップとして輸出登録を持つ地域協同組合である COOPOAM との連携など、新たな市場開拓に必要な取組も行っています。</p> <p>【展望】 COOPATRANS は、持続可能な協同組合のモデルとしての地位を確立し、トランスアマゾニカ地域の経済的、社会的、環境的な発展を促進することを目指しています。市場拡大に焦点を当て、協同組合は製品の輸出を開始することを目標としており、その存在感を高め、協同組合のメリットを国境を越えて広めることを計画しています。地域の豊かな資源を重視し、イノベーションに投資、組合員の主体性を強化することで、COOPATRANS は組合員の生活の質を向上させるだけでなく、カカオ産業における成功例としての地位を確立しています。これにより、アマゾン地域とブラジル全体の持続可能な成長に貢献しています。</p>		
住所	Rodovia Transamazônica km 92, Medicilândia, Pará, Brasil		
電話番号	+55 13 3822-4144		
E-mail	elis.xingu@gmail.com		
ウェブサイト	http://cacaueway.com.br/a-empresa/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	カカオ	700 ha	600 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	カカオ	9月・11月	5月・6月	2月・4月	1月・4月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	チョコレート及びカカオベースの半加工品の販売

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

本事業の2022年1月のビジネス創出セミナーに参加

3-2 ニーズのある分野・課題

	Tópico	Produtos	Problema / desafio	Solução
(1)	輸出	カカオ	カカオの取引は大企業が支配しており、品質がいかに良くてもそれ以上の価格の支払いがない。	カカオ豆の直接販売ルートを構築する。付加価値を与え、生産者の利益率を上げる。
(2)	農業資材	カカオ	カカオの生産には熟練の労働力の需要が多く、また地域では機械化がほとんどなく生産コストが高いため生産することが難しい。	カカオ生産にかかる機材の生産者企業とパートナーシップを組む。(剪定、カカオ割器、乾燥機などの機械)
(3)	精密農業	カカオ	カカオ生産の管理システムが構築されていない。新しい品種の開発研究への投資が十分でない。(例えば、カカオの皮の有効活用)	カカオの皮や残渣からバイオ肥料の生産に特化している企業、または現場でのモニタリングや管理システムの構築に興味がある。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

生分解性包装やカカオ廃棄物の有効活用に興味がある



カカオの栽培



カカオの収穫



カカオ豆の乾燥



かりかりカカオ豆



カカオ 70%チョコ



カカオリキュール



チョコトリュフ



パイナップル入り
カカオジャム



カカオニブ



カカオパウダー
50%(青) 100%(黄)

ブラジル
 パラ州
 サンタイザベルドパラ市

③ サンタイザベル・サントアントニオドタウア組合 SINPRIZ

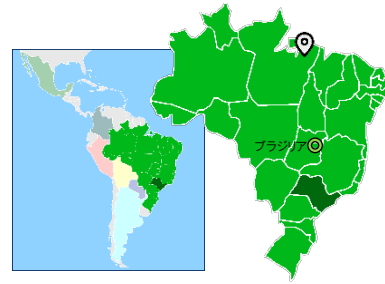
養鶏・牛肉・果物などを幅広く生産



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/19, Carlos Eduardo M Leal

[1] 組織の概要

組織名	サンタイザベル・サントアントニオドタウア組合 SINPRIZ: Sindicato dos Produtores Rurais de Santa Izabel do Pará e Santo Antonio do Tauá		
代表者名	Herbert Koji Yamanaka		
組合員人数	125 人	職員人数	5 人
設立年	1994 年	年間売上	223,899,551 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 1994 年 1 月 26 日に設立されたサンタ・イザベル・ド・パラー及びサント・アントニオ・ド・タウア農業生産者組合(SINPRIZ)は、地域の農村生産者の利益を代表し、強化することを目的として誕生しました。過去 30 年にわたり、SINPRIZ は農村開発の重要な主体として活動し、農業者や畜産家の権利を守り、地域の持続可能な成長に貢献してきました。</p> <p>【活動】 SINPRIZ は、非営利の組合組織であり、全国組合団体登録(CNES)に認可されています。パラ州農業畜産連合(FAEPA)およびブラジル農業畜産連合(CNA)に加盟しています。主な活動としては、サンタ・イザベル・ド・パラーとサント・アントニオ・ド・タウアの農村生産者を代表し、組織化し、強化することに重点を置いています。これにより、彼らの権利と利益を守り、高性能な農業・畜産業を実践するための取り組みを推進しています。</p> <p>【展望】 私たちのビジョンは、農業・畜産業セクターの代表団体として、生産者階級と組合システムをつなぐ役割を果たし、効果的で公正かつ透明な農業政策を追求することです。これにより、農業・畜産業の分野でリーダー的存在となることを目指しています。</p>		
住所	Rua José de Souza Ferreira, nº 9, Santa Izabel do Pará, Pará, Brasil		
電話番号	+55 91 99943-4564		
E-mail	sinpriz@hotmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	鶏肉	10.900 ha	248.270 t	2024
(2)	卵	2.500 ha	480.243 t	2024
(3)	バナナ	115 ha	877 t	2024
(4)	アサイー	119 ha	391 t	2024
(5)	パパイヤ	54 ha	426 t	2024
(6)	デンデヤシ	294 ha	456 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	生きた鶏	年中	年中	年中	年中
(2)	卵	年中	年中	年中	年中
(3)	バナナ	雨季の始め	年中	雨季の始め	年中
(4)	アサイー	雨季の始め	年中	雨季の始め	年中

(5)	パパイヤ	雨季の始め	年中	雨季の始め	年中
(6)	デンデヤシ	雨季の始め	年中	雨季の始め	年中

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	単胃動物用の飼料工場
(2)	農業資材・機械	機材生産及びメンテナンス
(3)	不動産	農地リースまたはパートナーシップ
(4)	資金融資	穀物の購入及び収穫の投資
(5)	その他	輸送、電力、鍛冶屋などのサービス

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出（農産物・加工品）	鶏	生きている鶏の販売に課題がある。殆どが会社に販売しており、市場価格の変動が激しく、急落することもある。数日間で市場のニーズの重量を超えることがあり、大損害を被る。	顧客を多様化し販売の視野を広げ商品を小売店まで届ける。養鶏の屠殺工場を導入し鶏肉の加工品を小売店や大規模の買い手へ販売する。
(2)	農業機械	野菜	穀物の購入に課題がある。農産物であるため、価格が国際市場や為替レートで大きく変動する。年々購入者の穀物市場を見極める能力が必須となる、また穀物の保存に大規模な投資が必要となる。	穀物の国内及び国際市場について研修を行う、同じ種類の穀物の購入者と協力し穀物の保存量を増やす。
(3)	精密農業	野菜	生産管理システム及び経済効果。生産コントロール管理システムに高額投資して導入するが期待した効果が得られなかった。いまだ低価格で容易に操作できるシステムを模索している。	学術団体や新興企業と協力して、養鶏農家をより良く支援するために、汎用性がありブラジルの法律の要件をスムーズに満たせるシステムを開発する。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

日本企業とのビジネスに関心がある。生産者のニーズにこたえるパートナーを希望している。将来的には輸出したいと考えている。



ブロイラー



鶏卵



アサイーベリー



デンデヤシの実



パパイヤ



バナナ

ブラジル
 ペルナンブコ州
 ペトロリーナ市

④ノバアリアンサ農協 COANA

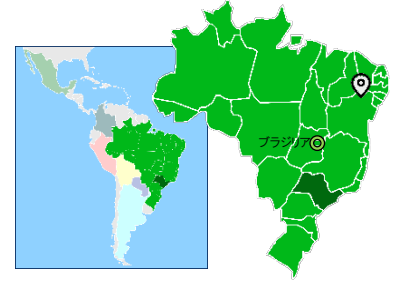
1年中ぶどう生産可能なぶどう輸出の中心地

COANA
 UNIÃO QUE PRODUZ QUALIDADE

ロゴ



施設



位置

記入: 2024/12/18、Talita dos Santos silva

[1] 組織の概要

組織名	ノバアリアンサ農協 COANA: Cooperativa Agrícola Nova Aliança		
代表者名	Edis Ken Matsumoto		
組合員人数	33人	職員人数	77人
設立年	2006年7月2日	年間売上	R\$ 190.000.000,00
組織紹介	<p>【歴史】 COANAはペルナンブコ州のペトロリーナ市に位置し、組合員の多くはサンパウロ州、パラナ州、パラ州の出身の日系人である。2005年に設立し、品質基準の高い国際市場のニーズに合わせたぶどうの生産を目指している。生産から出荷までバリューチェーンを大切に、効率的で冷蔵も備えたロジスティクスを採用している。およそ356haの面積で高品質な種無しぶどうを生産しており、長年の経験を活かし、ビジネスを拡大している。</p> <p>【活動】 COANAは新品種を開発する企業と提携し、種なしぶどう生産の最前線に立ち、食卓用ぶどうの世界で革新的な技術を研究し、生産している。効率的で安全かつ持続可能なプロセスと管理により、さまざまな国際認証を取得し、品質基準を満たす証明をしている。日々、COANAは国内市場では認知されたブランドとして、また海外市場ではイギリスやドイツを中心に大きなポテンシャルと認知度を持つ顧客を獲得し、確固たる地位を確立している。</p> <p>【展望】 COANAのビジョンは果物の生産と販売において、国際基準を満たしたブラジルのモデルとなることである。さらに周囲の協力者と共に持続可能な成長を目指し、発展していくというミッションを掲げている。私達のバリュー、協力:力を合わせることで強くなれる、純粋さ:私達はシンプルに明快に行動する。サステナビリティ:バランスよく事業を継続する。コミットメント:誠心誠意のベストを尽くす。開発:より良いものを作ることを目指し日々努力する。イノベーション:明日の成功は今日のイノベーションの結果であると信じている。</p>		
住所	Faz. Lote Agrícola 551 02 PISNC – Zona Rural, Petrolina, Pernambuco, Brasil		
電話番号	+55 87 98841-8680		
E-mail	coana@coanabr.com.br		
ウェブサイト	www.coanabr.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	ぶどう	380 ha	12.000.000 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	ぶどう	5月-6月/ 4月-5月	9月-11月	11月-12月/ 10月-12月	2月-5月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	ぶどう	イギリス	1.253 t (2024)
(2)	ぶどう	スウェーデン	0.224 t (2024)
(3)	ぶどう	ドイツ	1.184 t (2024)

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

過去に日本企業と取引した経験がある。

- ・ブラジル住友 - 農業用品の取引
- ・ブラジルマエカワ - コンプレッサー及び冷蔵ユニット
- ・味の素ブラジル - 農業資材の取引

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出(農産物・加工品)	ぶどう	3月から5月の収穫期にぶどうの供給過多によって起こる価格の下落。	上半期にぶどうの輸出量を増やすことによって、国内市場の需要量とのバランスを図る。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

ポストハーベスト製品・技術



パッキングハウス



ブドウ栽培の様子



ブドウ栽培の様子



パッキングハウス



COANA 本部

ブラジル
 ミナスジェライス州
 トウルボランディア市

⑤ スルミナス農協 CASM

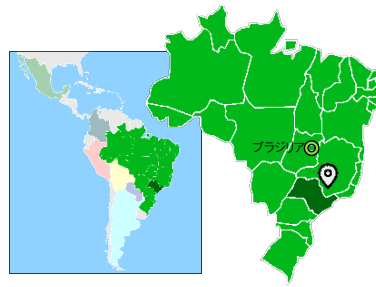
果物を中心に生産する農協 CASM



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/20, Meire Sato

[1] 組織の概要

組織名	スルミナス農協 CASM: Cooperativa Agrícola Sul de Minas		
代表者名	Cláudio Hedekazu Nagano		
組合員人数	30 人	職員人数	6 人
設立年	1995 年	年間売上	
組織紹介	<p>【歴史】1995 年、CAC 倒産後に設立された CASM は PADSUL プロジェクトなどを通してスルミナス地域に大きく貢献しています。始まりは野菜類の生産であったものの、組合員らの適応能力の高さもあり果樹栽培でも躍進を遂げて見せることができました。いまでは柿、アテモヤ、トマト、ピーマンの栽培を主軸にしています。特に我々の柿は高品質な柿として地域市場に浸透しています。</p> <p>【活動】CASM の成功はパッキング技術や剪定、バイオ農薬、グローバル GAP などの果樹の栽培法に関する様々な新技術の導入によるでしょう。これらの導入は商品の品質だけでなく、生産者の知識向上にもつながりより専門的な技術の提供を可能にするので全体の品質・技術向上に必要不可欠だといえます。</p> <p>しかし、当団体でも担い手不足などの問題は深刻です。十分な知識・経験を持った担い手がないという現状は農業に携わる者の共通の悩みで、若者たちの農業への興味が年々薄れていることでより深刻化しています。さらに、近年の気候変動に伴う干ばつや熱波など農業生産に直接的な影響がでる事象はより組合員らの対応能力が試される場面といえるでしょう。</p> <p>【展望】CASM では、組合員の技術向上へ継続的に働きかけることを課題への対策とし、地域農業の持続・継続を可能にしていきたいです。この一環として、商品の付加価値を高めることと環境に配慮した栽培方法の導入は将来的にもとても重要だといえるでしょう。</p>		
住所	Estrada Rural Cotia – S/nº, Bairro Cotia, Turvolândia, MG – 37496-000		
電話番号	+55 35 99809-2727		
E-mail	casminas@uol.com.br		
ウェブサイト	https://www.instagram.com/cooperativacasm?igsh=MXdxYmN2Z3k5NDIweg		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	柿	200 ha	1.500 t	2024
(2)	アテモヤ	50 ha	250 t	2024
(3)	アボカド	20 ha	50 t	2024
(4)	デコボン	2 ha	5 t	2024
(5)	ドラゴンフルーツ	15 ha	15 t	2024
(6)	ピーマン	10 ha	25 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	スモモ	5 月・8 月	12 月・1 月		
(2)	アテモヤ	9 月・11 月	5 月・7 月		
(3)	アボカド		9 月・10 月		
(4)	デコボン	5 月・8 月	9 月・12 月		
(5)	ドラゴンフルーツ	9 月・10 月	12 月・1 月		
(6)	柿	7 月・9 月	2 月・5 月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	アテモヤ	カナダ、ヨーロッパ、アメリカ	10 t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材	パートナー企業から購入している肥料や葉面散布薬、パッケージ用の箱、農業資材(オイルやフィルター等)

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

日本企業との取引はなし。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	肥料	果物	ブラジルには様々な葉面散布肥料があるが、常に新しい技術を模索している。	葉面散布肥料の導入
(2)	種苗・品種	果物	果樹の病気による損失によって、農協の生産量に大きく影響している。	気候に適し、害虫に強い品種の模索、また病気を和らげる製品など。
(3)	農業機械	果物	組合では選果機を使用しているが、20年近く前のもので古く、効率性が低い。	新たなテクノロジーの選果機の導入(形状、傷、糖度の測定など)。
(4)	植物病理学	機材・機器	生産者へより高度な技術サポートを提供するために必要な機材・機器が入手困難なほかそれらを扱いための技術研修棟も不足	購入した機材によって知り得たデータをもとにさらなる改良を可能にするシステムの構築・導入
(5)		微生物	増殖用施設のコンタミネーション	施設内の有効な消毒方法の確立(人・物)

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

<p>果物の選別と包装の機材及び技術</p> <p>果物の選別と包装の機材及び技術研や新種の果樹の苗など。日本企業とのビジネスへのルート確保。そのほか、組合員へ最新情報を提供できるようにするためのシステムの構築</p>



ブラジル
ミナスジェライス州
サンゴタルド市

⑥ セラードブラジレイロ農協 Coopacer

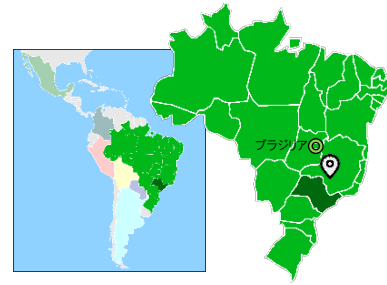
多様な品目を生産 -1人だと速いが共に歩めば遠くまで行ける-



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/11/13, Lilian Aparecida Dimas Marques

[1] 組織の概要

組織名	セラードブラジレイロ農協 Coopacer: Cooperativa de Agronegócios do Cerrado Brasileiro Ltda		
代表者名	Gildo Hiroyuki Shimada		
組合員人数	253 人	職員人数	35 人
設立年	2006 年	年間売上	10.544.000,00 USドル
組織紹介	<p>【歴史】セラードブラジレイロ農協は、2006年12月12日に設立され、2007年12月に活動を開始しました。Alto da Parnaíba 地域の開拓事業 PADAP の対象エリアに位置しており、ブラジルの農業開拓事業で最も成功していると言えます。</p> <p>【活動】ミナスジェライス州のサンゴタルド市に位置しており、ブラジルの園芸生産において重要な役割を果たしている Triângulo Mineiro/Alto Paranaíba 地域の中央にあります。</p> <p>【展望】COOPACER は、14年間にわたり、組合員に技術支援や農業用品の提供などのサポートを行っており、常に協力し合って成長を遂げることを目標として活動しています。現在のグローバル化した世界の変化に取り残されないために、常に農業技術の進化を追い求めています。</p>		
住所	ROD BR 354, KM 334,7, LOJAS 13 E 14 – Zona Rural, São Gotardo, Minas Gerais, Brasil		
電話番号	+55 34 3671-6363		
E-mail	coopacer@coopacer.com.br		
ウェブサイト	www.coopacer.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	にんじん	5.000 ha	240,00	2024
(2)	にんにく	6.000 ha	114,00	2024
(3)	大豆	7.000 ha	27,00	2024
(4)	アボカド	1.131 ha	14,00	2024
(5)	コーヒー	3.000 ha	12,00	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	にんじん	年中	年中		
(2)	にんにく	2月～5月	6月～8月		
(3)	大豆	10月～11月	3月～4月		
(4)	アボカド	-	年中		
(5)	コーヒー	-	5月～8月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	コーヒー	日本	
(2)	アボカド	ヨーロッパ	

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	有機製品工場
(2)	農業資材・機械	農薬、肥料、種苗の販売
(3)	その他	植物研究所

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

農薬の購入。ブラジル農業の増進のための技術。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	品質管理	有機肥料	我々の有機製品が市場で模範となる事。	商品の生産にかかる手順の標準化をするための情報交換。
(2)	品質管理	微生物	農場で肥料を生産する。(on-farm) 土地利用をよりよくする。	微生物を増やす方法。 土壌に良いとされる微生物の収集方法

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

有機肥料の生産技術、土壌の微生物の活用法の改善、情報交換によって、有機肥料の生産にかかるプロセスの改善、土壌の微生物分析の拡大。



Coopacer 本部, São Gotardo/MG



農場視察



土壌・植物研究所



CKC 開催イベント参加



CKC 開催イベント参加



人参栽培コンフェレンス

ブラジル
 ミナスジェライス州
 サンゴタルド市

⑦ サンゴタルド地域協議会 CRSG

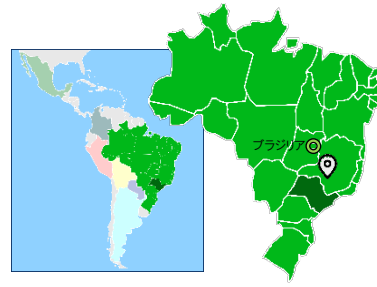
サンゴタルド地域の農産物ブランドを立ち上げた協議会



ロゴ



ウェブサイト



位置

記入：2024/11/12, Walter Minami

[1] 組織の概要

組織名	サンゴタルド地域協議会 CRSG: Conselho da Região de São Gotardo		
代表者名	Walter Seiti Minami		
組合員人数	21 人	職員人数	21 人
設立年	2014 年	年間売上	
組織紹介	<p>【歴史】 サンゴタルド協議会は農業生産物と共に生産地域および生産者を紹介することを目的とし設立された団体です。この地域は 1973 年に行われたブラジルセラード移住計画のアルト・パラナイバ移住プログラム PADAP により MG 州のサンゴタルド、リオ・パラナイバ、イビア、カンポス・アルトス周辺へと農業生産者が移住してきた地域で、その後 PADAP はブラジルセラード移住計画のモデルケースにもり周辺地域の発展に大きく貢献しました。</p> <p>【活動】 現在、この地域は国内有数のニンニク、ニンジン、アボカドの生産地でそのほかにもジャガイモ、ビーツ、キャベツ、コーヒー、トウモロコシ、大豆、麦の生産も行っている。</p> <p>【展望】 当団体は 2019 年末に存亡の危機に陥ったが、近年 National Institute of Industrial Property (INPI) に登録しニンニク、アボカド、ジャガイモ、ニンジンの生産地表記の許可を取得したことで今後はこの生産地表記を通し消費者が生産地域や生産者について知り商品と生産方法への安心感も提供できるようにしていきたい。</p>		
住所	Rod MG 235, Km 89, 443 - Guarda dos Ferreiros, São Gotardo, Minas Gerais, Brasil, CEP: 38800-000		
電話番号	+55 34 3616-1200		
E-mail	regiaosaogotardo@gmail.com		
ウェブサイト	saogotardo.org		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	にんじん	5,000 ha	250,000 t	2024
(2)	アボカド	2,000 ha	30,000 t	2024
(3)	にんにく	3,000 ha	45,000 t	2024
(4)	じゃがいも	2,000 ha	100,000 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	にんじん	1 月-12 月	1 月-12 月		
(2)	アボカド				
(3)	にんにく	3 月-5 月	7 月-9 月		
(4)	じゃがいも	10 月-2 月	2 月-6 月	5 月-7 月	6 月-10 月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	アボカド	ヨーロッパ	

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

ミツイ、イハラ、スミモ、トヨタ自動車

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	包装	野菜	パッケージにかかるコストの削減、より品質を保持できるパッケージ。	各生産物に適したよりよい包装（鮮度保持、コスト）
	GI	ニンニク、アボカド、ジャガイモ、ニンジン	物流チェーンと最終消費者からの優先生産地としての認知	パートナーシップ、コミュニケーション

3-3 関心のある技術・製品

トレーサビリティを可能にする技術とパッキング技術

3-4 日本企業への期待

日本企業と連携する上での問題点は、ブラジルでは税金が高く書類手続きに時間・労力を要すること。もう一つの問題点は日本の技術の理解力がブラジル人に足りないこと。日本企業にはまずは、製品の販売と技術の習得の両方の相乗効果を検討したうえでビジネスパートナーになれることを期待している。



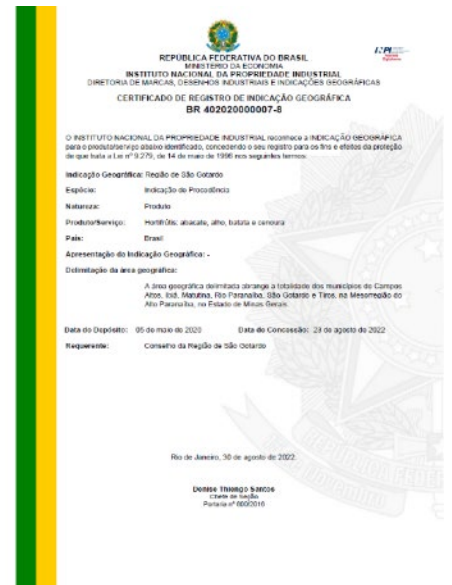
ニンニク生産



ニンジン生産



生産地表記許可を取得した作物



INPI 生産地表記許可証

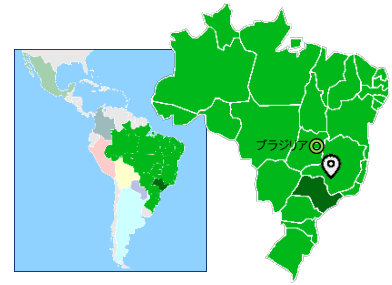
ブラジル
ミナスジェライス州
サンゴタルド市

⑧ アルトパラナイーバ農協 COOPADAP

野菜・穀物・コーヒーを生産する農協



施設



位置

記入: 2024/11/14, Felipe Augusto Alves de Melo

[1] 組織の概要

組織名	アルトパラナイーバ農協 COOPADAP: Cooperativa Agropecuaria do Alto Paranaíba		
代表者名	Marcos Miyazaki		
組合員人数	129 人	職員人数	526 人
設立年	1994 年 11 月	年間売上	226.049.371 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 コチア農協が経営破綻したことで、サンゴタルドの組合員は、協力のモデルに従い、団結して組織的に困難や課題に立ち向かい、活動を継続することの重要性を確信した。そこで彼らは、新しい教義と運営メンタリティを持つ新しい協同組合を設立することにした。COOPADAP は、1994 年 11 月中旬に誕生した。当時のブラジルではコチア農協や南伯農協など、農協の破綻が相次ぎ、全国的に農協の衰退が指摘されていた。それ以来、農協は、組合員、供給業者、顧客に対して透明性を保ちながら、企業の目的に記載されたサービスや活動を提供するための新たな形態で活動を開始した。コチア農協の歴史だけでなく、当時の状況の分析によって、強みと弱み、チャンスとリスクが浮き彫りにされ、新たな方向性が打ち出された。</p> <p>【活動】 農産物の受領、加工、保管、農業資材の購入と販売、農業を営むミクロ・マクロ地域に適した品種や作物の改良、開発、研究、資材や各種製品の輸送、強力な技術支援などを基本業務としている。組合員の生産モジュールの農業的利用、顧客とサプライヤーの満足を保証し、新たな生産代替案の開発、生産規模の拡大、製品構成の拡大による成長を見据えた形で業務を行っている。農協はアルトパラナイーバ地域に位置し、ミナスジェライス州の 10 以上の市町村（ガルダモール、コロマンデル、パトロシニオ、ティロス、リオパラナイバ、イピア、ウベラバ、カンポス・アルトス、ブラチーニャ、タピラ、アラクサ）およびゴイアス州のクリスタリーナ市を活動地域としている。COOPA アルトパラナイーバジェライス州、サンパウロ州、リオデジャネイロ州、南部、中部、北部、北東部の主要都市を中心に、ほぼすべての国内主要市場に進出している。2022 年には、組合員の生産と農業資材・農薬の販売による売上が 10 億リアルを超え、過去最高の売上高を記録した。</p> <p>【展望】 2024 年には、事業の持続可能性を確保するため、農協の明確なビジョン、アイデンティティ、目標を示し、短期的・長期的な意思決定においてリスクを予測するのに役立つ戦略計画を見直す方針。このように、農協は活動開始以来、その DNA を受け継いできた。団結とパートナーシップによってここまで前進し、今年は創立 30 周年を迎える。常に透明性、平等性、倫理性を優先することで、私たちはこれまで以上に優れた結果を達成していく。協力することは、現場をはるかに超える。</p>		
住所	Rodovia MG 235, Km 89.443, Cidade de São Gotardo, Estado de Minas Gerais, Brasil, CEP 38800-000		
電話番号	+55 34 3616-1200		
E-mail	diretoria@coopadap.com.br		
ウェブサイト	https://www.coopadap.com.br/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	にんじん	1.315 ha	72.346	2023
(2)	とうもろこし	4.376 ha	45.534	2023
(3)	大豆	7.480 ha	33.309	2023
(4)	じゃがいも	652 ha	27.933	2023
(5)	にんにく	1.693 ha	22.900	2023

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	にんじん	9月-3月	1月-6月	3月-8月	7月-11月
(2)	とうもろこし	8月-1月	1月-4月	2月-3月	7月-8月
(3)	大豆	10月-12月	1月-4月	-	-
(4)	じゃがいも	3月-6月	6月-9月	11月-2月	3月-5月
(5)	にんにく	3月-5月	7月-9月	-	-

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	アボカド	スペイン/オランダ	500 t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	サービス提供	農産物の貯蔵と加工
(2)	サービス提供	農産物加工 - パッキングハウス
(3)	研究	研究で得た成果を実施しベストマネジメントプラクティスの採用

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)				

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

モバイルアプリ / パッキングハウス / B2B 協同組合ポータル / ESG 執行委員会 ブラジルの日系コミュニティとの関係性を築く / 東洋系移民の重要性を認識する / 日本人代表団体との直接的な関係



試験圃場



試験圃場



COOPADAP 本部(上空)



パッキング(ニンジン)



COOPADAP 本部(正面)



パッキング(ニンジン)

ブラジル
 マットグロソドスル州
 テレンス市

⑨ バルゼアアレグレ農協 CAMVA

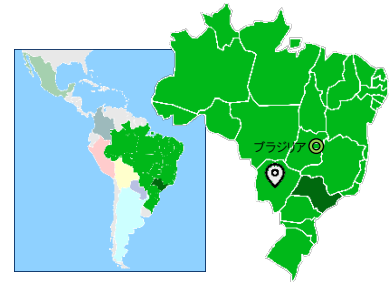
鶏卵・うずら卵を中心に生産



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/12/07, Reinaldo Issao Kurokawa

[1] 組織の概要

組織名	バルゼアアレグレ農協 CAMVA: Cooperativa Agrícola Mista de Varzea Alegre		
代表者名	Reinaldo Issao Kurokawa		
組合員人数	29 人	職員人数	201 人
設立年	1962 年 12 月	年間売上	45,000,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 終戦後 1957 年に、国際協力機構 JICA はブラジル移住を後押しするべくバルゼアアレグレ地域の耕作地を移住者達に与えた。移住推進を行っていた JAMIC 社が 36,000ha の土地を入手し 25~300ha に分譲し移住者へ譲渡、譲渡された農業者らが立上げたのが JAMIC コロニーでした。</p> <p>【活動】 入植当初、共同で生産を始めたのは米・とうもろこし・大豆・綿などを栽培していたが、雨不足さらに、土地がやせていたために苦境に立たされ、自己資金も底をつき、土地を捨て、日本に戻る家族や都市部へ出る家族もいた。その後、支援団体からの提案で採卵養鶏が始まり、以前はサンパウロ州から卵が入ってきていたが、地域での卵の生産・販売を行うようになった。事業化のための調査の結果、各家族 500 羽規模から始め、経営管理改善のためにバルゼアアレグレ農協(CAMVA)を 1962 年 12 月 12 日に設立した。</p> <p>組合長である Reinaldo Kurokawa によると現在は 30 の家族が毎日 95 万個の鶏卵と 1.6 万個のうずらの卵を生産している。組合施設: 飼料工場、卵加工工場、運営管理事務所、カンボグランデCEASA倉庫、</p> <p>【展望】 組合の業務: 配合飼料の生産、組合員への飼料の配達、組合員の養鶏場からの卵の収集、鶏卵の選別、包装、販売。これらのサービスを通じて、協同組合は、組合員の収入を安定させ、強化することを目指しています。また、地域に高品質な卵を供給することで、食料安全を保証しています。</p>		
住所	Rodovia BR 262 KM 398, Colônia Jamic, Terenos, Matogrosso do Sul, Brasil		
電話番号	+55-67-99906-1478		
E-mail	issao@camva.com.br		
ウェブサイト	Não temos		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	鶏卵		349.164.000 個	2024
(2)	うずら卵		5.856.000 個	2024
(3)	レモン		5.000 箱	2024
(4)	ドラゴンフルーツ	0,5 ha		2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)					

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	飼料製造工場。生産量 45.600t

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

低温殺菌機材を扱っている企業 卵の加工品 - 液卵と卵パウダー 果物用包装資材

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	農村観光	卵、果物	インフラ設備の整備 実施資金	資金援助 企画とコンサルティング
(2)	SNS	卵、果物	製品消費促進	マーケティング 専門的コンサルティング
(3)	効率向上	生産コスト	生産コスト抑制 ロス削減 生産性・効率向上	機械の最新化 自動化の導入
	マーケティング	卵、果物	商品プレゼン(見栄え)	パッケージとラベル 専門的コンサルティング
	博物館	組合と移住地の歴史	インフラ設備不足 実施資金	博物館の建設 資金援助 企画とコンサルティング
	販売	卵、果物	インフラ設備不足 実施資金	店舗の建設(道の駅) 資金援助 企画とコンサルティング
	加工工場	肥料	インフラ設備不足 実施資金	資金援助 企画とコンサルティング

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

卵殺菌機材 - 低温殺菌卵の生産。 殺菌済み卵の販売



鶏舎と生産者



JAMIC コロニーの記録



販売の様子(スーパーマーケット)



設立当初の CAMVA 本部



洗浄・パッキング



保管庫

ブラジル
 マットグロッソ州
 ナビライ市

⑩ スルマツグロセンセ農協 Copasul

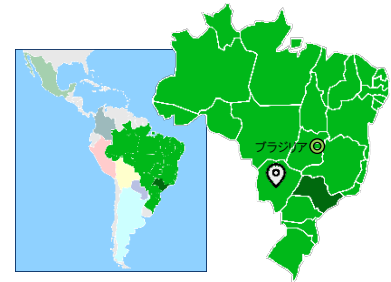
穀物を生産する大規模農協



ロゴ



施設



位置

記入：2025/03/31, , João Pedro Kikuta Miranda

[1] 組織の概要

組織名	スルマツグロセンセ農協 Copasul: Cooperativa Agrícola Sul Matogrossense		
代表者名	Adroaldo Yoshimitsu Taguti – Presidente Executivo		
組合員人数	2469 人	職員人数	1312 人
設立年	1978 年	年間売上	43 億 7000 万レアル
組織紹介	<p>【歴史】 1978 年 12 月 16 日、ナビライ市にて、スルマツグロセンセ農協(COPASUL)は 27 名の綿花栽培者の起業家精神と未来的なビジョンにより設立されました。</p> <p>創業時より、COPASUL の使命は明確で「協力組合員を強化し、卓越したサービスを通じて成長を促進し、顧客と組合員の満足を保証すること」です。</p> <p>【活動】 現在、COPASUL は国内でも有数の堅実で信頼される協同組合の一つとして、2,400 名以上の組合員を擁しています。</p> <p>その活動範囲は、農業資材の供給や専門的な技術支援から、穀物の販売、澱粉工場の運営、綿糸の紡績まで多岐にわたります。</p> <p>さらに、精密灌漑設備の供給においても優れており、農業技術と持続可能性への取り組みを強化しています。</p> <p>【展望】 イノベーションと地域開発を礎とした歩み続ける COPASUL は、未来を見据えたビジョンを堅持しています。「協同組合の模範として、品質と信頼性をもって農家と地域社会の持続的成長に貢献すること」がその目標です。</p>		
住所	Avenida Campo Grande Nº 1978 – Naviraí, Mato Grosso, Brasil, CEP: 79950-000		
電話番号	+55 67 3409-1234		
E-mail	egidio.tsuji@copasul.coop.br		
ウェブサイト	www.copasul.coop.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	471.596 ha	905 M t	2024
(2)	とうもろこし	471.596 ha	735 M t	2024
(3)	キャッサバ	11.979 ha	110.000 t	2024
(4)	綿	1.968 ha	6.416 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	10 月/11 月	1 月/2 月		
(2)	とうもろこし	2 月/3 月	8 月/9 月		
(3)	キャッサバ	5 月/6 月	年中		
(4)	綿	9 月/10 月	3 月/4 月	1 月/2 月	8 月/9 月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量

(1)	キャッサバ澱粉	パラグアイ	783 t
(2)	キャッサバ澱粉	ボリビア	160 t
(3)	穀物	オランダ	20.032 t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	生産及び販売:綿糸、ポリエステル糸、キャッサバ澱粉、(建設途中:大豆カス、大豆油)
(2)	農業資材・機械	農業用品の販売(種子、殺菌剤、除草剤、肥料、殺虫剤など)
(3)	農業資材・機械	灌漑装置の設計及び販売
(4)	サービス	農業プロジェクトに融資。
(5)	燃料販売	TRR - 組合員ヘディーセルの販売。
(6)	研究所(土壌)	物理的・化学的・生物学的特性を測定するための土壌分析

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

まだ日本企業とのビジネスはありません。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	品質管理	キャッサバ澱粉及びタピオカ	包装後も微生物の活性化によって品質が左右される。またカビなども生える。	-製造工程での衛生管理 -汚染されている箇所を発見及び除去する機材 -微生物の活性化を妨げるパッケージ
(2)	環境対策	綿とキャッサバの廃棄物	綿を生産する際に、大量の白い粉が排出され、それらは適切に廃棄されていない。キャッサバの加工に繊維状の塊が発生する。それらを利用して加工品を生産したいが、まだその用途が立っていない。	-電力生成を目的として廃棄物の焼却。 -廃棄物によってバイオガスの生成。 -廃棄物を加工し販売する
(3)	精密農業	大豆ととうもろこし	データ収集に時間がとてもかかる。特に農業経営の品質指標などに関して。例えば収穫時の穀物の損失量など。	損失のモニタリング技術でより正確なデータを得ることによって適格な判断や処置ができる。
(4)	電気系統		組合の電気系統を見直し節電	-電力ロス特定のための情報収集 -消費の精査と節電ポテンシャルの特定

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

食品加工の品質管理、工場の廃棄物の処理技術、農業のモニタリング技術、企業と新たな関係を築くための情報交換などはいつでもウエルカム、我々は大豆、トウモロコシ、キャッサバ澱粉、綿 100%の糸などを生産している。我々の工場では扱える機械や技術などに興味を持っている。



運営本部 - ナベライ/MS



組合創設者



紡績工場 I および II



サイロ・飛行場



キャッサバ澱粉工場



TRR(給油所) - ナベライ

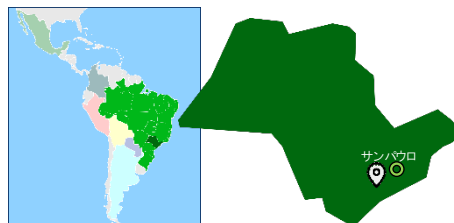
ブラジル
 サンパウロ州
 イベウナ市

⑪ イビウナ農協 CAISP

サンパウロ近郊の野菜生産地域/ カット野菜の生産



施設



位置

記入: 2024/11/22, Newton José Diniz

[1] 組織の概要

組織名	イビウナ農協 Caisp - Cooperativa Agropecuária de Ibiúna/SP		
代表者名	会長 - Antonio Dias de Oliveira 副会長 - Riuta Sato ゼネラルマネージャー - Trond Vidar Larsen		
組合員人数	49 人	職員人数	320 人
設立年	1995 年	年間売上	24,300,000.00 USD
組織紹介	<p>【歴史】1955年に設立された CAISP はサンパウロ州グリーンベルト内有数の葉物野菜生産地であるイビウナ市に位置しています。</p> <p>【活動】組合員が生産した作物は一般、オーガニック、消毒済み、根菜、フルーツなどに分類後 300 種類以上の商品に加工・包装され優秀な物流インフラにより州内 50 市以上へと配達されます。</p> <p>【展望】近年では SDG's に則りパッキングハウスのインフラ設備改善に伴いソーラーパネルを導入するなど様々な持続可能なソリューションを導入しています。今後としては月間 80t の商品を生産している現行の加工工場 (Caisp アグロインダストリー) の拡大しサンパウロ州の葉物野菜名産地としての地位を維持・強化を目標としています。</p> <p>認証: ECOCERT、Global Market Plus、British Retail Consortium (BRC) – 審査中 受賞: ベストベジタブルサプライヤー – Carrefour、生産元からの補償 - Grupo Pão de Açúcar、ベストベジタブルサプライヤー - Grupo Pão de Açúcar (2015)、GFSI Guaxinim de Bronze 賞 - Food Design (2019)、INDEX Paripassu (2024)</p>		
住所	Rod. Júlio Dal Fabbro, 290 - Rio de Una, Ibiúna, São Paulo, Brasil		
電話番号	+55 15 3248 9400		
E-mail	desenvolvimentoagricola@caisp.com.br, tqc@caisp.com.br e newton@caisp.com.br		
ウェブサイト	www.caisp.com.br e www.simplifiquesaladas.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	リーフレタス	95 ha	3,000,000 t	2024
(2)	ケール	60 ha	1,600,000 t	2024
(3)	玉レタス	74 ha	1,800,000 t	2024
(4)	ブロッコリー	78 ha	500,000 t	2024
(5)	エンダイブ*	10 ha	300,000 t	2024

*エンダイブ: 葉野菜の一種で、葉が細く柔らかいのが特徴。冬の寒い時期に収穫されるものは特に柔らかく、外側の緑の堅い葉は取り除いて白い中の葉をサラダにして食べる。

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	リーフレタス	毎週	週 6 回	毎週	週 6 回
(2)	ケール	毎週	週 6 回	毎週	週 6 回
(3)	白菜	毎週	週 6 回	毎週	週 6 回
(4)	玉レタス	毎週	週 6 回	毎週	週 6 回
(5)	キャベツ	毎週	週 6 回	毎週	週 6 回

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	CAISP の農業工場では月間 80t 以上の野菜を加工している。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

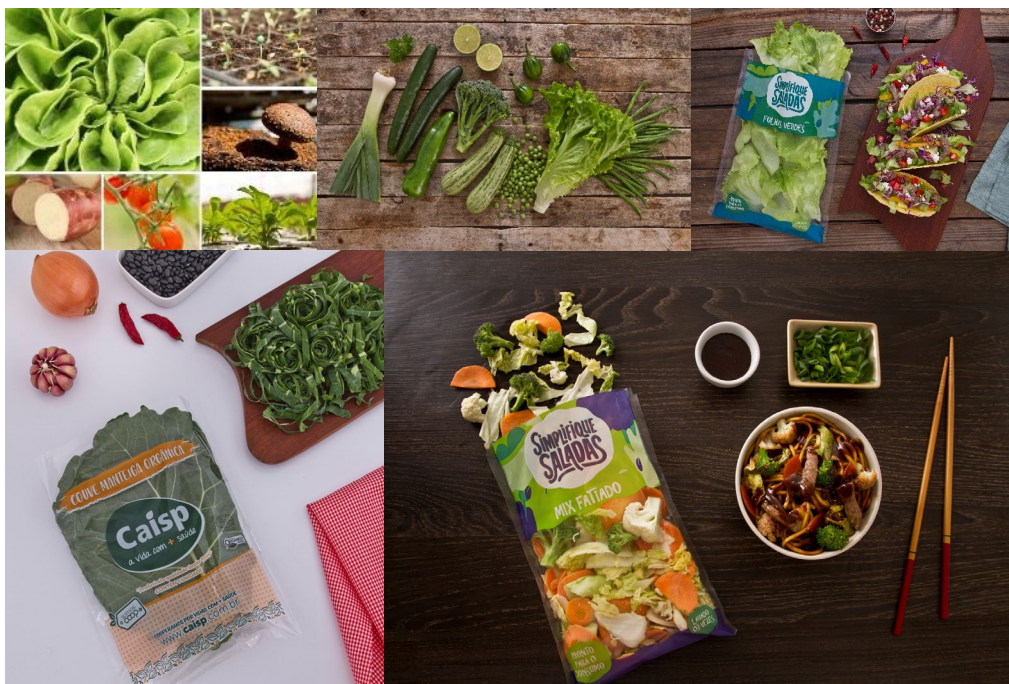
--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	マーケティング	野菜	葉野菜を農協のブランドとして確立させる。組合設立 30 年を祝して新ブランドの立ち上げ。	当組合の理念は健康で豊かな生活のための「協同組合」です。 そのために協同組合員、顧客、利害関係者とのブランド・エンゲージメントを高めることを目的としている。
(2)	農業機械	野菜	労働力不足のため多くの組合員は野菜生産を断念し穀物生産に切り替えているのが現状です。	対策としては種まき機、苗移植機、収穫機、除草機などの野菜生産のプロセスを機械化すること。
(3)	土壌	知識	土壌の硬化や、生産量を増やすための微生物の利用方法に関する情報不足は、製品の品質に影響する問題である。	ヤマカワプログラムを実施することによって目に見える結果が出ています。すなわち非常に価値のあるプログラムとして理解しており今後も継続することを願っている。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

<p>収穫後の自動化、保管、物流、生物学的製品、スマート農場システムの構築、新しい品種の種苗など生産能力向上を図る技術を用いて Caisp のブランドを高めること。</p> <p>スマートファーム、ヤマカワプログラム、有機製品、農業 4.0。</p> <p>農協にはブランディング、マーケティング、対外貿易、ロジスティクス、AI。</p> <p>当初は農業機械の輸入を試みましたが、テスト用の機材の輸入から壁にぶつかり、またコストや輸入税なども破格で断念しました。成功させるためにはまだまだ色々学ぶことがあると痛感しています。我々の生産用向上の為に土地面積の利用率を高める、書類などのシステム化によるスマート農業システムの構築が重要かと思います。</p>



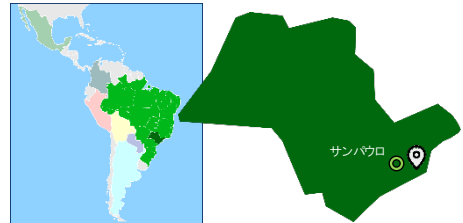
ブラジル
サンパウロ州
モジダスクルーゼス市

⑫モジダスクルーゼス農村組合 SRMC

サンパウロ近郊都市で多種多様な野菜生産



施設



位置

記入: 2024/12/04, Bruno Hayami Takahasi

[1] 組織の概要

組織名	モジダスクルーゼス農村組合 SRMC – Sindicato Rural de Mogi das Cruzes		
代表者名	FABIO KAZUNORI DAN		
組合員人数	500 人	職員人数	18 人
設立年	1965 年	年間売上	-
組織紹介	<p>【歴史】 58 年前に設立されたモジダスクルーゼス農村組合は今では 1 千㎡の広大で設備の整ったビルを本部にアルト・チエテ地域の組合員 500 名をサポートするべく 19 名の従業員を配置しています。アルト・チエテ地域はサンパウロ州 12 の市によって形成されるグリーンベルトとして知られており 6.2 万 ha の生産面積を 3645 戸以上の農家がベルトを維持しているのです。</p> <p>【活動】 モジダスクルーゼス農村組合は国、州、地域、市の公私各段階で農業者を代表し活動の一環として、農業者の経済的階層、環境、およびアルト・チエテの農村地域に住む人々の利益を擁護しています。</p> <p>【展望】 加えて、当組合は人事、法務、農学、会計の各部署にて関連問題へのサポートサービスのほか FAESP/SENAR(国立農村訓練サービス National Rural Learning Service)を通じて無料の講義、研修などの追加の特典をも組合員に提供しています。</p>		
住所	Avenida Japão, 205 – Bairro: Alto do Ipiranga – Mogi das Cruzes, SP		
電話番号	55(11) 47238233		
E-mail	sindicatoruralmc@terra.com.br		
ウェブサイト	www.sindicatoruralmc.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	葉野菜	18,000 ha	500,000 t	2010*
(2)	きのこ	308 ha	4,000 t	2010*
(3)	柿	1,884 ha	55,000 t	2010*
(4)	観葉植物	300 ha	18,500,000 t 鉢 / 3000 束	2010*
(5)	アテモヤ・ピワ	5,000 ha		

* 2010 年の地域生産調査 LUPA 結果、組合として組合員の生産量の情報収集はできていない

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	葉野菜	年中	年中	年中	年中
(2)	きのこ		3 か月間収穫		3 か月間収穫
(3)	柿	7 月-8 月	2 月-5 月	7 月-8 月	2 月-5 月
(4)	観葉植物		シーズン		シーズン
(5)	アテモヤ・ピワ		収穫期		収穫期

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農村観光	農村観光は生産量の面で競争力の低い小規模農家の選択肢として発展している。コロナ禍の影響で都会から離れて自然と触れ合いを求める人々が続出し新しい観光事業として注目を浴びている。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

CKC による日本への研修プログラムや、地域の日系文化の発展と維持を支援するさまざまなテーマとピックに関するウェビナーに参加しました。現在、他国の製品との競争により、地域では日本の製品や機器の使用が少なく、市場に出回る日本の機器は限られており、価格も高いです。果物の小規模生産者の中には、剪定ばさみを主に使用している人もいますが、他の生産者は古いトバタ機器を使用しており、これらの機器は更新されることがほとんどありません。地域の生産者の中には、耕盤層の解消のためにヤマカワ・プログラムの有効微生物を利用している人もいます。また、競争力を高め、より質の高い製品を生産するために、より持続可能で経済的な管理方法に強い関心を抱いています。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	農業資材・道具	商品全般	小規模農家に適し尚且つ価格がリーズナブルな機材が少ない。(市場にこの条件を満たす機材が少ない。)	低価格で機材を入手する手段を模索中。
(2)	種苗・品種	野菜	バイオフィオर्टィフィケーション(生物学的栄養強化)によって栄養強化された種苗が不足している。	より多くの品種そして市場の動向に沿った栄養強化された種苗を扱う。
(3)	農業資材	野菜・果物	リーズナブルな価格の農協資材の不足	入手しやすかつ効率の良い製品を模索する または農業機材の仕様を軽減しても効率が上がる生産方法を学ぶ

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

日本の生産者のなかには、より持続可能な生産方法を用いているところもあるし、ひとつの製品からさまざまな副産物を生産しているのを見るのは興味深い。日本とブラジルで行われている実践について経験を交換することができれば、山川プログラムのように双方の農業に大きなプラスとなるだろう。日本の企業が人材不足で悩んでいる小規模農家の為にとどのような物を開発しているのか興味がある。

地域産品の写真



切り花



鉢植えの花



鉢植えの花



レタス



アテモヤ



しめじ



枇杷



ミニトマトの生産



生産者マーケット



トラクターによる農村観光



柿

ブラジル
サンパウロ州
ピラールドスル市

⑬ APPC 農協/サンパウロ州柿生産者組合 APPC

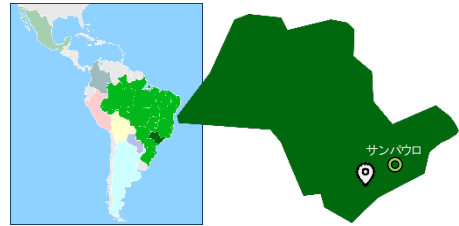
果物輸出に取り組む農協 - 団結とイノベーションによる果物生産 -



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/12/5 Carolina Kawatsu

[1] 組織の概要

組織名	APPC 農協/サンパウロ州柿生産者組合 Cooperativa Agroindustrial APPC / Associação Paulista dos Produtores de Caqui		
代表者名	Paulo Shigueru Toyoda		
組合員人数	80 人	職員人数	33 人
設立年	2012 年	年間売上	60 万 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 2012 年に組合員の生産作物を販売するために設立。組合員は様々な果物を栽培しており、当組合ではパッキングから販売・流通などを主に担っています。</p> <p>【活動】 サントス港やピラコーポス空港・グアルーリョス空港へのアクセスもよい場所に位置しているため、海外への輸出も増加傾向にあり、主にヨーロッパ・カナダ等の市場へ向けて販売しています。</p> <p>【展望】 近年では顧客満足度向上のためグローバルギャップ認証を取得、さらに組合員へのサポートとして品質・技術指導員を配置もしています。</p>		
住所	Av. Antônio Lacerda, 1221. Bairro Campo Grande, Pilar do Sul, São Paulo, Brasil		
電話番号	+55 15 3278 3589		
E-mail	contato@appc.coop.br		
ウェブサイト	www.appc.coop.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	ブドウ	100 ha	580 t	2024
(2)	デコボン	70 ha	50 t	2024
(3)	柿	120 ha	500 t	2024
(4)	アテモヤ	70 ha	400 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	ぶどう	7 月～9 月	1 月～4 月		
(2)	デコボン	11 月～4 月	4 月～12 月		
(3)	柿	8 月	2 月～4 月		
(4)	アテモヤ	7 月～8 月	4 月～10 月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	ぶどう	カナダ、ヨーロッパ、アジア	150 t
(2)	アテモヤ	カナダ、ヨーロッパ、アジア	200 t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材・機械	剪定ばさみ、洗浄薬品、糖度計

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

中神種苗(種苗試験)、剪定ばさみ(サボテン)、糖度計(アタゴ)

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	保管	果物	収穫後の問題	収穫後のプロセスを改善し、果実の保存期間を延ばすための製品や機器を見つけること。
(2)	包装	果物	新しいパッケージングの模索	革新的かつ製品寿命延長のためのパッケージング
(3)	土壌	果物	現在の生産量を今後も維持・増加していくことを目指しており、土壌の改善に取り組んでいく必要がある。ぶどうでは土壌伝染性フザリウム病(苗立枯病)などの問題がある。	有機物・微生物の働きによる土壌改良剤などを導入する。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

土壌管理・栄養。日本は先進的な技術を持ち、生産者側に立って開発している。これらの改良にアクセスできることを望んでいる。



柿「Rama Forte」



ブドウ「ベニ・イズ」



アテモヤ



デコボン



パッキングハウス



ブドウ「ピラールマスカット」

ブラジル
 サンパウロ州
 ピラールドスル市

⑭ 南伯ピラールドスル農協 SulBrasilPilar

サンパウロ近郊の果物産地



COOPERATIVA AGRÍCOLA
 SUL BRASIL

ロゴ



施設



位置

記入：2021/03/19, Miguel Yoshihico Mizobuchi

[1] 組織の概要

組織名	南伯ピラールドスル農協 Cooperativa Agrícola Sul Brasil de Pilar do Sul		
代表者名	Rogério Akio Saito		
組合員人数	88 人	職員人数	0 人
設立年	1969 年	年間売上	18000,000 USドル
組織紹介	農協の歩んできた成り立ちは日系社会と大きく関わりがあり、生産技術のサポートなどの活動は日系社会を中心としている。農業用品及び東洋商品の販売をしている。		
住所	Rua Dom Lúcio Antunes de Souza, 290 – Centro, Pilar do Sul, São Paulo, Brasil. CEP: 18185-000		
電話番号	+55 15 3278-1144/ +55 15 3278-1919		
E-mail	sulbrasilpilar@gmail.com		
ウェブサイト	https://www.facebook.com/casbpilardosul/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	ぶどう	40 ha	600 t	2020
(2)	アテモヤ	20 ha	300 t	2020
(3)	柿	50 ha	1000 t	2020
(4)	野菜	10 ha	50 t	2020

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	ぶどう	7 月/9 月	12 月～4 月		12 月～4 月
(2)	アテモヤ	9 月/10 月	4～8 月		4 月～8 月
(3)	柿	7 月/8 月	2 月～4 月		3 月～5 月
(4)	野菜				

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材	農業用品の販売(肥料・農薬・はさみなど)
(2)	小売業	東洋商品の販売

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	包装	ぶどう・柿・根菜類	加工面では、パッキング時間をより効率化する必要がある。パッキング後、商品の保存期間の改善、農作物の保全や品質の管理面での強化する必要がある。	パッキング時間の短縮が見込める方法を模索。新しい包装技術(包装資材や技術)を導入する。
(2)	加工	全農産物	規格外の果物の活用方法が無く、付加価値製品を開発し、販売利益を上げる必要がある。	付加価値を付けた商品の開発。果物の加工技術について学び、また加工された果物の市場の知識が必要。
(3)	農業資材	ぶどう・柿・アテモヤ	最新の機材や技術に乏しい。	より長期保存が可能である機材の導入の検討。日本製品の輸入業者とパートナーシップを構築する必要がある。

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

--



ブラジル
サンパウロ州
サンミゲールアルカンジ
ヨ市

⑮ 南伯サンミゲールアルカンジヨ農協 CASBSMA

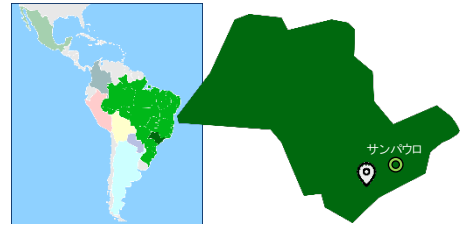
サンパウロ近郊の果物産地



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/11/24, Roberto Y Furuya

[1] 組織の概要

組織名	南伯サンミゲールアルカンジヨ農協 CASBSMA: Cooperativa Agricola Sul Brasil de São Miguel Arcanjo		
代表者名	Roberto Yoshinori Furuya		
組合員人数	430 人	職員人数	17 人
設立年	1969 年	年間売上	1,000,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 CASBSMA は 1969 年に設立され、サンミゲールアルカンジヨの農家を支援するために 55 年以上にわたり活動してきました。創立以来、この協同組合は地域の農村開発に不可欠な存在であり、地元生産者の統合と強化を促進しています。</p> <p>【活動】 専門の技術チームと適切なインフラを備えた CASBSMA は、技術支援から収穫物の販売まで、組合員に対する全面的なサポートを提供しています。また、生産性と農家の生活の質を向上させるために、持続可能な実践やトレーニングも推進しています。</p> <p>【展望】 CASBSMA は、地域の農家を支える柱としての役割を続け、家族農業と地域の持続可能な発展を強化することを目指しています。当団体の目標は農村の労働を尊重し、生産者間の結束を促進し、地域社会全体に利益をもたらすことです。</p>		
住所	Estrada Vicinal Kunihei Ariga S/Nº Km 4, São Miguel Arcanjo, São Paulo, Brasil		
電話番号	Tel: +55 15 3279-1211/ Cel: +55 15 99719-2407		
E-mail	sulbrasilma@yahoo.com.br		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	ぶどう	80ha	1600 ton	2024
(2)	びわ	60ha	400ton	2024
(3)	柿	350ha	17500 ton	2024
(4)	ドラゴンフルーツ	20ha	500ton	2024
(5)	野菜(ハウス栽培)	50ha	5000ton	2024
(6)	核果類(桃など)	30 ha	750 ton	2024
(7)	アテモヤ	20 ha	400 ton	2024

*アサイーに似たヤシ

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	ぶどう	7月-9月	1月-4月		
(2)	びわ	12月-1月	5月-9月		
(3)	柿	3月-7月	2月-7月		
(4)	ドラゴンフルーツ	6月-8月	1月-3月		
(5)	野菜(ハウス栽培)	1月-12月	1月-12月		
(6)	核果類(桃など)	6月-7月	10月-12月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材	鋏、器具一般、網、針金等
(2)	農産物加工	野菜と果物のパッケージ

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

過去に農業用品関連で日本と取引をした経験がある。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	種苗・品種	鋏、器具	生産コストが高い一方で、生産物の価格が低く、生産効率が悪い。	耐性の強い品種や適度な栄養バランスを兼ね備えた生産技術。
(2)	農業資材・機材	果樹	慢性的な人手不足、機械化・自動化を通してこの人手不足を解消したい	自動化、アンドロイドなどのロボット導入など
(3)	農薬	微生物防除資材	土壌改良の技術。	微生物防除資材や酵素等で土壌改良をする。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

農業用品、機材、種、包装(収穫後の保存用)	
-----------------------	--



ロゴ



ブドウ



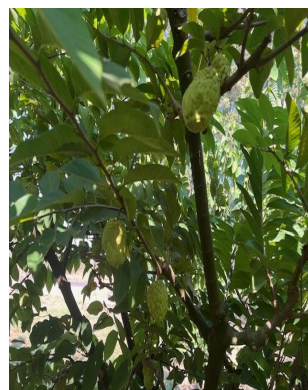
ブドウの展示、市主催ブドウフェスタにて



ピーマン(ハウス栽培)



枇杷



アテモヤ



ドラゴンフルーツ栽培

ブラジル
サンパウロ州
レジストロ市

⑬ レジストロ日伯文化協会 Registro

茶に加えて餅米・いぐさを生産

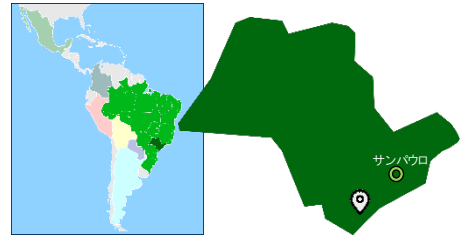


Associação Cultural
Nipo-Brasileira de Registro

ロゴ



施設



位置

記入: 2024/03/06, Fukuzawa, Shimizu, Hijioka

[1] 組織の概要

組織名	レジストロ日伯文化協会 Associação Cultural Nipo-Brasileira de Registro		
代表者名	Irineu Makoto Kawajiri		
組合員人数	185 人	職員人数	4 人
設立年	1994 年	年間売上	97,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】1922年に設立されたものの、第二次世界大戦中に活動を停止し、1947年に非日系の会長を迎えた「レジストロ・ベースボール・クラブ(RBBC)」として再び活動を開始しました。元の協会のメンバーも参加していましたが、新しい法人格の設立は、日系コミュニティに対する残存する反感を和らげるための戦略でした。RBBCはスポーツとレジャーに焦点を当てていましたが、1994年に「レジストロ日伯文化協会」(通称「文協」)が設立され、文化や教育の強化、歴史の保存と次世代への継承を目的として活動を開始しました。レジストロ文協は、地域全体の日系ブラジル人コミュニティの拠点として、移民の先駆者たちが築いた遺産を記憶し、伝統を守り続けています。</p> <p>【活動】レジストロ文協は毎年、新年会、盆踊り、灯籠流し、敬老の日など、日本の伝統文化を祝う20以上の文化イベントを開催しています。最近では、こどもの日、コスプレコンテスト、ポップカルチャーに焦点を当てたイベントも取り入れています。これらの活動は、協会のメンバーによって企画・運営され、非日系のボランティアも参加しています。また、SESC、Senac、市観光局(Comtur)などの地元団体との協力関係も重要で、主要な祭りの開催、地域観光の発展、移民の歴史と地域統合に焦点を当てた農村地域の活性化プロジェクトを共同で進めています。現在開発中の「日本移民の道」や「お茶の街道」は、移民がたどった古い道や、茶、モチ米、ジュンコ(イグサ)などの伝統文化、さらにはバナナ、プブニャパーム、水牛の飼育、アグロフォレストリー(森林農業)などの新しい文化を再現するプロジェクトです。観光客は、木組みと土壁で作られた古い家屋を訪れたり、茶の新芽を摘んで飲み物を作ったり、あるいは100年近く前の日本の機械を使ったイグサの畳表の製造過程を見学したりすることで、移民の初期の時代を体験できます。これらのプロジェクトは、持続可能な観光と移民文化の価値向上、そして小規模農家の定住を支援することを目指しています。地域の文化的伝統として、70年以上続く「灯籠流し」は、地域最大のイベントであり、ブラジル国立歴史芸術遺産研究所(IPHAN)による初の移民無形文化遺産としての認定を目指しています。</p> <p>【展望】レジストロ文協は、日系ブラジル人コミュニティと地元住民との絆を強化することをビジョンと使命としています。移民がもたらした文化の価値を高め、環境を保護することで、伝統と革新の統合モデルとしての地位を確立し、農村地域の活性化と移民が築いた遺産の保存を通じて、地域の持続可能な発展に貢献することを目指しています。</p>		
住所	Rua Nakatsugawa 165, Vila Tupy Centro, Registro, São Paulo, Brasil		
電話番号	+55 13 3822-4144		
E-mail	acnbrgt@uol.com.br		
ウェブサイト	http://www.bunkyoregistro.org.br/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	紅茶・緑茶	120 ha	250 t	
(2)	餅米	150 ha	50 t	
(3)	いぐさ	60 ha	30,000 枚	
(4)	ジュサラパルプ*			

*アサイーに似たヤシ

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	紅茶及び緑茶	多年草/剪定は冬	9月～5月		
(2)	餅米	9月	1月		
(3)	いぐさ	多年草	年中		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	その他	農村観光(お茶・いぐさ・古民家などを訪問するアグリツーリズムへの取組)
(2)	不動産	移住者の民家を修復(文化遺産)
(3)	農産物加工	小規模なアグロフォレスト生産。(米、ジュサラ、果物)

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

ブラジルに拠点を置く日本企業とのパートナーシップを模索し、日本からブラジルへの移住のルーツを体験してもらおう。そのためには、税制優遇措置(プロアク)を通じて、上場家屋の修復や、そのような層からの観光客が来れるようなスペースの構造化など、資源を利用できるようにする必要がある。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	その他	農村観光	小規模生産者のトレーニング、事業計画などを今まで以上に実施し、意識改革を図る必要がある。	小規模生産なので差別化を図るべく有機栽培でお茶、いぐさ、ジュサラ、餅米などを栽培し、植栽から収穫までの流れ、または加工などの体験型の農村観光を行う。
(2)	種苗・品種	餅米	気候に合い差別化を可能にする品種を調査し小規模生産者達に提供する。	新しい品種の餅米(黒餅米など)を栽培実験する。またおかきやせんべいなどの加工品の可能性を模索する。 有機栽培市場に向けて、ジュサラ、緑茶、紅茶などの新製品を模索する。
(3)	加工(カット・乾燥)	イグサ	イグサの生産は手作業であり、また、50年以上前の古いイグサを編む機械しか保有していない。	生産過程で昔の伝統的な方法を用いることによって観光面でのアピールを期待できる。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

お茶の乾燥機、精米機、ござ織機、ジュサラの収穫機及び加工機(パルプ抽出、凍結乾燥)。
ござの製造で余ったものから手芸品などを制作、またイグサを用いた新しい商品の模索。
アグロフォレストリーシステムによって生産された大西洋岸森林(マッタアトランチカ)の果実から作ったジュースを瓶詰にする機材。

- 高濃度なアントシアニン(アサイーの4倍)を含むジュサラのような製品は、日本の食品サプリメント市場で関心を呼んでいるが、季節性と加工の難しさのため、この製品は十分に活用されていない。大西洋の熱帯雨林で採れるエキゾチック・フルーツも同様で、そのポテンシャルが十分に引き出されていない。そのためには、迅速な加工(凍結乾燥、脱水など)を可能にし、小規模生産者でも保管・販売が可能な小規模設備が必要である。
- 移民の建物を改築・修復するための建築技術の移転。Canela Preta(*Ocotea catharinensis*)など地元の木材を使用していたが、日本の伝統的な大工技術(継手・挽物)を採用しており、現在ではこの技術を理解する専門家が不足しているため、消滅の危機に瀕している。



イグサの生産



レジストロ寿司祭り



灯籠流し



もち米



ジュサラ生産



お茶の街道

ブラジル
 サンパウロ州
 カッポンボニート市

⑰ カッポンボニート農協 CACB

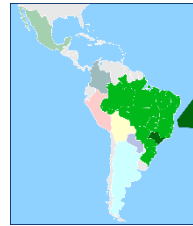
サンパウロ州の穀物生産農協 - 高水準の技術による多様な農業生産



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/11/24, Luiz Carlos Mariotto

[1] 組織の概要

組織名	カッポンボニート農協 CACB: Cooperativa Agricola de Capão Bonito		
代表者名	Emilio Kenji Okamura		
組合員人数	102 人	職員人数	63 人
設立年	1994 年	年間売上	59,750,000.00 USドル
組織紹介	CACB カッポンボニート農協はサンパウロ州の南西部、カッポンボニート市にあり、州都から 240 km の距離に位置している。サントス港(300 km)及びパラナグア港(300 km)に近い距離に位置しており、サンパウロ州の非常に恵まれた土壌と気候の環境の中で国内最大級の収穫量を誇ると自負している。道路網が整っており、海岸山脈 セーラ・ド・マールに近く、平均標高は 800mである。年間を通じて平均気温は 12°Cから 28°Cである。年間平均降雨量は 1200 ミリであり、肥沃度の高い粘土質の土壌に恵まれている。 CACB は日系農家で構成されており、高度な技術で農業の多様化を実現している。CACB はコチア産業組合に所属していた 48 人の農家によって 1994 年 7 月 4 日に設立された。当時の主要農産物はジャガイモとフェイジョン豆だった。		
住所	Av. Plácido Batista Silveira, 355G, Capão Bonito, São Paulo, Brasil		
電話番号	55 15 3543 8300		
E-mail	cacb@uol.com.br		
ウェブサイト	https://cacb.coop.br/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	25.000 ha	90.000 t	2024
(2)	とうもろこし	13.000 ha	82.000 t	2024
(3)	小麦	6.000 ha	13.000 t	2024
(4)	フェイジョン豆	1.200 ha	3.600 t	2024
(5)	ソルガム	600 ha	3.600 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	9 月/11 月	1 月/3 月		
(2)	とうもろこし	1 月/3 月	7 月/9 月		
(3)	小麦	4 月/5 月	8 月/10 月		
(4)	フェイジョン豆	6 月/8 月	10 月/12 月		
(5)	ソルガム	1 月/2 月	7 月/9 月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	大豆	中国	70.000 t (2024)
(2)	とうもろこし	中国、日本、アラブ首長国連邦	60.000 t (2024)
(3)	ソルガム	中国	2.250 t (2024)

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材	農業用品及び機材の販売
(2)	貯蔵	穀物の集荷及び貯蔵
(3)	技術指導	畜産農業技術サポート

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

日本企業とはまだ取引をした経験が無い。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	その他	穀物	これ以上拡大する土地が無い。	子会社の設立/組合員の後継者がロライマ州、 Rondônia州、トカンティンス州などの新しい土地を開拓する。
(2)	その他	果物/野菜	小規模生産者は収入源拡大に苦勞をしている。	果物及び野菜の小規模生産者をまとめグループで活動する方法を模索する。農協の資金を活用して産業化から商業化までのプロジェクトを立ち上げることによって彼らの収入拡大を図り、後継者を農業に留めさせる。
(3)	輸出	大豆、とうもろこし、フェジョン豆	輸出に商社などの仲介業者が介入することが多いため、日本とブラジル間の農協同士でビジネスを展開することを希望したい。	直接販売を行い、仲介者の介入を避ける。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

日本が開発した低気圧で果物や野菜を乾燥させる乾燥機。
 デジタル農業 4.0、ドローンを用いて土壌の肥沃度や植物の養分をマッピングする技術。
 薬品散布用の高性能なドローン、AI 技術など。
 我々の大豆とトウモロコシを日本の農協に直接輸出したいと思っている。
 現在はアメリカの商社が介入して中国へ輸出している状態。



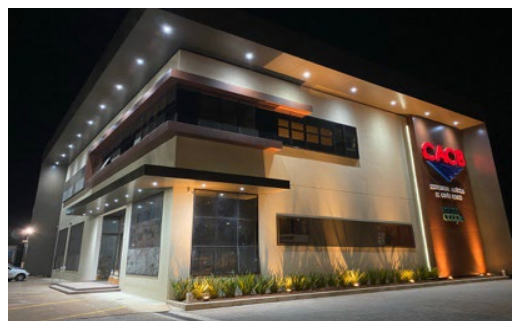
ドローンを使用したマッピング・農薬散布



CACB/IAO 試験農場にて、大豆栽培研修



CACB 本部



CACB 本部

ブラジル
サンパウロ州
グアタパラ市

⑱ グアタパラ農協 COAG

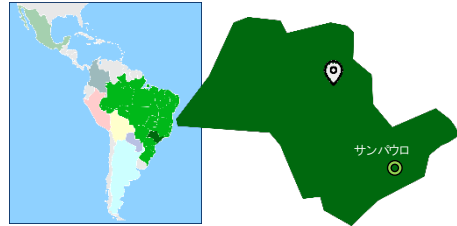
鶏卵に特化する農協



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/21, Bianca Borges

[1] 組織の概要

組織名	グアタパラ農協 COAG: Cooperativa Agrcola de Guatapar		
代表者名	Antonio Leoneti Filho		
組合員人数	22 人	職員人数	85 人
設立年	1994 年 11 月	年間売上	17,800,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 グアタパラ農協(COAG)は、1994年11月22日に21人の創設メンバーによって設立されました。創立以来、協同組合は地域の農業生産者を支える柱として、卵の生産と販売に力を入れてきました。その活動は、品質と法的・衛生要件の遵守に重点を置いています。</p> <p>【活動】 COAGの主な活動は、組合員が提供する生産物の共同販売であり、特に鶏卵、平飼卵、ウズラの卵の生産が主となっています。協同組合の本部に入荷された卵は、連邦検査サービス(SIF)および保健省の基準に従った厳格な準備プロセスを経て、消費者への品質と安全性を保証します。これらは、州都を含む複数の自治体へ販売・出荷されています。</p> <p>さらに、COAGは組合員に対して、バランスの取れた飼料、ワクチン、家禽の維持に必要な資材の提供など、重要なサービスも提供しています。当組合は、生産から販売までのすべてのプロセスを厳密に管理し、製品の追跡可能性と品質を確保しています。</p> <p>【展望】 COAGは、卵の生産と販売において品質、持続可能性、組合員の福祉を優先し、業界のリーダーとしての地位を確立することを目指しています。今後の目標としては、卓越性と消費者の満足への取り組みを維持しつつも市場での活動を拡大することです。また、生産者への技術支援と高品質な資材の提供を続け、生産チェーンを強化し、地域の農村開発への貢献も継続していきます。</p>		
住所	Rodovia Mario Maziero, km 2,7, Bairro Mombuca, Guatapar, So Paulo, Brasil		
電話番号	+55 16 3973-0011 / 99723-9963		
E-mail	coag@coag.com.br		
ウェブサイト	http://www.coag.com.br/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	鶏卵	—	357,42 箱 (1 箱 30 ダース)	2023
(2)	養鶏用飼料	—	20,372,622 t	2023

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	鶏卵				
(2)	養鶏用飼料				

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材	動物用の薬品の販売

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

ブラジル中央農業植民協同組合 (Notakyo)との財政的パートナーシップ。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	包装	鶏卵	消費期限前の輸送、加工、販売などのプロセスで大量の卵の破損や卵が腐ってしまうことで大損害を被ってしまう。	低価格のパッケージ、かつ衝撃に強く、カビや卵の表面の結露防止に優れている素材。また卵の殻の品質向上の飼料付加物が必要。
(2)	農業機械	鶏卵	鶏卵の汚染やプレートで茹で上がってしまうことを防ぐため、低温殺菌技術を習得する。機材のメンテナンスコストは非常に高い。	卵割、低温殺菌技術及び充填機能を持ち統合システムで自動調整できる機材の輸入。
(3)	洗浄	卵の殻	卵の殻などの大量のゴミ。蠅のコントロール。	卵の殻を洗浄・乾燥し薬品用の水酸化カルシウムに加工する。それに伴ってゴミの量が減り、生産者の収入源ともなり、また蠅の量も減ると考えている。
(4)	精密農業	モニタリング	WiFi 経由でモニタリング・データ記録。	携帯用のデータ収集ができる機材。パソコンの知識が少ない人でも扱えるソフトウェアのインターフェースが望ましい。

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

加工



卵商品のロゴ



取扱商品



サイズ振り分けセンター



採卵用鶏舎

ブラジル
サンパウロ州
グアタパラ市

① JATAK 農業技術普及交流センター IPTDA

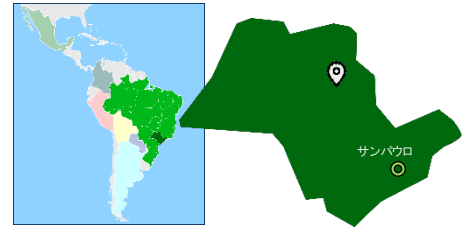
日本人が最初に移住したグアタパラ移住地の研究機関



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/12, Julio Yoji Takaki

[1] 組織の概要

組織名	JATAK 農業技術普及交流センター IPTDA-JATAK: Instituto de Pesquisas Técnicas e Difusão Agropecuária da JATAK		
代表者名	Julio Yoji Takaki		
組合員人数	36 人	職員人数	
設立年	2001 年 1 月	年間売上	
組織紹介	<p>【歴史】 IPTDA-JATAK は、農業生産に応用される技術の普及を支援する非営利団体です。2001 年 1 月の設立以来、この研究所は農業分野における変革の担い手として、研究、研修、戦略的パートナーシップを通じてイノベーションと持続可能な開発を促進してきました。</p> <p>【活動】 IPTDA-JATAK は、農業と畜産の強化に向けたさまざまな活動を展開しています。主な取り組みは以下のとおりです：農家、協同組合、協会との連携によるフィールド調査や試験の実施、知識の普及と能力向上のための講習会、講演会、セミナー、現地見学会の開催、-団体間の交流を通じた経験と優良事例の共有、-大豆、トウモロコシ、サトウキビ、落花生、野菜（葉物や豆類）など、さまざまな作物への新技術の研究と普及、害虫や病気の生物的防除に関する実験（線虫の管理を含む）、農業におけるバイオセキュリティの継続的なプロジェクト、-カンピーナス農業研究所（IAC）などの機関との連携による管理と施肥の研究、農産物への付加価値の創出を通じた持続可能性と生産者の収益性の向上。</p> <p>【展望】 IPTDA-JATAK は、農業技術の研究と普及における卓越したセンターとして認められ、農村セクターの持続可能な開発に貢献することを目指しています。研究所は、戦略的パートナーシップ、技術革新、生産者への継続的な研修を通じてその影響力を拡大し、生産性の向上、環境保護、生産チェーンへの価値創出に焦点を当てています。</p>		
住所	Fazenda João Martins s/n, Guatapar, So Paulo, Brasil		
電話番号	+55 16 99992-5787		
E-mail	Juliotakaki2016@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

+	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	期間限定（とうもろこし、大豆、サトウキビなど）	800ha	大豆 50 袋/ha トウモロコシ 100 袋/ha サトウキビ 100t/ha	2024/2025
(2)	果樹	10ha	ドラゴンフルーツ 16t/ha ライチ 7t/ha	2024/2025
(3)	野菜	10ha	ニンニク 10 t/ha レンコン 20 t/ha	2025

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	とうもろこし/大豆/落花生	11 月/12 月	2 月/3 月/4 月		
(2)	果樹（ライチ/ドラゴンフルーツ）	年中	12 月/1 月		
(3)	野菜	年中	年中		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	付加価値向上化に関するコース。
(2)	その他	バイオコントロール/持続可能な栽培方法、劣化した土壌の回復。
(3)	その他	園芸全般に関する講演。
(4)	市場	農産物の付加価値向上、工芸品、日系人になじみのある食品の販売を目的とした市場の開催と宣伝を行う。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

農業生産における副産物の有効活用(付加価値向上)、養鶏場の廃棄物の活用、食品加工、バイオテクノロジー
--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	土壌	全般	農業への使用によって土壌の栄養バランスが崩れ病気や害虫などによって劣化した土壌の回復。化学薬品を過剰に使用することによって土壌の生産性が大幅に下がる。特にハウス栽培などの土壌改良の技術が少なく、生産物の損失などの深刻な問題が発生する。現在土壌改良中のハウスの面積は 5,000m ² 。	持続的可能な農業。ぼかし肥料や輪作などを用いて、化学薬品の使用を極力減らす。
(2)	害虫・害獣	野菜	生産性の低さ。病気や害虫のコントロールに困難があるため、生産性が低くなっている。野菜や果物の生産量の 70% までの損失がある。	病気や害虫を制御・コントロールすることができる優れた管理の仕方やシステムや新しい方法を見出す。
(3)	精密農業	野菜・果物・穀物	ハウス栽培及び果物生産者たちへ害虫や病気を制御するための新しい技術導入の必要性を認識させることは困難である。バイオコントロールの技術はまだ新しい技術であるため、生産者は受け入れるのに抵抗がある。	微生物を使用した資材は様々な害虫や病気のコントロールに非常に効果的な手段として用いられる。野菜生産にかかる衛生監査が厳しくなっている近年では特に注目を浴びている分野である。
(4)	食品加工及び販売	野菜、果樹、工芸品	市場開催の初期段階であるため宣伝の改善や商品を増やす必要がある。	地域全体で市場の宣伝をし、付加価値の高い商品の数や品質を増やす。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

生物的防除、土壌の効率的な使用及び保全、害虫と病気を防除するためのエッセンシャルオイルの使用、養鶏場の廃棄物の活用、食品加工。持続可能な農業を推進する技術。害虫及び病気の防除のより効率の良い代替案を模索。高品質な食料品の生産。



レッドフルーツプロジェクト(農場研修)



高付加価値な野菜栽培の講演



コロニアの市場(2024 年開始)

ブラジル
 サンパウロ州
 バストス市

②0 バストス地域鶏卵生産者協会 APROBARE

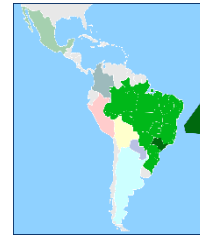
鶏卵生産地バストスの生産者協会 - 団結・拡大・発展 -



ロゴ



施設



位置

記入：2024/12/22 Sergio Kenji Kakimoto

[1] 組織の概要

組織名	バストス地域鶏卵生産者協会 APROBARE: Associação dos Produtores de Ovos de Bastos e Região		
代表者名	Sergio Kenji Kakimoto		
組合員人数	20人	職員人数	10人(ボランティア)
設立年	2014年4月5日	年間売上	無
組織紹介	<p>【歴史】 2002年、私たちはバストス商業協会で、協同組合や協力の概念に基づいた活動を行いました。私たちのグループには、協同組合銀行 Sicoob Paulista の創設メンバーも含まれています。</p> <p>【活動】 農村観光と研修プロジェクト: 私たちの街は低コストでさまざまなアクティビティを提供するエンターテインメントを提供しています。直接販売も行っており、定期的に生産者フェア、田舎の祭り、騎馬行、近隣の自治体との交流イベントなどを開催し、農村観光や教育的な観光を促進しています。</p> <p>講習とトレーニング: 養蜂、鶏の飼育、肉のカット(鶏肉、牛肉、豚肉)などのコースを実施し、イベントやフェアに参加しています。</p> <p>学術研究: 地元の大学、研究所、SENAR(全国農村学習サービス)、SEBRAE(中小企業支援機関)、農村組合と提携し、新しい生産方法の選択肢を探求しています。</p> <p>【展望】 APROBARE は、バストス市およびその周辺地域の卵生産者や他の農業従事者を結集したいという思いから生まれました。Bastos はブラジル最大の卵生産地として知られています。この組織は、生産者の利益を守り、市場での可視性と到達範囲を高めるための解決策を模索し、貢献することを目指しています。</p>		
住所	Rua Duque de Caxias, 410 Sala D, Bastos, São Paulo, Brasil		
電話番号	+55 14 99683-4300		
E-mail	sergiokakimoto@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

+	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	鶏卵	50 ha	305,000 箱	2024
(2)	肉用牛	120 ha	年間 60 t	2024
(3)	蜂蜜	20 ha	年間 15 t	2024
(4)	落花生	360 ha		2024
(5)	アボカド	5 ha	—	—
(6)	ユーカリ・マホガニー	10 ha	—	—
(7)	キャッサバ	30ha	1.200 t	2024
(8)	ムーア/パークシャー豚	0,5h	年間 200 個	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	鶏卵	年間			
(2)	肉用牛	年間			
(3)	蜂蜜	7月	9月、11月、2月		
(4)	落花生		2月-3月		
(5)	アボカド	12月(植樹)			

(6)	ユーカリ・マホガニー	1月		
-----	------------	----	--	--

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	鶏糞の処理	肥料	生物学的汚染物質を含まず、雑草の種子を含まない高品質の肥料を生産。	有機肥料として使用される作物中の汚染物質を除去することができる機器を日本のエコチャブ工場から輸入できるよう、JICA 2024 プログラムを通じて日本との提携を模索する。
(2)	品質管理	鶏卵	市場競争が激しい為商品の品質向上が重要である。	消費者に高品質な鶏卵を提供するための技術の獲得。
(3)	認証	卵油	卵から抽出した油を消費しやすいようにカプセル化を検討しているのですが効率的な技術が無い。	これらの製品を扱う企業を紹介してもらい、卵油市場を構築する。
(4)	パークシャー豚の屠畜・販売の導入	豚肉	放牧されている豚の屠畜に適した設備を有していない。	農業省へかけあい、このような豚の運搬・屠畜と許可を取得している段階。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

オーガニック野菜およびフルーツの栽培技術向上、高品質で長持ちさせる技術。農村観光の知識。観光客や常連客を魅了するアクティビティなど。道の駅。JICA の援助により日本の設備を輸入することで、養鶏場から回収した有機肥料を処理することが可能となり、エコチューブの技術を用いて生物学的汚染物質、ミズ、雑草の種子を除去することができる。この技術により有機肥料の品質が向上し、岩石粉と混合することで、アンモニア、リン、各種ミネラルを固定し、肥料の効果を高めることができる。バスターズ日本人会に属する養鶏農家のこれらの肥料は、小規模な果物や野菜の生産者に提供することができ、その結果、卵の殻や岩石の粉を混ぜた鶏糞に付加価値を与え、地域の食品、果物、野菜の生産能力向上を図る。卵油のカプセルを生産できる機会などが望ましい。新しい市場や技術を得るため、また顧客により良いサービスを提供するために、日本企業との交流は我々にとって非常に重要であると考えている。また私達は養鶏場が排出する糞尿を再利用し肥料の生産技術などを模索している。また廃棄処分される卵からオイルや美容製品など新しい商品の開発に取り組んでいる。

3-4 日本企業への期待

私たちにあってメインの生産物だけでなく堆肥などの副産物の品質をも向上させる最新技術や知識を持った日本企業との交流はとても重要です。今後も副産物の有機肥料をより効率的かつ高品質で生産する方法を模索して行きたいです。さらに、食用には適さない卵の有効活用法として卵油など美容品の原料となる価値の高いものに加工する技術を取り入れていきたいです。当組合では和牛とボンスマラ牛の飼育を始めたのですが、肉の品質を上げるために和牛の育成方法を改善する必要があります。さらに、日本の黒豚の原種でもあるパークシャー豚の飼育も始めました。現在、サンパウロ州の有識者や生産者の協力のもと農業省へ飼育・屠畜の許可を申請している段階です。この品種の豚は日本の黒豚と近い肉質を持っているようです。



ブラジル
 サンパウロ州
 ミランドポリス市

②1 弓場農場 YUBA

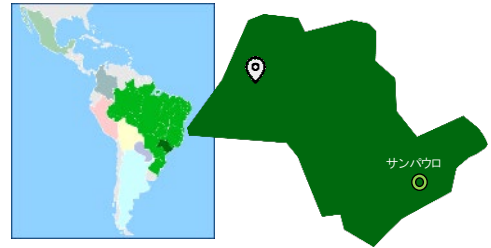
自給自足の共同生活コミュニティ



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/25, Ranil Daigo Yuba

[1] 組織の概要

組織名	弓場農場 YUBA: Associação Comunidade Yuba		
代表者名	Issamu Yazaki		
組合員人数	53 人	職員人数	3 人
設立年	2003 年	年間売上	600,000.00 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 2003 年に設立された弓場農場は、日本の伝統の保存、家族労働の強化、そしてコミュニティの結束を基盤としています。大都市から離れた地域に位置する弓場農場は、その独特なライフスタイルと農業への献身によって知られ、日系コミュニティの文化と価値観を今も守り続けています。</p> <p>【活動】 弓場農場は、日本では珍しいフルーツを使った手作りのジャムの生産で注目されています。その伝統的な技術は、彼らの文化的な遺産を反映しています。また、農場はコミュニティメンバー間の結束を促進し、共同作業と農業の伝統を守ることを奨励しています。非営利団体ではありませんが、弓場農場は将来的に日本への輸出を目指し、市場の機会を探求しています。</p> <p>【展望】 弓場農場は、伝統を守りながら共有しつつ、生産を拡大し、日本市場などの新たな市場に到達する機会を探求することをビジョンとしています。将来的には協同組合に転換し、生産力と商業力を強化することを目指しています。さらに、物流や技術的な課題を克服するために、能力開発や戦略的パートナーシップに投資し、製品の品質と持続可能性を確保することを追求しています。</p>		
住所	Comunidade Yuba, S/Nº, Mirandópolis, São Paulo, Brasil		
電話番号	+55 18 3708-1247		
E-mail	daigoyuba84@gmail.com		
ウェブサイト	http://brasil-ya.com/yuba/index.html https://ja-jp.facebook.com/ComunidadeYuba https://www.facebook.com/Produto-YUBA-202483290490223/ https://pitch.com/v/apresentao-daigo-93ahzd		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	グアバ	2 ha	4 t	2023
(2)	マンゴー(パルメル)	3 ha	70 t	2023-2024
(3)	椎茸	0,5 ha	1 t	2023
(4)	カボチャ	2 ha	18 t	2023

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	グアバ	年中	年中	年中	年中
(2)	マンゴー(パルメル)	4 月-5 月	12 月-3 月		
(3)	椎茸	年中	年中	年中	年中
(4)	カボチャ	年中	年中	年中	年中

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	ジャム、野菜や果物の缶詰、味噌生産などの販売
(2)	その他	農産物販売

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

経験がない。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出(農産物・加工品)	ジャム	ジャムの販売を検討しているが、輸出のための品質管理の知識が欠如している。	日本企業との連携
(2)	加工(カット・乾燥)	農産物全般、高性能乾燥機	規格外農産物を乾燥して販売したいと考えている。	日本の技術の導入
(3)	農業機械	パッキング機材	パッキングして販売している商品がいくつかあるが、それらを自動でパックできる機械が欲しい。	日本の技術の導入

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

1)ジャム販売のサポートできる企業、2)フィルムパッキング機械を製造している企業、3)生産効率を向上させられる企業
 日本企業には、特に生産効率と品質に関する日本の技術を導入できることや、ブラジルより良い価格取引が見込めること、日系の立場から祖国とさらに深い繋がりが持てることを期待しており、弓場ブランドを更に向上させたいと考えている。また、日本に在住の弓場農場のメンバーをこのビジネスに関わらせることの可能性も考えている。



加工商品例(ジャム)



栽培の様子



出荷の様子



シイタケ栽培



マンゴー栽培



グアバ収穫

ブラジル
 サンパウロ州
 サンパウロ市

② ブラジル農協婦人部連合会 ADESC

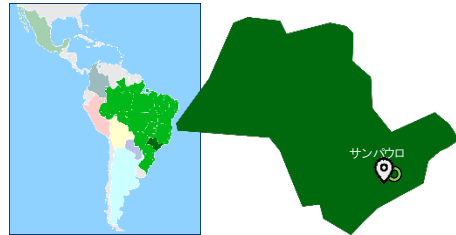
食品販売に取り組む女性組織 -生きる信念-



ロゴ



施設



位置

記入：2024/12/07, Miriam lida

[1] 組織の概要

組織名	ブラジル農協婦人部連合会 ADESC: Associação Dos Departamentos De Senhoras Cooperativistas		
代表者名	Miriam Nishimura lida		
組合員人数	96 人	職員人数	2 人
設立年	1995 年 9 月 13 日	年間売上	
組織紹介	<p>【歴史】 CAC-CC コチア産業組合は 75 の女性支部があり、2500 人の組合員で構成されていた。コチア産業組合の閉鎖により各支部の活動も終了した。しかし強い絆によってそして何より再活動の確たる意志のもとサンパウロ州の南西部、北部、グリーンベルト、更にミナスジェライス州、バイア州の婦人たちが集い指導者であるマリナ・スハラ氏の参加を得て新たな協会の結成を目指した。こうして、完全に独立した組織、ADESC-ブラジル農協婦人部連合会が誕生した。当初は経営や法律に関する知識不足からいくつかの障害がありましたが団結力、粘り強さと努力の積み重ねで乗り越えてきました。私達の組織は 30 代から 90 代までの女性で結成されており、各組合員それぞれが歩んできた人生の中に様々な経験がありその経験こそが私達の最大の財産です。</p> <p>現在は 11 支部（ Eunápolis, BA、 Capão Bonito, SP、 Pilar do Sul, SP、 Jacaré, SP、 São Paulo, SP、 Tatuí, SP、 Vargem Grande Paulo, SP、 Grande São Paulo I, SP、 Grande São Paulo II, SP、 Caucaia do Alto, SP、 Registro, SP</p> <p>【活動】 社会文化、教育、レクリエーション：子ども絵画ワークショップ；家の光」が毎年日本で開催している「世界子供絵画コンクール」のコーディネーターと参加；会員の自己啓発のための教師との対話；文化的、レクリエーション的な会合や訪問；遠足、地域の農場訪問；老人ホーム訪問など</p> <p>市場とイベント：スポンサーがいなく、運営資金が必要なのでイベント、特に市場などの活動は非営利目的で運営資金のためだけでなく、和食風の家庭的な食品を広めることを目的としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オーガニック製品（野菜、果物、ナッツ類）と多種多様な手作り製品を扱う AOBA 市場（月 2 回） ・ ヴァルジェン・グランデ・パウリスタ市で手作り料理、植物、花等を販売する市場を開催（月 2 回） ・ カッポン・ポニート市のフェア・ダ・ルア市場で手作り料理を販売（焼きそば、うどん、餃子等）自家製製品、植物、花のフェア（月 2 回） ・ Arujá-AFLORD で週末 3 日間開催されるフラワーフェスティバル。 <p>【展望】 2024 年より MOTTAINAI をテーマとしたキャンペーンを開始しています。</p> <p>MOTTAINAI とは、私たちが積み上げた歴史を次に託すことで、私たちの使命のひとつは、手作りの品を通じて日本文化を後世に伝えることです。</p> <p>目標を達成するため、私たちはワークショップを通じて、異なる都市から集まったグループ間の強力な交流を始めたいです。そこでは、料理の技術だけでなく、「もったいない」の哲学に触発された持続可能性と尊重の原則も共有します。</p>		
住所	Av. Dr. Avelino Chaves 41 VL Hamburguesa SP. CEP 05318-040		
電話番号	55-11-3835-6775		
E-mail	adescsp@gmail.com		
ウェブサイト			

ASSEMBLEIA GERAL ORDINÁRIA



REUNIÃO GERAL



ENCONTROS...



de MULHERS DA AMÉRICA LATINA



de AMIZADE



de MULHERES DE CURAÇA, BA



de confraternização



FESTA DE FLORES



FEIRA ABOA



WORKSHOP DE PINTURA INFANTIL



em CAUCAIA DO ALTO



MOTTAINAI

em PILAR DO SUL



em GRANDE SÃO PAULO-GII



e aprendendo feijoada...



ブラジル
 パラナ州
 カストロ市

②③ウニオンカストレンセ農協 UNICASTRO

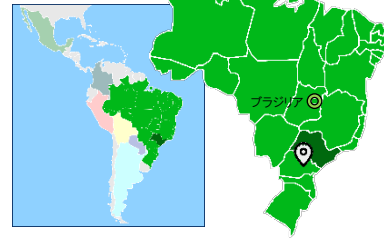
穀物を生産する農協／きのこ事業にも取り組む



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/28 Alvaro Tatsuya Yamamoto

[1] 組織の概要

組織名	ウニオンカストレンセ農協 UNICASTRO: Cooperativa Agrícola União Castrense Ltda.		
代表者名	Tsutomu Massuda		
組合員人数	144 人	職員人数	16 人
設立年	1996 年	年間売上	42.632.114,54 USドル
組織紹介	<p>【歴史】ウニオンカストレンセ農業協同組合（UNICASTRO）は、1996年にかつてのコチア農協の活動を引き継ぎ、組合員に対する資材の購入と生産物の販売を支援する形で活動を開始しました。</p> <p>【活動】当組合はいくつもの経営モデルを経て、現在は Stakeholder による経営モデルを採用しています。大豆、トウモロコシ、小麦、ジャガイモの生産に取り組んでおり、この 1 年ではキノコの販売を新たなプロジェクトとして開始しました。すでにキノコ生産が盛んな地域の生産者と連携し、南部地域での新たな生産者グループの形成を促進することを目指しています。また、独自の研究所で生産したミニ根菜を使用し、制御された温室でのエアロポニックス技術による種用ジャガイモの生産を行っています。これにより、種子の品質向上と、高い生産性と品質の保証を実現しています。</p> <p>【展望】当組合は、日系人によって構成され、市場で 21 年の実績を持っています。穀物（大豆、トウモロコシ、小麦）の加工、資材の販売、産業用ジャガイモの販売を主な事業としています。パラナ州中南部、クリチバに近い地域に位置しており、OCEPAR（パラナ州協同組合機構）に所属しています。また、多くの協同組合、販売店、企業とパートナーシップを結んでいます。組合員は協同組合に対して強い責任感を持ち、共通の利益をもたらす新たなビジネスに積極的に取り組む姿勢を持っています。</p>		
住所	R. Francisco de Assis Andrade, 355 - Vila Rio Branco, Castro, Paraná. CEP: 84172-400		
電話番号	+55 42 3233-4384		
E-mail	alvaro@unicastro.com.br / silvio@unicastro.com.br		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	7,000 ha	28,000 t	2022-23
(2)	とうもろこし	3,000 ha	20.000 t	2022-23
(3)	小麦	3,000 ha	6.000 t	2023
(4)	じゃがいも	700 ha	20.000 t	2023

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	10月-11月	3月-4月		
(2)	とうもろこし	9月-10月	3月-4月		
(3)	小麦	5月-6月	10月-11月		
(4)	じゃがいも	年中	年中		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

20年前に日本企業と大豆の取引の話有。豆腐と納豆用に高たんぱくな品質及び遺伝子組み換えが施していない大豆を要し、様々なサンプルを持ち帰ったが最終的には取引には至らなかった。現在、この地域で栽培されている大豆のほとんどは遺伝子組み換え作物(GMO)であり、非遺伝子組み換え大豆(NonGMO)に付加価値が付いた商談が継続的に行われているわけでもないため、GMOとNonGMO作物の区別はしていない。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	精密農業	大豆、とうもろこし、小麦、じゃがいも	機材やソフトウェア等の技術を効果的且つ実用的に活用し生産にかかるコスト削減、品質向上、環境保全等を担う。	精密機械は理解不足やサポートが乏しくあまり活用されていないことと技術面のコストが高くてしまう。
(2)	土壌	大豆、とうもろこし、小麦、じゃがいも	過度な化学肥料の使用や誤った土壌整備により劣化した土壌の改良を環境負担が少ない手法や農薬で行う方法。	化学肥料の過度な使用、並びに熱帯地域の土壌について見解のある土壌専門家に直接見ていただきたい。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

実際の農場でお試し使用し評価するための農業機器、ドローン、データ解釈のためのソフトウェア

日本とは以下の企業とビジネスパートナーを希望。

- ・当農協の生産物に付加価値を付けることができること。
- ・農業技術に富んだ企業。

1)機械と機材、2)生産、農村土地管理におけるソフトコンポーネントの導入が可能な企業。

- ・輸出を目的とした生産物の多様化



トウモロコシ栽培



トウモロコシ収穫



ジャガイモ収穫



大豆収穫



トウモロコシ収穫



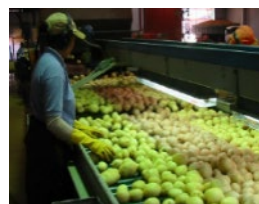
団体本部



農薬散布



大豆収穫



品質管理・選定



ジャガイモ空中栽培



麦収穫

ブラジル
 パラナ州
 ポンタグロッサ市

②4 ポンタグロッセンセ農協 Cooperponta

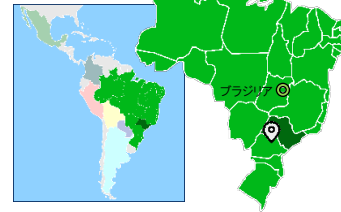
穀物に特化している農協



ロゴ



施設



位置

記入：2025/01/03, Jorge

[1] 組織の概要

組織名	ポンタグロッセンセ農協 Cooperponta: Cooperativa Agrícola Pontagrossense		
代表者名	Eduardo Kenji Yasuda		
組合員人数	33 人	職員人数	14 人
設立年	1996 年	年間売上	38.215.959,39 BRL
組織紹介	<p>【歴史】コチア農協の破産後、20 人の生産者とその家族が活動を共にすることによって 1995 年 12 月に設立された。Cooperponta はブラジル人と日系人の生産者で構成されており、わずか 10 年の活動を経て組合員の人数が 2 倍近く増えて、現在は 33 人の生産者が所属している。日々能力向上に励み、真摯に取り組んでいる。奏功し、急成長を遂げる農協になると自負している。</p> <p>【活動】 体制：パラナ州のポンタグロッサ市に位置しており、活動範囲はおよそ半径 100 kmにも及ぶ。8 つの市にまたがっており、生産者の栽培面積は合計 9,000ha になる。当団体は 14 人の従業員で構成されており、40,000t の穀物を貯蔵できる体制を有している。また 8,000t の穀物の貯蔵も受け入れることが可能であり、委託されている。 生産物：大豆、とうもろこし、小麦、オート麦、フェイジョン豆などの穀物に特化。 収入：常に輪作など正しい栽培技術を実施し、環境に優しい病害虫管理など、そして常に最先端の技術で生産能力向上に貢献し、年間およそ 965,5 万ドルの収入を得ている。 【展望】組合員の技術向上のため取引先や協力者の支援の元、講演会、技術研修などを積極的に実施している。また当農協は 2 年毎に土壌調査を実施しており、生産能力向上に努めている。また使用済みの化学薬品のパッケージを回収し、環境法に基づいて処分をしている。 所属：Cooperponta は他の農協と連携するべく、パラナ州で組合組織の中でも最も重要な OCEPAR – Organization of Paraná Cooperatives (パラナ州農協連合会) に所属している。またフリージア農協、カストロランダ農協、Coopagricola など周囲の農協と交流するために互いに連携している。</p>		
住所	AV. Newton Slaviero, 501, Ponta Grossa, Paraná, Brasil		
電話番号	+55 42 3229-2552		
E-mail	nfe@cooperponta.com.br		
ウェブサイト	www.cooperponta.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	2568 ha	11.466,663 t	2024
(2)	とうもろこし	727 ha	8.800,674 t	2024
(3)	小麦	1161 ha	2.591,193 t	2024
(4)	オート麦	242 ha	331,834 t	2024
(5)	フェイジョン豆	415 ha	1.327,157 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	10月-11月	3月-4月		

(2)	とうもろこし	8月-9月	1月-2月		
(3)	小麦	6月	10月-11月		
(4)	オート麦	3月-4月	9月-10月		
(5)	フェジョン豆	10月-11月	12月	4月	6月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

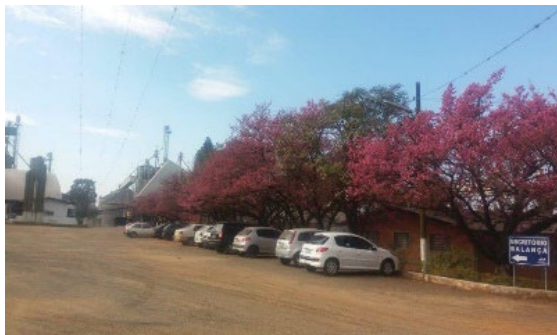
--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	種苗・品種	そば	大豆やとうもろこしの収穫後の裏作の必要性。	裏作として、そば栽培の導入

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

農業の持続可能化に向けての最新かつ経済的な技術。 日本とブラジル間でのビジネスを実現させるためのパートナーシップ



ブラジル
パラナ州
ロンドリーナ市

②5 インテグラダ農協 Integrada

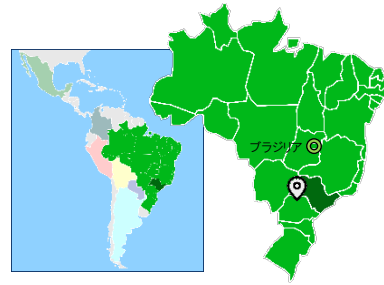
穀物・オレンジ・コーヒーを生産する大規模農協



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/12/06, Marcelo Peluso

[1] 組織の概要

組織名	インテグラダ農協 Integrada Cooperativa Agroindustrial		
代表者名	Jorge Hashimoto		
組合員人数	13.513 人	職員人数	2.100 人(幹部)
設立年	1995	年間売上	1.371.900.826 USD
組織紹介	<p>【歴史】 1995年12月6日に設立されたインテグラダ農業協同組合は、パラナ州ロンドリーナに本部を置いています。設立以来、この協同組合は農業生産者を支援し、公正さと品質に焦点を当てた農産物の工業化と販売を促進してきました。長年にわたり、生産のすべての段階における透明性とトレーサビリティを重視し、農業ビジネスにおける代表的な機関としての地位を確立しています。</p> <p>【活動】 生産者への技術的・物流的支援から製品の工業化・販売まで、生産チェーンのすべての段階で活動しています。協同組合は、製品のトレーサビリティを確保し、農場から食卓までの透明性と品質を保証しています。さらに、技術支援、資材の供給、革新的な技術へのアクセスを含む全面的なサポートを提供し、生産性と持続可能性の向上を目指しています。</p> <p>【展望】 ブラジル農業ビジネスにおける主要な協同組合の一つとして認知されることをビジョンとし、農産物の生産、工業化、販売における卓越性を追求しています。協同組合は、持続可能で革新的な実践を促進し、品質、透明性、公正さに対するコミットメントを維持しながら、組合員の継続的な強化を目指しています。</p>		
住所	Rua São Jeronimo, 200 – Centro, Londrina, Paraná, Brasil		
電話番号	+55 43 3294-7000 / +55 43 3294-7160		
E-mail	integrada@integrada.coop.br		
ウェブサイト	http://www.integrada.coop.br/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	675,708 ha	1.686.309.600 kg	
(2)	とうもろこし	492,740 ha	1.198.499.400 kg	
(3)	小麦	100,336 ha	221.072.760 kg	
(4)	コーヒー	9,456 ha	3.907.560 kg	
(5)	オレンジ	1,600 ha	858.298 箱	

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	10月/2月			
(2)	とうもろこし	3月/6月			
(3)	小麦	4月/8月			
(4)	コーヒー	多年生			
(5)	オレンジ	多年生			

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
--	-------	--------	---

(1)	濃縮オレンジ果汁(冷凍) オレンジエッセンシャルオイル	日本、イスラエル、オーストラリア、ニュージーランド、オランダ	
(2)	コーンスターチ・コーンミール・グリッツ	コンゴ共和国、アンゴラ、コロンビア、エクアドル、パナマ	
(3)	ペットフード	アンゴラ	

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材	農業用品、機械、飼料等の販売
(2)	農産物加工	オレンジ果汁

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

日本企業とは過去に冷凍濃縮オレンジ果汁の販売で取引を行った経験がある。1年目に協議・承認・交渉が行われた。2年目には売上が上昇した実績がある。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出	オレンジ果汁	品質管理や物流面での強化が必要。	

3-3 関心のある技術・製品

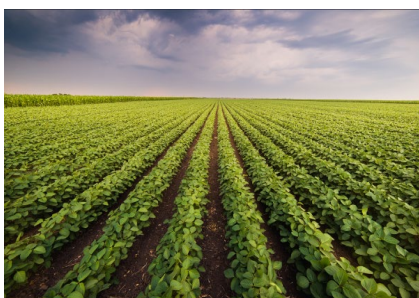
--

3-4 日本企業への期待

日本企業には、品質や物流の競争力を高めることができ、透明性のあるビジネスができることを期待する。



麦栽培



大豆栽培



果汁加工プラント



オレンジ栽培



飼料加工プラント



トウモロコシ加工プラント



トウモロコシ栽培



コーヒー栽培

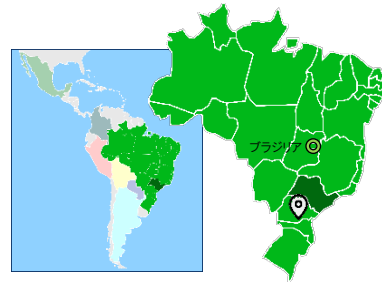
ブラジル
 パラナ州
 ビトゥルナ市

②⑥ ビトゥルナマテ茶協会 ABEM

マテ茶生産・トレーサビリティ・認証・適切な森林管理-



農場



位置

記入：2024/11/22, Naldo Hiraki

[1] 組織の概要

組織名	ビトゥルナマテ茶協会 Abem – Associação Biturunense da Erva Mate		
代表者名	Naldo Hiraki		
組合員人数	10 人	職員人数	0 人
設立年	2018 年	年間売上	-
組織紹介	<p>【歴史】 ABEM(ビトゥルナマテ茶協会)は 2018 年に設立され、マテ茶の生産における卓越性を追求する生産者たちが集まっています。設立以来、協会は最良の実践、技術、認証を採用し、ブラジルで最も高く評価される日陰栽培マテ茶の品質と持続可能性を保証することで注目を集めています。</p> <p>【活動】 厳格な品質基準に従って、国内最高水準の日陰栽培マテ茶を生産することで知られています。協会は、国内外の市場に向けて、非常に高品質な原料をさまざまな産業に提供しています。また、組合員の間で革新的な技術と持続可能な実践の採用を促進し、環境保護とマテ茶生産チェーンの価値向上に貢献しています。</p> <p>【展望】 高品質なマテ茶生産のリーダーとしての地位を確立し、持続可能性とイノベーションへの取り組みを維持することを目指しています。協会は、世界市場での活動を拡大し、ブラジルの日陰栽培マテ茶のブランドを強化するとともに、組合員の経済的・社会的発展を促進していきます。</p>		
住所	Avenida Paraná, 231 – Bituruna, Paraná, Brasil		
電話番号	+55 42 99863-8468		
E-mail	contato@abem.agr.br, naldovaz@hotmail.com		
ウェブサイト	www.abem.agr.br, https://youtu.be/KP2hie-Uixs, https://www.instagram.com/abembituruna/		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	マテ茶 (ilex paraguarienses)	6,347 ha	1,200,000 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	マテ茶 (ilex paraguarienses)		5 月/9 月		12 月/1 月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

現時点では、日本とのビジネスは行っていないが、頻繁に連絡を取り合っています。将来的なビジネスに期待しています。一方で、日本からの EM 製品を使用し、さまざまな分野で土壌のスープの使用を採用し続けています。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出(農産物・加工品)	茶	日本などの国へマテ茶の輸出を目的に中南米一の大規模な工場を建設中であります。	食の安全が課題であり、我々のプロジェクトでは安全かつ良質の商品を手掛けることを目的としています。

3-3 関心のある技術・製品

包装材、マテ茶の粉碎機及び乾燥機そして商品生産の工程を改善できる技術など。日本で訪問した企業と連絡を取り関係の強化へつながっている。現段階ではまずは新しい工場の完成を待ち初のビジネスを見込んでいます。



Ilex paraguariensis マテ茶の木



マテの茶葉の規格例



マテの茶



マテ茶



森林でのマテの様子



マテ茶で作るドリンク



マテ茶工場(建設最終段階)



マテ茶の破碎施設



最新式のマテ茶パッキング機

ブラジル
パラナ州
ノバアメリカダコリーナ市

②⑦ノバアメリカダコリーナ地域果樹生産者組合

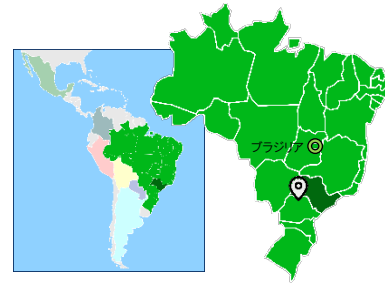
果物の生産と販売



ロゴ



施設



位置

記入：2025/03/31, Nova América da Colina, Paraná

[1] 組織の概要

組織名	Cooperativa dos Fruticultores de Nova América da Colina e Região – Nova Citrus ノバアメリカダコリーナ地域果樹生産者組合		
代表者名	Natanael Francisco de Melo (組合長)		
組合員人数	78	職員人数	13
設立年	2011	年間売上	16.000.000,00 レアル
組織紹介	<p>【歴史】 農協によるジュースの生産と工業化が奨励されていた時代に生まれたノバ・シトラスは、北部開拓地域における農業の多様化の代替手段としてオレンジを栽培し、当時衰退していた綿花産業から離れ、異なる道を歩むことになりました。コルネリオ・プロコピオ地域における農業普及プログラムの一環として開催された技術イベントをきっかけに、綿花栽培に代わる方法として、また青果市場での仕事と収入の新たな機会を求めて、6人の家族農家がノバ・アメリカ・ダ・コリーナ市において、9ヘクタールの農耕地でオレンジの栽培を始めました。コルネリオ・プロコピオ地方には23の自治体があり、主な経済源は綿花でしたが、当時は退廃の真っただ中で、人々が田舎から都市に追放されました。農業普及プログラムによるセミナー、フィールド・デイ、技術的知識のみならず生産者のモチベーションを高めるための会議のおかげで、EMATER(農業技術振興公社)は、1994年以降、新しい活動に取り組むための生産者グループを形成していきました。1998年には、11人の農家が40ヘクタールの耕地でオレンジを生産しており、第2収穫でのヘクタール当たりの平均生産量20トンでした。その過程のなかで、スタッフの組織化や公共政策からのリソースの提供に加え、食品安全基準や市場の要件を満たすインフラの必要性から、GRUPO NOVA CITRUS(ノバ・シトラス協会)が非公式な形で誕生しました。</p> <p>その後、ノバ・アメリカ・ダ・コリーナ NOVA CITRUS 果実生産者協会として公式化され、2002年には30人の組合員により、組合に関する重要事項が決められていった。それは、生産物の受入構造の増強と、分類および研磨機の近代化でした。これは、組合の成長および拡大につながっていきました。</p> <p>協会から組合体制への変化は、新たなビジネスチャンスの拡大、生産量の増加、製品の組み合わせの増加、そして主にマーケティングの正規化と合法化の必要性から生じました。</p> <p>ノバ・アメリカ・ダ・コリーナ果実生産者組合は、2011年7月1日に活動を開始しました。64名の組合員は、500ヘクタールの耕地で、平均40万箱(各箱23キロ)のオレンジを生産し、樹齢7年以上の木から1ヘクタール当たり約50トンを収穫しています。現在、当組合には17の自治体をカバーする82名以上の組合員がいます。</p> <p>【活動】 オレンジ、アボカド、パパイヤ、パイナップルの生産・販売と生産者への技術支援。</p> <p>【展望】 高品質な果物の生産、加工、販売の代表的な組合となり、組合員、従業員の成長に貢献し、何よりも最終消費者が満足する果物を提供すること。</p>		
住所	Rodovia Pedro Baggio – PR 525 – Km 10,850 n°s/n, Nova América da Colina, Paraná, Brasil		
電話番号	Escritório: +55 43 99928-4146, +55 43 99667-6543		
E-mail	cooperativanovacitrus@gmail.com		
ウェブサイト	Cooperativanovacitrus (Instagram)		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	オレンジ	400 ha	16.000.000 T	2024
(2)	アボカド	50 ha	1.000.000 T	2027
(3)	パパイヤ	3 ha	120 T	2026

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)

(1)	オレンジ		6月/1月	----	----
(2)	アボカド	8月/9月	3月	----	---
(3)	パパイヤ	9月/11月	1月/12月	----	----

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

ハス種アボカド(青果)の輸出。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	認証	アボカド(ハス種)	新たな市場開拓のための生産認証を取得	インフラの整備と営業部の設置

3-3 関心のある技術・製品

輸出、商業提携。



ブラジル
サンタカタリーナ州
サンジョアキン市

⑳ サンジョアキン農協 SANJO

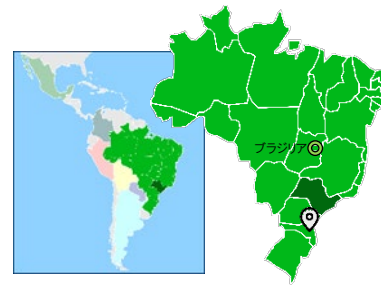
ブラジルのりんごの首都／ジュース・ワインも製造



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/20, Sergio Mochizuki

[1] 組織の概要

組織名	サンジョアキン農協 SANJO: Cooperativa Agrícola de São Joaquim		
代表者名	Makoto Umemiya		
組合員人数	120 人	職員人数	300 人
設立年	1993 年	年間売上	20,000,000 USドル
組織紹介	サンジョアキン農協は環境保全を心掛けながら持続可能な生産を行ってきた。生産認証では Produção Integrada de Maçã(統合的りんご生産)と Global Gap を取得しており、出荷施設では HACCP を取得している。組合の果物の冷蔵能力は 38,000t 以上あり、冷蔵施設の面積は 44,000m ² である。1 日あたり 200t 以上のりんごを選別・商品化している。年間売上額は 1 億レアルを見込む。当組合は、ディズニーと契約しており、一部商品(りんごやりんごジュース)は子供受けが良くなるように、ディズニーキャラクターの包装を使用している。また、組合では工場見学を受け入れており、りんごジュース工場やワイン工場の見学ができる。毎月、サンジョアキン障害児・障害者協会(APAE)に対して財政支援を行っている。半年ごとに、軍警察との連携による「薬物および暴力に抵抗するための教育プログラム (PROERD)」を支援している。これは、訓練を受けた制服の軍警察官から独自の教材(図書、T シャツ、修了証書)を用いて、薬物や暴力を防止するための講義を各学校の教室で行うプログラムである。組合は協同組合国家教育サービス(ESCOOP)と連携して組合員に向けて様々なコースを実施している。認証はグローバル GAP、IFS Progress と SEMTA を取得済み。		
住所	Avenida Irineu Bornhausen, 677, São Joaquim, Santa Catarina, Brasil		
電話番号	+55 49 32337300		
E-mail	comercial@sanjo.com.br		
ウェブサイト	www.sanjo.com.br		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	りんご	1250 ha	36.000.000 kg	2024
(2)	ぶどう	1,5 ha	5.000 kg	2024
(3)	ブルーベリー	1,0 ha	3.000 kg	2024
	フェイジョア	1,0 ha	7.000 kg	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	りんご	7 月	2 月	9 月	3 月
(2)	ぶどう	8 月	3 月	9 月	4 月
(3)	ブルーベリー	7 月	12 月	9 月	1 月
	フェイジョア	7 月	3 月	8 月	

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	りんご	イギリス	1.000 t (2024)
(2)	りんご	中東	300 t (2024)
(3)	りんご	インド	600 t (2024)

(4)	りんご	バングラデッシュ	80 t (2024)
-----	-----	----------	-------------

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	りんごジュース

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

農薬企業と取引。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出(農産物・加工品)	りんごジュース	生産の認証、新しい市場を切り開く	果樹園の適正化。営業部門を立ち上げる。
(2)	選別・規格化	りんご	人材を確保するのが困難であり、選別の近代化、生産の機械化が必要	新しい機械の購入
(3)	種苗・品種	りんご	害虫や病気に強い品種が無い	研究に投資、連携を図る

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

包装工場及び果樹園の自動化。新しいビジネスに向けてのパートナーシップを期待している。
--



SANJO 本部



取扱い商品ラインナップ



ブルーベリー栽培



キッズ向けりんごジュース



研修・農場見学の様子



りんご青果

ブラジル
 サンタカタリーナ州
 フレイロジェリオ市

②9 ラーモス果樹生産者地域連合 UNIFRUTA

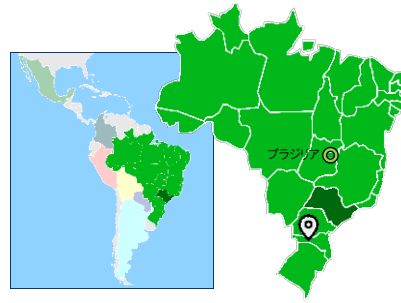
和梨・桃に加えて穀物を生産



ロゴ



農産物



位置

記入：2024/12/08, Elzami Miwa Onaka

[1] 組織の概要

組織名	ラーモス果樹生産者地域連合 UNIFRUTA: União Regional dos produtores de Frutas		
代表者名	Armando Mamoru Ito		
組合員人数	14 人	職員人数	
設立年	1995 年	年間売上	
組織紹介	<p>【歴史】 1995 年に設立された UNIFRUTA(果物生産者地域連合)は、サンタカタリーナ州フレイ・ロジェリオ市のヌクレオ・セルソ・ラモス地区に本部を置く非営利の民間団体です。設立以来、この団体は地域の果物生産者の代表として活動し、果樹栽培の持続可能な発展と組合員間の連携を促進してきました。</p> <p>【活動】 果物およびその加工品の生産と農業工業化を促進するため、UNIFRUTA は製品の販売を組織し、品質と規格の向上を支援し、市場での競争力を高めています。さらに、生産者間の情報と経験の交換を促進し、革新的で持続可能な実践の採用を奨励しています。UNIFRUTA はまた、技術的・物的な支援を提供し、地域の生産チェーンを強化しています。</p> <p>【展望】 UNIFRUTA のビジョンは、果樹栽培部門における代表的な存在としての地位を確立し、地域の生産者の持続可能な成長と価値向上に貢献することです。組合員間の連携を促進し、革新的な技術の採用と地域製品の市場拡大を目指しています。UNIFRUTA は、地域製品のアイデンティティと品質を強化し、フレイ・ロジェリオおよび周辺地域の果樹栽培に繁栄をもたらす未来を築くことを目指しています。</p>		
住所	Rodovia SC 451 Km 25, Frei Rogério, Santa Catarina, Brasil		
電話番号	+55 49 98808-6944		
E-mail	mamoru83@hotmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	にんにく	4 ha	12 t	2023
(2)	梨(和梨)	5.5 ha	7 t	2023
(3)	大豆	45 ha	209 t	2023
(4)	桃	1 ha	5 t	2023
(5)	とうもろこし	33.5 ha	232 t	2023

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	にんにく	6 月-7 月	11 月-12 月		
(2)	梨(和梨)	5 月-7 月	2 月-3 月		
(3)	大豆	10 月-11 月	2 月-4 月		
(4)	桃	5 月-7 月	12 月-1 月		
(5)	とうもろこし	10 月-11 月	3 月-5 月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)				

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

保管用製品、生物学的製品の情報技術。



ブドウ栽培の様子



出荷の様子



和梨栽培の様子



シイタケ栽培



シメジ栽培



ブドウ栽培の様子



生産品目



シメジ

アルゼンチン
 ミシオネス州
 ハルディンアメリカ市

③0 ハルディンアメリカ生産者組合 Jardin America

マテ茶を中心にタピオカでん粉や瓶詰め加工品を販売



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/26, Ken Kamada

[1] 組織の概要

組織名	ハルディンアメリカ生産者組合 Cooperativa de Productores Yerbateros de Jardín América		
代表者名	Maximiliano Cunale		
組合員人数	173 人	職員人数	89 人（登録者：520 人）
設立年	1973 年	年間売上	4.2 MM USドル
組織紹介	<p>【歴史】 1973 年に設立されたハルディンアメリカ生産者組合 (Cooperativa de Productores Yerbateros de Jardín América Ltda.) は、地域の小規模生産者を結集し、生産能力を強化し、生活の質を向上させることを目的として誕生しました。設立以来、マテ茶の生産と加工において重要な役割を果たし、アルゼンチンのマテ茶業界におけるリーダーとしての地位を確立してきました。長年にわたり、活動範囲を拡大し、組合員に新たな機会を提供するために事業を多様化してきました。</p> <p>【活動】 私たちの協同組合は、主に高品質なマテ茶の製造に取り組んでおり、伝統的な基準と持続可能性への取り組みを維持しています。さらに、マテ茶事業を補完する代替生産として、キャッサバ澱粉工場や地域製品の包装プラントを運営しています。包装プラントでは、ピクルス（キュウリ、トウモロコシ、ピクルス、ザワークラウト、ピーズ、唐辛子）、シロップ漬けフルーツ（パパイヤ、カボチャ、イチジク）、さまざまな種類のジャムなど、20 種類以上の製品を提供しています。これらの取り組みは、製品の多様化を図るだけでなく、生産者に付加価値を生み出しています。</p> <p>【展望】 私たちは、協同組合の成功モデルとして、組合員と地域社会の持続可能な発展を推進し続けることを目指しています。マテ茶と地域製品の生産においてリーダーとしての地位を確立し、市場での競争力を維持するために常に革新を追求します。生産者の包括的な成長を促進し、生産の多様化と環境保護を推進しながら、連帯、公平性、チームワークの価値観に基づいて活動していきます。</p>		
住所	Ruta Nacional Nº 12 Km 1436. Jardín América. Misiones. Argentina		
電話番号	+54 3743 460-277/763		
E-mail	gerencia@flordejardin.com.ar		
ウェブサイト	www.flordejardin.com.ar		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	マテ茶		21.000 t	2024
(2)	キャッサバ		5.500 t	2024
(3)	きゅうり		85 t	2024
(4)	ミニコーン		25 t	2024-2025
(5)	パパイヤ		250 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	マテ茶	1年中	2-9 月		
(2)	キャッサバ	7-10 月	3-9 月		
(3)	きゅうり	9 月	11-12 月		

(4)	ミニコーン	8-1月	12-3月		
(5)	パパイヤ	8月	3-7月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	研修	農業学校の運営(Instituto Agrotécnico Jardim América)

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

直接取引はしていないが農作業にクボタのトラクターやマテの選定に ARS のノコギリを使用しています。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出	マテ茶	現在マテ茶用の粉碎機の改善に投資しており、新たな市場を開拓したいと考えている。	日本企業との連携
(2)	土壌	マテ茶	長年肥料を使用せずに栽培してきたが、土壌が痩せてきたことから土壌改良のため有機肥料を使い始めた。	日本の有機肥料の技術、土壌改良剤の導入により、持続可能な生産をする。

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

私たちの生産物にとって日本市場は、高い可能性を秘めた市場であり、消費者数においても高い可能性を秘めているため、興味深く、日本企業にはビジネスパートナーを期待している。



アルゼンチン
 ブエノスアイレス州
 ラプラタ市

③①メルコフロール花卉生産者組合 Mercoflor

市場で切花・鉢物を販売



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/22, Roberto Gogami

[1] 組織の概要

組織名	メルコフロール花卉生産者組合 Mercoflor: Cooperativa de Productores de Flores y Plantas Mercoflor Ltd		
代表者名	Javier Alejandro Kaizoji		
組合員人数	140 人	職員人数	10 人
設立年	1998 年	年間売上	
組織紹介	<p>【歴史】メルコフロールは、国内有数の切り花生産地域のひとつにおいて、生産者が仲介業者を介さずに直接取引できる専用市場を提供することを目的に、1998年12月2日にブエノスアイレス州ラプラタ地区の花花生産者によって設立された組合です。</p> <p>【活動】生産者自身が花屋や植物園、造園家などの関係業者向けの卸売市場を管理していることが特徴です。この流通チェーンは、地域内だけでなく、国内全域においても多くの雇用を生み出しています。切花や植物以外にも、メルコフロール農協では花卉生産や関係業者向けの資材なども取り扱っています。また、アルゼンチン国内のさまざまな民間団体や行政機関と強いつながりを持つことで、国内有数の卸売市場としての地位を確立しています。</p> <p>【展望】将来のビジョンとして、私たちは物流および収穫後の品質管理において、最高の効率と品質を誇る花卉製品の卸売市場となることを目指しています。具体的には、収穫から販売までの時間を短縮し、より迅速で高品質な流通を実現することを目標としています。</p>		
住所	Ruta 36 km 44,5 Melchor Romero, La Plata, Buenos Aires, Argentina		
電話番号	+54 0222949-2808		
E-mail	mercoflor@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	切花	150 ha		
(2)	鉢物	45 ha		

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	切花	年中	年中		
(2)	鉢物	年中	年中		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	その他	業界の展示会への参加(例: ナショナルフラワーフェスタ)
(2)	その他	研究: 花卉のデモンストレーションセンターで新品種などの公開
(3)	その他	研修: 農業者へ向けた論文、講座、研修など

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	種苗・品種	切花、鉢物	花卉の新品種が不足	当地域で栽培可能であり、需要が見込めそうな新品種を導入したい

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

生産者は栽培に先端技術を導入したいのですが、コスト面で導入できる技術に限られてしまうのが現状です。興味を持っている技術例：灌水技術、農機、ハウス作業の自動化、資材の消毒。現状を鑑みると日本企業との取引は安易ではないと考えられますが、可能性があるならばメルコフロールは相互取引を希望します。



花卉クラスターの視察



組合員のバラ栽培の様子



展示会：ラ・ブラダ EnFlor



市場—切り花セクション



観葉植物販売所



市場-切り花セクション

アルゼンチン
 ブエノスアイレス州
 ブエノスアイレス市

③2 エコフロール花卉農協 Ecoflor

花・観葉植物を専門に扱う農協



ロゴ



Facebook



位置

記入：2024/11/25, Okayama Toyoki

[1] 組織の概要

組織名	エコフロール花卉農協 Ecoflor: Establecimientos Cooperativos Florícolas LTDA		
代表者名	Augusto Tsuzisaki		
組合員人数	22 人	職員人数	4 人(幹部)
設立年	2015 年	年間売上	107,000 USD
組織紹介	<p>【歴史】 フロレンシオ・バレラ地区は、ブエノスアイレス州のグリーンベルトの一部を形成し、集中的な農業活動が行われている地域として特徴付けられています。この農業開発は 1948 年に始まり、州政府と国政府が協力して、日本人、ポルトガル人、イタリア人の入植者に土地を提供し、彼らは園芸や花卉栽培に従事しました。これにより、フロレンシオ・バレラの花弁産業は発展し、地域の重要な経済活動の一部となりました。</p> <p>【活動】 花卉産業は、この地域のいくつかの町にわたり、近年、新しい技術、専門的な支援、供給業者、そして市場や消費地との接近によって重要な成長を遂げています。この成長は、地域内外で供給者、生産者、流通業者、消費者を結ぶ長い統合チェーンと、供給者、生産者、消費者を結ぶ短いチェーンの形で、商業化のための新しい道を開いています。これにより、小規模生産者が個別に、または組織化された協会を通じて自らの生産物を販売することができるようになり、規模の小ささ故に集中的な市場にアクセスすることが困難だった小規模生産者にもチャンスが提供されています。フロレンシオ・バレラの農村部は、約 5000 ヘクタールの面積を持ち、特徴的なのは、人口密度の高い隣接する地域と接していることです。これにより、そこで生産された商品に対する需要も非常に高くなっています。フロレンシオ・バレラには約 80 世帯の花弁生産家庭があり、主要な活動は切花と鉢植え植物の生産です。2011 年から、フロレンシオ・バレラの農村部に住む、隣接するピジャ・サン・ルイスやラ・カピージャの地域から移住した日本人家族のグループが、共同でさまざまな活動を行っています。これには、農業経済学部(UNLZ)やサンタ・カタリーナ植物技術研究所(UNLP)、SENASA、INTA などによる生産者向けの研修、展示会、情報提供活動が含まれ、これらの活動が地域のつながりを深め、共通のプロジェクトに取り組む基盤となりました。2015 年には、この日本人花弁生産者グループは、22 世帯を中心に構成され、フロレンシオ・バレラの農村部の日本人コミュニティの二世帯および三世帯の花弁生産者が集まり、ECOFLOR 協同組合を設立しました。ECOFLOR 協同組合の主な目的は、個々に行われていた生産活動やサービスを協力的に発展させ、増加させることです。協同組合のメンバーのうち、11 家族はリウム、ガーベラ、アルストロメリア、カーネーション、キク、ギブソフィラなどの切花を生産しており、残りの 8 家族は、例えばバンジー、ハーブ、プリムラ、アレグリア・デル・オゴール、シュガーフラワー、アルプス・ヴィオラ、ミニバラ、中国バラ、アザレアなどの花卉の苗や低木を生産しています。さらに、3 家族は地域の園芸や花卉産業に関連するサービス提供者として活動しています。</p> <p>【展望】 ECOFLOR 協同組合は、これまでに温室建設や農村インフラ整備、灌漑システム、パークや庭園の維持管理などのサービスを提供し始めています。この多角化により、ECOFLOR 協同組合は、生産プロセスやサービスの向上に役立つ新たな販売手段を提供し、観賞用植物の種の多様化を促進し、年間を通じて家族の収入の安定性を高めることができます。私たちの主な目的は、これまで個別に行われてきた生産活動やサービスを協力的に発展させ、拡大することです。これにより、生産者間の絆を強化し、地域の持続可能な成長を促進します。</p>		
住所	Av. de los Inmigrantes 4150 Florencio Varela, Buenos Aires, Argentina. C.P. 1888.		
電話番号	Tel: +54 2225-498129/ Cel: +54 11 694-96817 / Cel: +54 11 556-72131		
E-mail	ecoflor@gmail.com / toyokiokayama@hotmail.com / subelzaleandro@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	切花	30 ha	90,000 パッケージ: ユリ、ガーベラ、バラ、キク、カーネーションなど	2023
(2)	観葉植物・花の苗・果物	18 ha	600,000 本: 季節花苗、観賞用低木、柑橘類および果樹の苗	2023

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	切花	常時	常時	常時	常時
(2)	観葉植物・花の苗・果物	常時	常時	常時	常時

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材	組合員のために農業用品の買い取りや生産物の販売、農村観光。
(2)	技術指導	花の生産者たちに新しい技術の経営の面や生産能力を高めるサポートそして生産物を商品化するための新しい市場の開拓などを支援する。当組合は、生産および商業化に特化した農業技術者や農業エンジニアの専門チームによるサポートも提供しています。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

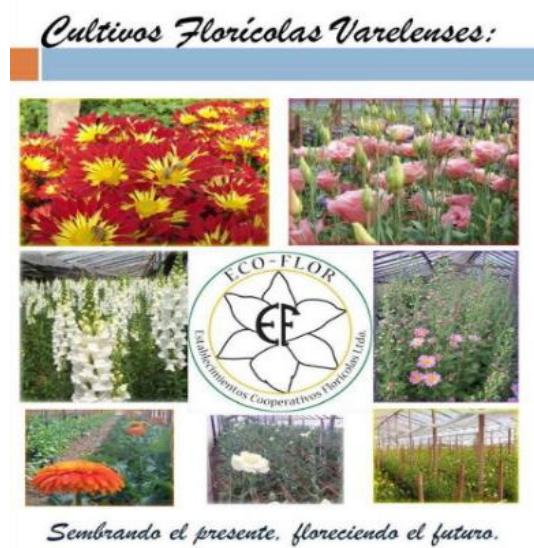
	分野	対象	課題	解決策
(1)	農業資材	花	生産不足及び供給能力の持続を保つ必要がある。生産品種の多様化。新市場開拓。海外からの商品提供者の確保。	生産力を高めることができる農業資材。南米や日本の農業関係者との連携。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

施肥灌漑、農業病害虫管理、作物スケジューリング。日本企業には生産不足及び供給能力の持続を保つことができるサポートを期待する。日本や南米から農業資材の輸入。

3-4 日本企業への期待

日本企業からは生産不足の改善と供給能力の維持をサポートするための支援を求めています。
--



パラグアイ
 アマンバイ県
 ペドロファンカバレリオ市

③③アマンバイ農協 Amambay

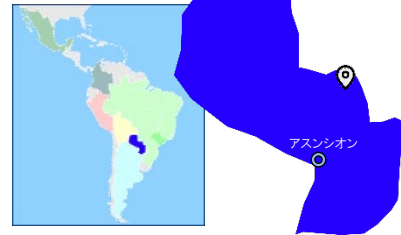
大豆・とうもろこし等の穀物を生産する農協



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/02/22, Toshiko Kunihiro de Sumiyoshi

[1] 組織の概要

組織名	アマンバイ農協 Cooperativa Amambay Agricola Ltda.		
代表者名	Kazuhiko Kanno		
組合員人数	20 人	職員人数	3 人
設立年	1961 年	年間売上	1,340,000 USドル
組織紹介	1959年にコーヒー問屋ジョンソンが破産した結果、コーヒー生産者も破産し行き場を失った。そして、1960年に53人の組合員を筆頭に日系農協を設立し、1961年に正式に農業組合として登録した。当時大豆、フェジョン豆、とうもろこしを中心に生産し日系社会の経済及び文化の発展支援を活動の目的としていた。その後コーヒー、養鶏、とうもろこし、野菜、果物などを生産していたが害虫や天候の変化などによる困難に直面した。1981年に養鶏工場を設立。1990年代には穀物や果物の為にサイロに着工。当農協は小規模生産者のサポートだけでなく、製品の品質向上を目的として生産者への技術指導なども行っている。		
住所	Calle Bolivia Zona Industrial km 1, Pedro Juan Caballero, Amambay, Paraguay		
電話番号	+59 533627-3907		
E-mail	coop.amambay@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	1,075 ha	2,169 t	2022
(2)	とうもろこし	800 ha	3,700 t	2022

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	9月中旬	2月下旬		
(2)	とうもろこし	3月	7月下旬		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	大豆	ローカル販売	1,075 t
(2)	とうもろこし	ローカル販売	t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	講習	生産物の品質向上の為に講演会を実施

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

なし

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)				

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

我々は常に製品の品質向上に向けて研修に参加している。収量向上のために新しい品種の試験も行っている。現段階では日本企業への期待はありません。



パラグアイ
 イタプア県
 ラパス市

③④ラパス農協 Coop. La Paz

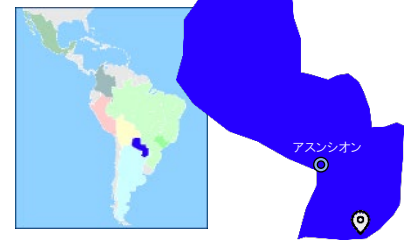
穀物を生産し、小麦粉・飼料を販売



ロゴ



施設



位置

記入：2025/3/18, Bartolome Konish

[1] 組織の概要

組織名	ラパス農協 Coop. La Paz: Cooperativa La Paz Agricola Limitada.		
代表者名	Yoshimasa Goto		
組合員人数	160 人	職員人数	200 人
設立年	1971 年	年間売上	40,000,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 ラパス農業協同組合（旧称：フラム農業協同組合）は、1970年にパラグアイのイタプア県ラパス植民地に本部を置いて設立されました。イタプア県の4つの協同組合（フェデリコ・チャベス、フジ、ラパス、サンタ・ロサ）が合併して誕生し、設立当初の組合員数は178名でした。</p> <p>長年にわたり、協同組合はさまざまな課題に直面しましたが、努力と献身によってそれら乗り越えてきました。1990年代には、生産量と利益の増加により、新しいサイロの設置や農業資材の保管庫改善が可能となり、著しい成長を遂げました。2003年には製粉工場の建設が完了し、2010年には飼料工場が開設され、現在のラパス協同組合の基盤が固められました。</p> <p>【活動】 ラパス農業協同組合は、その多角化と組合員の発展への取り組みで注目されています。組合員が主に栽培する作物は、大豆、トウモロコシ、小麦です。主な活動は以下のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> — 農業融資：組合員の生産を支援するための資金提供。 — 穀物の販売：農産物の買い取りと販売。 — 商業センターとサービスステーション：組合員や地域社会に利便性と快適さを提供する施設。 — 製粉工場：小麦を加工して小麦粉を生産。 — 飼料産業：動物用飼料の製造。 <p>【展望】 ラパス農業協同組合は、持続可能な成長を続け、組合員と活動地域の総合的な発展を促進することをビジョンとしています。革新と効率性に焦点を当て、農業分野のリーダーとしての地位を強化し、地域の経済的・社会的進歩に貢献することを目指しています。</p>		
住所	Ruta Graneros del Sur km. 36,5, Itapuá, La Paz, Paraguay		
電話番号	+595 0763-20100		
E-mail	lapaz@lapaz.coop.py		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	14,000 ha	42,000 t	2020
(2)	小麦	8,000 ha	16,000 t	2020
(3)	とうもろこし	1,500 ha	8,000 t	2020
(4)	ひまわり	400 ha	1,000 t	2020

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	9 月	2 月		
(2)	小麦	3 月	9 月		
(3)	とうもろこし	2 月	6 月		
(4)	ひまわり	7 月	12 月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	栄養バランスを考慮した飼料への加工
(2)	資金融資	大豆、小麦、とうもろこし、もろこし、米の生産。土地の購入又インフラ整備にも投資している。
(3)	農業機械	農業機材の購入
(4)	農業資材	肥料・農薬
(5)	貯蔵	穀物を受けられることができるように穀物用サイロ、種子用サイロを保有。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)				

3-3 関心のある技術・製品

--

3-4 日本企業への期待

--



農協本部(サイロ)



農協本部



穀物の収穫



ソルガムの生産



とうもろこしの生産



牛・鶏・豚の飼料

パラグアイ
イタプア県
ピラポ市

③⑤ピラポ農協 Pirapó

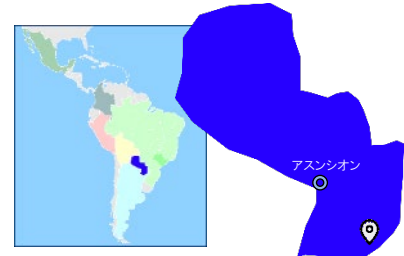
穀物サイロ・スーパーマーケットを運営



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/12, 居村芳生 (Imura Yoshio)

[1] 組織の概要

組織名	ピラポ農協 Cooperativa Pirapó Agrícola Limitada		
代表者名	Koichi Onodera		
組合員人数	140 人	職員人数	95 人
設立年	1960 年	年間売上	60,000,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】ピラポへの移住わずか3ヶ月後の1960年11月3日にピラポ農業協同組合として設立され、翌年1961年に法定認可を受けた。パラグアイ日系農業協同組合中央会とパラグアイ生産者組合連盟(FECOPROD)に加盟している。</p> <p>【活動】事業内容は主に、農産物の生産、金融事業、生産資材取り扱い事業、購買事業、建築資材取り扱い事業、燃料の供給事業、サイロ事業、営農指導サービス、スーパーマーケット運営を行っている。</p> <p>全ての組合員の農地では不耕起栽培が行われており、土壌を侵食から保護している。また常に、土壌保全のため、地域で正しい等高線の活用や流域保護の意識を呼びかけている。</p> <p>また、組合員への福祉面の充実にも力を入れており、2015年より、組合員や職員が使用するための広いキンチョ(バーベキュー用広場)と子供用遊び場を保有し、2016年から2019年には、キンチョの手前に照明付き人工芝サッカー場、バレーボールコートとパデルコートが出来上がった。</p> <p>主要作物である大豆、トウモロコシ、小麦、カノーラ、ヒマワリ、ソルガムの農業生産に関する技術支援を提供しています。また、農業用石灰の散布サービスや、自走式機械による肥料散布サービスも行っています。さらに、バーベキュー施設に加えて、遊歩道付きの線形公園も整備されました。</p> <p>【展望】当農協は、持続可能な開発のモデルとなることを目指し、責任ある農業の実践や組合員、地域社会の福祉を促進します。サービスの多角化を通じて社会的・環境的影響力を強化し、地域の包括的な成長に貢献することを追求しています。</p>		
住所	Calle 22 de Setiembre esq. Brasilia, Pirapó Centro, Itapúa, Paraguay		
電話番号	+595 0768-245-220		
E-mail	administracion@copirapo.com.py		
ウェブサイト	Copirapo.com.py		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	23.345 ha	74.105 t	2023/2024
(2)	小麦	1.300 ha	3.656 t	2024
(3)	とうもろこし	7.800 ha	33.626 t	2024
(4)	なたね	1.860 ha	2.337 t	2024
(5)	もろこし	423 ha	1.392 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	9, 10, 11 月	12, 1, 2, 3 月	12, 1, 2 月	3, 4, 5 月
(2)	小麦	4, 5, 6 月	8, 9, 10 月	-	-
(3)	とうもろこし	8, 9, 10 月	11, 12, 1 月	12, 1, 2 月	3, 4, 5, 6 月
(4)	なたね	4, 5, 6 月	8, 9, 10 月	-	-

(5)	もろこし	-	-	12, 1, 2 月	3, 4, 5, 6 月
-----	------	---	---	------------	--------------

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	大豆	国内市場	全て
(2)	小麦	ブラジル	一部
(3)	とうもろこし	ブラジル、ウルグアイ	一部

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	資金融資	生産融資、特別融資、医療貸付金、再建融資
(2)	農業資材・機械	農機械、農機具購入資金
(3)	その他	スーパー運営、燃料供給事業、購買事業、建築資材取り扱い事業、生産資材取り扱い事業、土壌サンプル採取サービス

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

なし

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	精密農業	組合員	土壌改良活動の促進、各組合員の単収を上げる	農協で大型の石灰散布機を購入し、特に単収の低い組合員に対して土壌改良を行う。
(2)	肥料	組合員	土壌検査マップの作製に基づき肥料散布のコスト削減	肥料会社との連携によるコスト削減、または、石灰散布機を新規購入し、サービスを提供する。

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

精密農業に伴うソフト、大型ドローンなど



事務所本部



スーパーマーケット・金物店



建設資材



技術サポートセンター



サービスステーション



エコストップ



サイロ



農業資材

パラグアイ
 セントラル県
 アスンシオン市

③⑥ コルメナアスンセーナ農協 CAICA

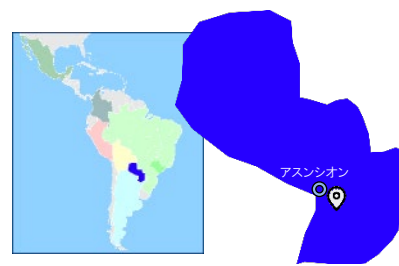
野菜・果物を生産する農協



ロゴ



施設



位置

記入：2024/03/06, Richard Uesugui

[1] 組織の概要

組織名	コルメナアスンセーナ農協 CAICA; Cooperativa Agro-Industrial Colmena Asuncena Limitada		
代表者名	Koichi Miyamoto		
組合員人数	49 人	職員人数	21 人
設立年	2004 年	年間売上	1.750.000 USD
組織紹介	<p>【歴史】 2004 年に設立された農業工業協同組合「コルメナ・アスンシオネサ有限協同組合（CAICA）」は、パラグアイのアスンシオンに位置しています。設立以来、この協同組合は、ラ・コルメナ（パラグアリ）、イタ、イタウグア、ヤグアロン、カビアタ、ヌエバ・イタリア（セントラル）、カラグアタイ（コルディジェラ）など、さまざまな地域の組合員を支援し、果物や野菜の生産と販売のチェーンを強化することに力を注いでいます。</p> <p>【活動】 CAICA は、組合員の果物や野菜の販売を担当し、アスンシオンの中央市場にある販売所と事務所で、1 日おき（月曜日、水曜日、金曜日）に製品を受け取っています。果物や野菜の販売に加えて、協同組合は活動を多様化し、ラ・パスやイグアスなどの他の協同組合から小麦粉を仕入れて販売しています。また、農業資材の輸送と販売のサービスを提供し、生産者に対して生産前の前払いとして信用供与を行い、作物の栽培に必要な資源へのアクセスを容易にしています。</p> <p>【展望】 CAICA は、果物や野菜の生産者を支援し、持続可能な発展を促進するための代表的な存在としての地位を確立することをビジョンとしています。製品とサービスの多様化を通じてその影響力を拡大し、バリューチェーンを強化し、活動地域の経済的・社会的成長に貢献することを目指しています。</p>		
住所	Avenida Defensores del Chaco y Pycasu. Mercado Central de Abasto Bloque "A" Local Nro. 49 al 54, Asunción, Paraguay		
電話番号	+595 021-501-804, FAX: +595 021-508-656, Cel: +595 985-588118		
E-mail	coopcaica@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	トマト	9 ha	442 t	2023
(2)	ピーマン	2.4 ha	113 t	2023
(3)	レモン	15 ha	265 t	2023
(4)	メロン	1.5 ha	97 t	2023
(5)	ぶどう	19 ha	99 t	2023

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	トマト	3 月	7 月	8 月	11 月
(2)	ピーマン	2 月	6 月	9 月	12 月
(3)	レモン	4 月/7 月	1 月/12 月		
(4)	メロン	1 月	4 月	9 月	12 月
(5)	ぶどう	5 月/7 月	11 月/12 月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

無し

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	その他		気候の問題で生産量が少ない。	気候による不都合を防ぐため、生産者のためのインフラ整備と技術訓練を行う。

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

1. 製品包装機 2. 売り場の効率的な空調。特に夏場。 様々な作業(施肥、灌漑、散布など)の自動化による栽培プロセスの改善。 協定による製品の輸出。
--



トマトのケース



販売拠点: 中央卸売市場、アスンシオン市、パラグアイ



トウガラシの栽培



ブドウの栽培

パラグアイ
 アルトパラナ県
 イグアズ市

③7 イグアズ農協 Yguazu

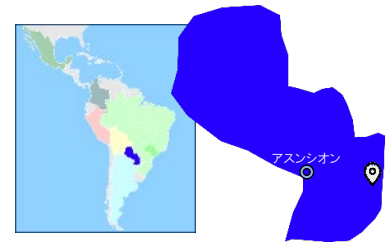
穀物に加えてナッツ・肉牛を扱う農協



ロゴ



施設



位置

記入：2025/03/01

[1] 組織の概要

組織名	イグアズ農業協同組合 Cooperativa Yguazu Agrícola Ltda.		
代表者名	Jorge Onishi		
組合員人数	92 人	職員人数	178 人
設立年	1961 年	年間売上	50,000,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 1961 年、イグアズ農業協同組合 (Yguazú Agrícola Limitada) が設立され、同時に日本人のイグアズ植民地への移住が始まりました。当初、組合員は野菜の生産に従事していましたが、時間の経過とともに農業分野の進化に伴い、協同組合はより近代的で効率的なアプローチを採用し、大豆、小麦、トウモロコシの生産のために重機を導入しました。</p> <p>近年、気候変動や環境問題の課題に直面し、組合では製品に付加価値を与える革新的な技術を導入し、生産の統合を促進し、市場と環境の新しい現実に対応することを目指しています。</p> <p>【活動】 栽培されている主な農産物は、大豆、トウモロコシ、小麦です。当組合では、組合員の製品に付加価値を与え、生産を多様化し、事業を持続可能にすることを目的としています。</p> <p>主な商業活動は以下の通りです： 融資：組合員の生産を支援するための資金調達。 穀物の販売：農産物の購入と販売、商業サイロでの保管。 購買と販売：農業資材の共同購入、スーパーマーケットとガソリンスタンドの運営。 製粉工場と畜産冷蔵庫の運営：小麦の加工による小麦粉の生産と販売。牛肉の生産（半丸ごと）、カット処理、真空包装、販売。マカダミアナッツの生産と販売：高付加価値製品による生産の多様化。</p> <p>【展望】 当組合は、持続可能で革新的な実践を促進し、組合員と環境に利益をもたらすことで、パラグアイの農業分野をリードし続けることを目標としています。生産の統合と付加価値の追加に焦点を当て、農業分野における卓越したモデルとしての地位を確立し、地域の経済的および社会的発展に貢献することを目指しています。</p>		
住所	Av. Pte. Stroessner e/ Japón y 14 de mayo, Distrito Yguazú, Dpto. Alto-Paraná, Paraguay		
電話番号	+595-632-20245		
E-mail	coop.yguazu@yguazu.coop.py		
ウェブサイト	www.yguazu.coop.py		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	15.000 ha	48.000 t	2024-25
(2)	小麦	2.500 ha	6.900 t	2024
(3)	とうもろこし	4.500 ha	22.000 t	2024
(4)	マカダミアナッツ	80 ha	50 t	2024
(5)	肉用牛		1.450 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	9 月-10 月	2 月-3 月	1 月-2 月	6 月
(2)	小麦	5 月	9 月		
(3)	とうもろこし	9 月	2 月	1 月-2 月	7 月-8 月

(4)	マカダミアナッツ		12月-4月		
(5)	肉用牛				

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	大豆(非遺伝子組み換え)	日本	100 t
(2)	マカダミアナッツ	日本	7 t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	資金融資	組合員への営農資金の融資、および貯金の取扱い。
(2)	農業資材・機械	資材の共同購入と販売。
(3)	農産物加工	製粉工場、牛の屠殺場の運営。
(4)	その他	スーパーマーケット、ガソリンスタンド、肉の直売所の運営。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

<ul style="list-style-type: none"> ・非遺伝子組換え大豆の販売 ・マカダミアナッツの販売 取引先:「ギアリンクス」
--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)		大豆・牛肉・マカダミアナッツ	輸送期間の短縮、輸送コストの削減。	
(2)	マーケティング	同上	日本の市場、需要などに関する情報不足。販売、営業力の強化。	
(3)	加工(カット・乾燥)	牛肉・マカダミアナッツ	保存期間・品質管理に留意した加工品の開発に向けた技術導入。	

3-3 関心のある技術・製品

<ul style="list-style-type: none"> ・マカダミアナッツの加工技術、加工品の種類。 ・牛肉を使用した加工品。長期保存が可能な加工技術。

3-4 日本企業への期待

日本企業には商材として農畜産物(大豆、小麦、とうもろこし、チアシード、マカダミア、牛肉など)を扱えるビジネスパートナーを求める。特に生産から加工・流通までの流れの中で、得意な部分を補い合うことができることや加工技術や販売力の強化ができる企業を求めている。まず、情報の提供から技術面含む多方面からアドバイスをいただき、日本における生産物の販売の可能性を探っていきたい。



サイロ・種保管庫



自社ブランド:小麦粉



マカダミアナッツ



と畜場「フリオ・ニッケイ」



ガソリンスタンド



パラグアイ
アルパラナ県
イグアス市

③⑧パラグアイ農牧総合試験場 CETAPAR

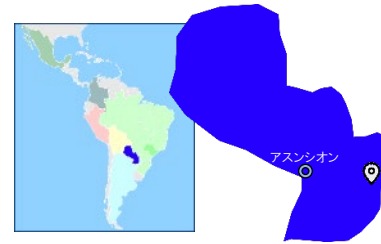
国内農牧業界の発展と知識の普及のため日系農協中央会が管理する試験場



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/12, Juan M. González

[1] 組織の概要

組織名	パラグアイ農牧総合試験場 Centro Tecnológico Agropecuario del Paraguay – Fundación NIKKEI CETAPAR		
代表者名	Blas Bienvenido Cristaldo Moniz		
組合員人数	3 組合: 日系農協中央会、 FECOPROD、UNICOOP	職員人数	43 組合: 日系農協中央会、FECOPROD、UNICOOP
設立年	2010 年 4 月 1 日	年間売上	670,000 USD
組織紹介	<p>【歴史】CETAPAR は、2010 年 4 月 1 日に日系コミュニティと国際協力機構（JICA）の支援を受けて設立。その起源は 1962 年にさかのぼり、当時は「イグアスコロニア実験農場」として、パラグアイにおける農業技術の試験と適応を目的に発足。1974 年には JICA の介入により、パラグアイ農牧総合試験場（CETAPAR）が設立され、新しい技術の導入と開発のプラットフォームとして機能。2010 年、JICA のプロジェクトが終了し、CETAPAR は非営利財団「日系セタバール財団」として正式に発足。農業および森林技術の生成と普及において重要な役割を果たしている。</p> <p>【活動】1. 研修と職業訓練: ニーズに合わせた研修プログラムを提供。ドイツのデュアルシステムを採用しており、生産者や若い技術者向けに先進的な農業技術の包括的な訓練を実施。主に機械操作、精密農業、土壌管理、水耕栽培、適正農業規範（GAP）等。2. 開発と技術支援: 乳製品生産の改善に焦点を当てた「PROMELE」プロジェクトは、CETAPAR の最も注目すべきプログラム。技術訓練と乳製品生産者向けの支援ネットワークの構築を通じて、パラグアイ東部における乳製品生産の最適化を目指す。EU の協力による「MiPYME COMPITE」プログラムは、中小企業が革新的な技術、品質管理、環境に配慮した経営を導入することで競争力を高めることを支援。3. 持続可能な農業の革新: 持続可能な農業手法を推進。これにより、土壌の肥沃度が向上し、化学農薬への依存が軽減。土壌肥沃度マッピングの試験や作物の品種や肥料に関する研究は、地域に適応し持続可能な方法で生産性向上を目指す。4. 研究所のサービス: 卓越した技術力を備えた研究所を運営し、農業にとって重要な分析サービスを提供。土壌: 土壌の組成と肥沃度の分析を行い、作物の計画と栄養管理を支援。種子および農薬: 種子の品質と有効性の評価、農薬残留物の分析を行い、農産物の安全性と品質を保証。微生物学および食品化学: 有益な微生物の研究と作物の栄養品質の分析を実施。水および分子生物学: 農業用水の安全性を確保するための水質分析と、作物の病気を特定するための分子生物学的研究を実施。植物病理学: 作物の病気を診断し、病害虫の総合管理と作物の健康改善に貢献。</p> <p>【展望】日系セタバール財団は、持続可能な農業開発のリファレンスとしての地位を確立することを目指す。今後は、特に職業訓練と研修の分野でサービスの範囲を拡大し、デュアルシステムの強化と国内外の機関との戦略的提携を拡充。生産性向上のみならず、自然資源を保護し、持続可能性を促進する革新的な農業手法を導入し、業界をリードすることを目指す。研究面では、新技術の試験を増やし、精密農業ツールの使用を促進することで、資源の効率的な利用と環境への影響の最小化を図る。</p>		
住所	Ruta PY 02, Km 282, Distrito de Yguazú, Alto Paraná, Paraguay		
電話番号	+595 983601902 / +595 983100616		
E-mail	direccion@cetapar.com.py / administracion@cetapar.com.py		
ウェブサイト	http: www.cetapar.com.py		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	トマト			
(2)	レタス			
(3)	ピーマン			

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	トマト	3 月	6 月	8 月	11 月
(2)	レタス	常時	順次収穫		
(3)	ピーマン	4 月	7 月	9 月	12 月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	研修 研修 (展示会、イベント、研修、技術支援)	Expoferias HORTIPAR では、農業分野の企業、生産者、学生、専門家が集まり、最新の農業技術や実践について展示し、議論する。参加者が実践的で最新の知識を習得できるよう、ライブデモンストレーション、技術セッションなど、様々なアクティビティを開催。CETAPAR は、実際の環境での最良の農業慣行を紹介する農場視察を定期的に開催。これらのイベントでは、総合的な病害虫管理技術や持続可能な生産システムが紹介され、水や土壌の栄養素などの資源の効率的な利用に関するワークショップを開催。理論と実践のトレーニング: 理論と現場の実践を組み合わせたモジュール式のコースとセミナーが提供。これらは、農業機械の操作、精密農業、土壌分析の解釈、水耕栽培などの分野で参加者のスキルを向上させるよう設計。農業分野の特定の問題を解決するアプローチを使用し、生産者のニーズに合わせたトレーニングの提供に重点を置いています。
(2)	農業資材・機器 ・研究施設での分析 ・精密農業研究・開発	研究施設: 現代の農業に不可欠な幅広い分析を提供。生産者は土壌分析などのサービスを利用し、土地の組成や肥沃度をより深く理解し、肥料の使用を適切に計画することができます。さらに、植えられた品種の品質を確保するために種子分析を実施し、農産物が安全規制に準拠していることを確認するために農薬残留物の分析も実施。精密農業: 土壌センサーや GPS などのテクノロジーを活用して農業実践を最適化することを推進。これらのツールは、投入物(水、肥料、農薬)を必要な場所に正確に適用し、無駄を減らして環境への影響を最小限に抑えることで、作物の収穫量を最大化するのに有効。試験運用・実践的研修: 研修参加者へのデモンストレーションと実践的なトレーニングの両方に使用される最新のトラクター、農業用ドローン、高度な灌漑システムなどの農業機器に投資。学生や農家はそれらの使用方法を学び、農作業の効率を向上。
(3)	その他	家族営農向け点滴灌漑システム: イスラエル政府と協力し、小規模家族農場向けに設計された点滴灌漑システムを導入。このシステムは、水資源が限られている地域では特に重要な、水の正確な使用を可能にするため、非常に効率的。このプロジェクトは、農村家庭の農業生産性向上と責任ある水管理を確実にすることを目的とする。中小企業とのプロジェクト: MiPYME COMPITE プログラムを通じて、持続可能な慣行と品質管理を採用することで、中小零細企業の競争力向上に取り組んでいます。欧州連合の支援を受けるこのプロジェクトは、これらの企業の能力を強化し、農業食品分野におけるイノベーションを促進することを目指す。さらに、生産活動による生態学的影響を軽減するために、責任ある環境管理の実践を推進。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

OBIHIRO, JICA, FUJIMIN, JIRCAS、日系農協

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)				

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

1. **精密農業**: 日本の最先端技術を取り入れることで、精密農業の能力強化を目指す。これには、作物の監視のためのドローンの使用、土壌水分および栄養センサー システム、農業データ管理用の高度なソフトウェアが含まれます。日本企業はこの分野における革新性で有名であり、CETAPAR はこれらの技術を導入して水や肥料などの資源の使用を最適化し、環境への影響を軽減し、農業運営の効率を高めたいと考えています。2. **バイオテクノロジーとバイオ肥料**: より持続可能な農業生産を可能にするバイオテクノロジー製品に興味を持っています。日本で開発された生物肥料や生物農薬などの生物学的解決策は、合成化学物質の使用に代わる現実的な選択肢となります。CETAPAR は、土壌の健康を改善し、自然な植物の成長を促進し、長期的に土壌の肥沃度の回復に貢献する技術を提供できる企業との協力を目指しています。3. **総合的病害虫管理(IPM)**: 気候変動や新たな害虫や病気の出現に伴い、総合的病害虫管理を強化する日本の技術や製品に興味を持っています。主に生物多様性を保護し、作物の健全性を確保しながら、農業の使用を最小限に抑えるのに役立つ生物学的技術と監視技術を取り入れたいです。4. **スマート灌漑システム**: 水不足は深刻化する課題であり、CETAPAR は日本で開発された高効率灌漑技術を導入したいと考えています。これらのスマート システムは、センサーと自動化を使用して灌漑を最適化し、植物に必要な量の水を正確に供給して、この重要な資源を節約します。私たちは、パラグアイの気候や土壌条件に適したソリューションを提供できる企業との協力を目指しています。5. **先進農業機械**: 直接播種、収穫、土壌管理などの特定の作業向けに設計された高精度で効率的な農業機械にも関心を示しています。日本の農業機械は耐久性と精度に優れていることで知られており、これらの技術が導入されることで、特に大豆やトウモロコシなどの粗放栽培作物の栽培において、この地域の農業慣行が改善されることが期待されています。6. **再生可能エネルギー**: もう一つの関心分野は、太陽光パネルやバイオマス技術など、農業用の再生可能エネルギーシステムの開発です。CETAPAR は、再生不可能なエネルギー源への依存を減らし、農業経営に対するより持続可能なアプローチを促進するプロジェクトを模索しています。**日本企業への期待**: CETAPAR が日本企業に対して最も期待しているのは、技術と知識の継続的な交流を可能にする長期的な関係を構築できることです。財団は、機器や製品を提供するだけでなく、CETAPAR スタッフと地元のプロデューサーへのトレーニングと技術知識の移転も行うパートナーシップを求めています。また、これらの協力がパラグアイの他の地域や南米でも再現できる持続可能な農業モデルの開発に貢献することを期待しています。



農協の視察



栄養学研究所



技術研修や実践講座



CETAPAR 文化イベント



展示会



インターンシップ

パラグアイ
セントラル県
フェルナンドデラモラ市

③⑨パラグアイ日系農協中央会 Chuokai

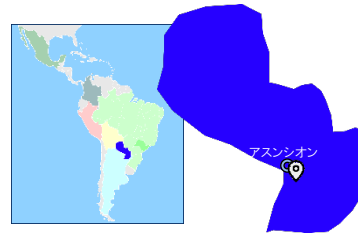
パラグアイの5つの日系農協を束ねる中央会



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/11/28, Fernando de la mora

[1] 組織の概要

組織名	パラグアイ日系農協中央会 Chuokai: Central Cooperativa Nikkei Agrícola Limitada		
代表者名	Kaoru Shima - 2024年4月まで		
組合員人数	5 組合	職員人数	2 人
設立年	1980 年	年間売上	0USD
組織紹介	<p>【歴史】パラグアイ日系農協中央会 (Central Cooperativa Nikkei Agrícola Limitada) は、1980年にパラグアイのフェルナンド・デ・ラ・モラに設立されました。創立以来、同組合は、パラグアイ国内で農業生産に従事する日系協同組合を代表する団体として確固たる地位を築いてきました。その当初の使命は、これらの協同組合の利益を強化し統合し、政府手続きの円滑化を図り、農業セクターの持続可能な発展を促進することでした。</p> <p>【活動】私たちは、加盟協同組合を支援するために重要な役割を果たしており、自己資金や国際機関からの資金を用いた農業融資などの金融サービスを提供しています。また、日系財団 (Fundación Nikkei) が主導する農業技術センター (CETAPAR) を運営しており、これは農業の生産性と持続可能性を向上させるための研究、革新、技術移転に焦点を当てています。</p> <p>中央協同組合は、教育、研修、協同組合間の交流を通じて、協同組合間の統合と協力を促進しています。これらの活動は、生産者の能力を強化し、良好な農業慣行を促進し、組合員間の知識と経験の交換を容易にすることを目的としています。</p> <p>【展望】今後は、技術革新、教育、金融支援を通じて農業セクターの近代化と持続可能性を推進し、パラグアイの農業発展の礎となることが目標です。日系協同組合の強化を続け、農村地域の経済的および社会的成長に貢献し、統合、協力、組合員の福祉に常に焦点を当てていくことを目指しています。</p>		
住所	Calle Arq.Tomas Romero Pereira y 10 de Julio, Ciudad Fernando de la Mora, Central, Paraguay		
電話番号	+595 21 509 526		
E-mail	coopnikkei@gmail.com / coopnikkei2@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)				

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)					

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	資金融資	農業投資への信用供与

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートナー農協や農業関連のその他組合に有益となるプロジェクトを実施 ・JA 北海道中央会と連携協定締結 ・十勝農業協同組合連合会と連携協定締結 ・La Confederación de Cooperativas Rurales del Paraguay (CONCOPAR)とパートナーを組んでいる ・海外日系人協会とパートナーを組んでいる。 <p>過去に日本企業との取引の経験がある。イグアス農協の非遺伝子組み換え大豆の商品化を目的とした、日本企業ギアリンクスとの契約締結。</p>
--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)				

3-3 関心のある技術・製品/ 日本企業への期待

<p>ピラポ農協、ラパス農協、イグアス農協、コルメナアスンセーナ農協などの農協に、農産物の加工産業施設などを導入する際に投資を得るための協力協定。</p>



中央会事務所(フェルナンドデラモラ市)



エンカルナシオン市にある中央会の倉庫



パラグアイ農牧総合試験場 CETAPAR イグアス地区

ボリビア
サンタクルス県
サンタクルス市

④0 コロニアオキナワ農協 CAICO

穀物生産に加えて小麦粉・パスタなどの加工品を製造



施設



位置

記入：2024/11/25, Yuken Nakamura

[1] 組織の概要

組織名	コロニアオキナワ農牧総合協同組合 Cooperativa Agropecuaria Integral Colonias Okinawa RL (CAICO R.L.)		
代表者名	Tomohide Tsukayama		
組合員人数	129 人	職員人数	27 人
設立年	1971 年	年間売上	785,700.00 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 コロニアオキナワ農牧総合協同組合は 1971 年に設立され、現在は 129 名の組合員が農業と畜産に従事しています。現在、組合員の主な活動は、夏期における大豆と米の生産、そして冬期の小麦とソルガムの栽培です。近年ではサウキビの生産も増加しており、現在では 5,400ha の面積が栽培されています。</p> <p>2014 年には、CAICO SA 農業産業会社が設立され、協同組合の資産（サイロ、種子プラント、全粒大豆加工プラントなど）がこの新会社に移管されました。同年には、OKI SRL 製粉所も設立され、協同組合から小麦製粉所とパスタ工場が移管されました。</p> <p>【活動】 CAICO RL 協同組合、CAICO SA 農業産業会社、および OKI SRL 製粉所は、それぞれ独立した運営を行っていますが、生産チェーン全体を統合する必要性から、これら 3 つの組織は協調して活動し、「GRUPO CAICO (CAICO グループ)」を形成しています。</p> <p>協同組合の主な活動は、組合員に対して種子、農薬、燃料の購入資金を提供し、農業および畜産の技術指導を行うことです。また、試験を行うための実験エリアも保有しています。</p> <p>CAICO SA は、11 万トンの穀物を貯蔵できるサイロ、大豆・小麦・米の種子を処理する種子プラント、加工された種子を保管する冷蔵庫、そして全粒大豆加工プラントを所有しています。このプラントでは、2 種類の大豆粉を生産しています：真空不活性化全粒大豆粉と押出全粒大豆粉です。これらの大豆粉は、家禽、牛、豚、その他の動物用の配合飼料の製造に使用されています。</p> <p>全粒大豆粉は「CAICO」ブランドで販売され、国内市場(30%)とペルーへの輸出(70%)が行われています。小麦製粉所は 1 日 120t の小麦を処理する能力を持ち、パスタ工場には 2 つの生産ラインがあります：ショートパスタ(マカロニ)を 1 時間あたり 3,000kg 生産するラインと、リボン麺(コルパタ)とネストパスタを 1 時間あたり 500kg 生産する混合ラインです。</p> <p>現在、小麦粉とパスタは国内市場で「Okinawa」ブランドとして販売されており、小麦粉は主にパン屋向け、パスタは市場向けに販売されています。</p> <p>【展望】 CAICO グループは、パラグアイにおける農業および農業産業のリーダーとなることを目指し、イノベーション、持続可能性、品質の向上を推進します。組合員に対して資金調達、技術、アドバイスを提供し、CAICO および Okinawa ブランドを国内外の市場に拡大することを目指します。各部門の統合を通じて、経済的および社会的発展を促進し、組合員と地域社会の持続可能な成長を保証します。</p>		
住所	Av. Ryukyu s/n, Colonia Okinawa N°1 オキナワ第1移住地、琉球通り(本部)		
電話番号	+591-3-3418061		
E-mail	caico@caico.com.bo		
ウェブサイト	www.caico.com.bo		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	大豆	21.057 ha	42.188 t	2024
(2)	小麦	4.529 ha	5.910 t	2024
(3)	米	6.512 ha	32.560 t	2024
(4)	とうもろこし	825 ha	2.755 t	2024
(5)	ソルガム	9.253 ha	26.561 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	大豆	6月・7月	10月・11月	11月・12月	3月・4月
(2)	小麦	4月・5月	8月・9月		
(3)	米			10月・12月	3月・5月
(4)	とうもろこし	3月・4月	9月・10月	10月・12月	3月・5月
(5)	ソルガム	3月・4月	9月・10月	10月・12月	3月・5月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	大豆	ペルー	10 t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	資金融資	年2回(夏作・冬作)、各組合員の栽培面積によって営農資金の融資を行っています。
(2)	農産物加工	小麦粉・バスタ・豆全粒粉

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

JICA の補助事業を通じて、日本のクボタ製機械を導入し、赤米の管理を改善するための移植方式による米栽培システムを実施しました。

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	土壌	畑作農家	化学農薬の長期連用に伴う土壌中の蓄積及び残留による土壌環境汚染。	農薬使用量を可能な限り減少させ、生物農薬の導入を図る。
(2)	輸出	大豆	品質：我々の生産物は遺伝子組み換え技術を使用しており、日本の厚生労働省の品質基準を満たせていない。また我々にとっては植物検疫の基準を満たすのは困難である。	日本の基準に沿って販売できる代替品を模索して日本へ輸出する。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

日本企業には農作物の購入に関心があることを期待する。私たちの農産物を用いた新たなプロジェクト/製品を作り出すことやチアシードの商品化やゴマに関連のある機材や製品の導入(ゴマに関しては搾油やその他の付加価値をつけられる副産物を商品化するための機材や資材等の導入)これらの農作物の導入を検討しており、商品化のアイデアや実例等があれば参考にしたい。



アグロインダストリア CAICO SA プラント



輸出用 大豆全粒粉



大豆栽培の様子



「オキナワ」パスタ・小麦粉



小麦栽培の様子



ソルガム栽培の様子



コメ栽培の様子



CAICO 試験圃場

ボリビア
 サンタクルス県
 サンフアン市

④1 サンフアン農協 CAISY

鶏卵・穀物生産に取り込む農協



ロゴ



施設



位置

記入：2024/11/25, Kenta Daniel Bani Asai

[1] 組織の概要

組織名	サンフアン農牧総合協同組合 CAISY R.L.; Cooperativa Agropecuaria Integral San Juan de Yapacani R.L.		
代表者名	Sumito Fujita Iwanaga		
組合員人数	97 人	職員人数	240 人
設立年	1957 年	年間売上	55,000,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 サンフアン農牧総合協同組合(CAISY R.L.)は、1957年にボリビアのサン・フアンで設立され、1971年に法人格を取得しました。設立以来、農畜産物の生産と販売に取り組み、地域の経済的・社会的発展において重要な組織としての地位を確立してきました。</p> <p>【ミッション】 CAISY R.L.は、垂直統合型の組織として、市場に高品質な製品を提供し、現在および将来の組合員のために活動しています。ボリビアの食料安全保障に貢献し、農業協同組合のモデルとなることを目指しています。そのために、イノベーションと組合員および従業員の福祉を最優先にしています。</p> <p>【活動】 現在、CAISY R.L.は卵と米の生産および販売に力を入れており、これらの製品はボリビア全土で流通しています。同組合は、生産から販売までの垂直統合を進め、国内市場での製品の品質と競争力を確保しています。</p> <p>【展望】 ボリビアにおける卵、米、および農業イノベーションの生産、加工、販売においてリーダー的なブランドとなることを目指しています。消費者のニーズに応え、その期待を超えることを追求し、サービスの継続的な改善を通じて、持続可能な開発と組合員および従業員の福祉を促進します。</p>		
住所	Colonia Japonesa San Juan, Plaza Alcibiades Velarde S/N, Santa Cruz, San Juan, Bolivia		
電話番号	+591 3934-7006		
E-mail	presidencia@caisybolivia.com		
ウェブサイト	www.caisybolivia.com		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	卵		300,000,000 個	2024
(2)	米	8,700 ha	42,000 t	2024
(3)	大豆	5,500 ha	13,140 t	2024
(4)	とうもろこし	650 ha	1,000 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	卵				
(2)	米	6月-12月	11月-5月		
(3)	大豆	3月-7月	9月-1月	12月-1月	3月-6月
(4)	とうもろこし	3月-5月	9月-12月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農産物加工	養鶏用の飼料
(2)	資金融資	農業資材
(3)	その他	雛鳥販売
(4)	その他	米、大豆の種子

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

過去に日本企業と取引したことがある。 ・サタケ精米機器(ブラジル経由、継続中) ・クミアイ化学(Mitsubishi Co.)稲作農薬(現在輸入量は減っているが連携中) ・ヤンマー農機(田植機) ・富士平工業(株)家畜用注射器 ・エーザイ(株)動物用医薬品のパコマやアストップ ・岡田製作所、肥料処理機 ・SanshoIndustry 凍結乾燥機
--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	農業機械	田植え機	今ある機械が古く生産性が低い。	生産性向上を目指して新たな機会を導入。
(2)	飼料	鶏卵生産	12月から2月の間、鶏卵の生産が不安定かつ低価格。この時期には50%の損失がある。	鶏卵工業(保全と市場拡大)による価格への悪影響を軽減。
(3)	加工(カット・乾燥)	鶏卵加工	人件費/非常に高い税金(63%)。	卵・米生産における技術革新。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

日本の企業とのビジネスには、以下のようなビジネスパートナーを希望しています。 ・砕米を米粉バンに利用するなどの技術を導入できる企業。 ・廃鶏の処理や加工販売に関する施設投資資金や販売指導をサポートできるビジネスパートナー。 ・稲作機械や機具の新中古プロバイダー。 ・野菜や果物を加工する機械を導入し、付加価値を付けることができる企業。 ポルビアは内陸に位置しており、港までの輸出費用がかかるため、現地で生産した農産物を国際市場で販売するには、農作物を加工して軽量化を図る必要があります。現在は国内で販売していますが、リスク分散を目的として、輸出可能な農作物の導入を検討中です。当組合は農家の集まりであるため、日本企業から市場の情報を得て、当組合で検討し、生産・加工した後に日本へ輸出したいと考えています。当組合と信頼関係を深め、ビジネスパートナーとして長期的な取引ができればと願っています。
--



鶏卵のパッケージ例



ジャポニカ米のパッケージ



鶏舎



米の作付



灌漑システムを導入したコメ栽培

ペルー
 リマ県
 ウアラウ市

④2 エスキベル農畜産物生産者協会 APAE

飼料用とうもろこしを中心に野菜を生産



ロゴ



協会員



位置

記入：2024/11/25, Juan Nakama

[1] 組織の概要

組織名	エスキベル農畜産物生産者協会 APAE: Asociación de Productores Agropecuarios de Esquivel		
代表者名	Juan Nakama		
組合員人数	29 人	職員人数	3 人
設立年	2013 年 8 月	年間売上	723.900,00 USD
組織紹介	<p>【歴史】エスキベル農畜産物生産者協会は、ウアラル県（「農業の首都」とも呼ばれる）に在住する日系農業者を集めた組織であり、2013 年 8 月 14 日に 15 人の農業者の率先によって設立されました。この協会は、高額な農業資材のコスト、融資へのアクセスの難しさ、商業的な発展の不足などの共通の問題に対する解決策を求め、また、会員間での知識と経験の交換を促進し、新しいアグリビジネスの機会を活用することを目的としています。チームワーク、連帯感、そして会員の責任感と献身的な取り組みのおかげで、より効率的な灌漑技術（点滴灌漑）に関する情報源へのアクセス、直接販売や新しい市場への参入、生産物の販売条件の改善、資材の購入などが可能になりました。</p> <p>【活動】現在、会員の農業ユニットは主に飼料用トウモロコシ、レタス、セロリ、ニンジン、ピーズ、サツマイモ、コリアンダー、インゲン豆、ジャガイモなどの生産に焦点を当てており、これらは国内市場で販売されています。</p> <p>【展望】協会のビジョンは、品質の高い農業生産と販売において地域のリーダーとなること、そして持続可能な活動を可能にする革新的な技術を採用し、会員の利益に貢献することです。</p>		
住所	Calle Morales Bermudez 219, Huaral, Lima, Perú		
電話番号	+ 51 999 334 424		
E-mail	directiva.apae@yahoo.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	飼料用とうもろこし	115 ha	5750 t	2024
(2)	コリアンダー	25 ha	450 t	2024
(3)	にんじん	30 ha	1350 t	2024
(4)	サツマイモ	30 ha	1200 t	2024
(5)	ピーズ	15 ha	1080 t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	飼料用とうもろこし	年中	年中		
(2)	コリアンダー	年中	年中		
(3)	にんじん	3 月/8 月	7 月/12 月		
(4)	サツマイモ	年中	年中		
(5)	ピーズ	年中	年中		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

2023 年から、Sagri Co. Ltd. と共同で、スマート農業とカーボン農業を将来のビジネスモデルとして採用するプロジェクトに取り組んでいます。
--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	精密農業	すべての作物	水資源の不足	灌漑システム(灌水施肥)を農協全てに普及させる。
(2)	種苗・品種	セロリ レタス	低品質の苗の購入と納期の不確実性	質の高い苗を確保し、納期通りに届けるために、苗床を設置する、
(3)	農業資材・道具	収穫機 播種機	人材不足、高給	農業機材の導入。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

灌漑技術、農業機材、種苗、土壌改良、より良い種苗、技術導入へのサポート。



乳牛飼料用トウモロコシの収穫の様子



ピーツ「スカーレット」での点滴灌漑システム



ニンジン「タキイ」の収穫と選別



ペルー沖縄県人会施設内での農産物販売ブース - 「ウチナンチューの日」記念イベント(2024年11月27日)



飼料用トウモロコシの生産チェーンにおける2021年PROCOMPITE競争基金への参加



点滴灌漑システムを導入したニンニク「ナプリ」圃場

ペルー
 リマ県
 カニエテ市

④3 ペルー日系人協会カニエテ APJ CAÑETE

みかん・ぶどう・アスパラガスをメインに生産



ロゴ



施設



位置

記入: 2024/03/13、Mario Ysagawa

[1] 組織の概要

組織名	ペルー日系人協会カニエテ APJ Cañete: Asociación Peruano Japonesa de Cañete		
代表者名	Mario Ysagawa Gusukuma		
組合員人数	40 人	職員人数	6 人
設立年		年間売上	
組織紹介	<p>リマ首都圏に位置するカニエテは、リマ中心部より南に位置し、太平洋の海岸にも近い場所に位置している。カニエテでの日系人の組織は、ペルー日系人協会(APJ)のみ存在する。</p> <p>【農協を設立しない理由】かつて日系ではないが、ぶどうの組合はあったが解散してしまい、日系人もそのことから組合というものへの信用がない。各農業者の考え方が異なるのでまとめることが難しく、組合という組織に関する情報が全くない。主に、各生産者は輸出会社と契約し、出荷している(キロ単位の契約なので、品質に関する意識もなく、選果も行っていない。</p> <p>【各農業者が抱える課題】上記に挙げた課題以外にも以下のことも解決が必要。1). 出荷先の業者から値段が叩かれており、取引価格が減少する一方である、2). 気候変動(みかんの実が熟さず、落ちる)、3). 新しい品種を取り入れることができない(リスクを懸念)、4). 品質管理、5). 労働者不足、6). 病害虫、7). 生産性の低下の解決方法についても模索している。</p> <p>【その他】Inversiones Agricolas QUILMANA SAC.という企業を、4年前に日系人が設立した。ブルーベリーを生産し、95%をチリへ輸出。残り5%が国内消費。チリを通して日本へも輸出している。地域の5人の生産者(そのうち2人が日系人)とグループを作り、肥料等の共同購入・パッキング等を行っている。</p> <p>出荷物には各生産者の名前を付け、問題があったときに対応できるようにしている。チリの輸出会社とペルーの銀行からの融資を受け、栽培を開始。現在は、ブルーベリーの収穫の際に手で掴むとブルーベリーに跡がつき、痛むことがあるため、収穫用の機械に関心がある。JICAの研修で、ブラジルのカッポンボニート農協にじゃがいもとトマトの研修に参加したことがある農業者がいた。</p>		
住所	Calle Almirante Grau 618 San Vicente – Cañete, Lima, Perú		
電話番号	+51 95484-6907		
E-mail	presidencia.apj2018@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	ぶどう	45 ha	1,350 t	2019
(2)	みかん	25 ha	1,500 t	2019
(3)	アスパラガス	60 ha	1,080 t	2019
(4)	ブルーベリー	10 ha	80 t	2019

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	ぶどう	8月-9月	2月-3月		
(2)	みかん		4月-5月 Primosole 種		6月-8月 W.Murcott 種
(3)	アスパラガス	3月	3月-4月	10月	10月-11月
(4)	ブルーベリー	1月	7月-12月		

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	ブルーベリー	チリ	72 t
(2)	みかん	アメリカ	
(3)	アスパラガス	アメリカ	

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)		

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

--

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	輸出(農産物・加工品)	みかん、アスパラガス、ブルーベリー	現在輸出業者を通してアメリカを中心に輸出している。	日本への輸出に関心がある。
(2)	農業機械	農産物	機械を導入して、生産効率を上げる必要がある。	トラクターや果樹用の消毒剤噴霧器の導入。
(3)	洗浄	みかん	収穫したみかんの洗浄や袋詰めをする業者がなく自分達で行っている。	洗浄や袋詰めをする機械の導入。

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

気候変動、品質管理、病害虫、機械化



コロンビア
バージェデルカウカ州
カリ市

④コロンビア日系人協会 (ACJ)

コロンビアの日系人及びその家族のコミュニティ



ロゴ



写真



位置

記入：2025/03/08, Diego Kuratomi

[1] 組織の概要

組織名	コロンビア日系人協会 Asociación Colombo Japonesa (ACJ)		
代表者名	Diego Kuratomi		
組合員人数	83 戸	職員人数	276 人
設立年	1963 年	年間売上	1,976,000 USドル
組織紹介	<p>【歴史】 カリへの日本人移民は 1929 年に始まり、主に福岡県からの移民でした。1935 年までに、20 世帯 159 人が定住し、その多くが農業に従事していました。現在も農業に携わる日本人はいますが、農業協同組合は存在せず、各自が生産し、自身で製品を販売しています。現在、この地域ではサトウキビ、大豆、トウモロコシ、綿、レモン、コーヒーなどが栽培されています。</p> <p>【活動】 日系コロンビア人コミュニティとその家族の統合と発展、およびコロンビア社会への貢献を促進するため、協会は日本語教室、文化ワークショップ(マンガ、折り紙、着物、茶道など)、武道などの活動を提供しています。</p> <p>【展望】 2030 年までに、ACJ(コロンビア日系人協会)が日系コロンビア人コミュニティとその家族の出会い、学び、成長、交流の場となることを目指しています。</p>		
住所	Calle 13 Norte #6-N-40 Cali, Valle del Cauca - Colombia		
電話番号	+57 317 665 2183		
E-mail	gerencia@centroculturaljapones.com		
ウェブサイト	www.centroculturaljapones.com		

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	サトウキビ	1,350 ha	162,000 t	2024
(2)	トウモロコシ	250 ha	2,000 t	2024
(3)	大豆	250 ha	750 t	2024
(4)	綿	77 ha	460 t	2024
(5)	タヒチライム	1ha	7t	2024

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	サトウキビ	常時			
(2)	トウモロコシ	2・3 月	7・8 月	8・9 月	1 月
(3)	大豆	3 月	6 月	9 月	12 月
(4)	綿	2 月	7 月		
(5)	タヒチライム	1 月	4 月	8 月	11 月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)			

2-4 農業生産以外の活動

	分野	対象	課題	解決策
(1)	日本語	日本語教育、スピーチコンテスト、世界日本語能力試験	(1)	日本語

(2)	武道	空手道、柔道、合気道、剣道	(2)	武道
(3)	漫画	漫画教室	(3)	漫画
(4)	日本文化	日本料理教室、着物教室、折り紙教室、茶道教室	(4)	日本文化
(5)	年間行事	新年会、敬老会、運動会、その他カリ市の行事など	(5)	年間行事

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

日本企業との取引はありません

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	土壌	有機栽培	菌やバクテリアなどの有効活用	有効微生物の利用方法
(2)	施肥	最先端技術	作物ごとの課題の特定やチームごとの管理の負荷が非常に高い	作物の個別管理のために低コストで有効な機材の導入
(3)	灌漑	機械化 自動化	働き手不足	サトウキビの農業散布・施肥、苗の作付など様々な農作業の機械化

3-3 関心のある技術・製品/日本企業への期待

灌漑施肥技術、精密施肥、肥料や微生物資材など。

3-4 日本企業への期待

日本市場で需要のあるコロンビア産農産物またはコロンビアへ輸出可能な日本産商品に関する情報。
価値の高いプロジェクトや市場開発をともに実現するようなビジネスパートナーとの出会い。



サトウキビ



大豆



パパイヤ



タヒチライム



2025年1月新年会



2024年6月敬老の日

メキシコ
チアパス州
アカコヤグア市

④5 アカコヤグア江戸村協会

文化・教育・スポーツ・保健・農業を通じて絆を強める



ロゴ



農場



位置

記入: 2025/01/08, Sayuri Hiray

[1] 組織の概要

組織名	アカコヤグア江戸村協会 Asociación Edomura A.C. de Acacoyagua		
代表者名	Celmira Horita Antonio		
組合員人数	25 人	職員人数	8 人
設立年	1993 年 9 月 25 日	年間売上	
組織紹介	<p>【歴史】 アカコヤグア市(チアパス州)は、面積 191 平方キロメートル、人口 17,994 人(2020 年国勢調査)を有する地域です。ソコヌスコ地方のチアパス海岸地域に位置し、エスクイントラ、アカペタワ、マパステペクの各市と隣接しています。主な経済活動は、自給自足レベルの農業と畜産で、特に「アタウルフォマンゴー」や「マニージャマンゴー」の生産が著名です。その他、コーヒー、カカオ、ランブータン、マンゴスチン、アブラヤシ、米、トウモロコシ、豆、ゴマなども栽培されています。畜産は地元市場や国内市場向けに二重目的(肉・乳)で営まれています。</p> <p>えどむら日系文化協会の起源は、1897 年にチアパス州に定住した日本初の移民団「榎本移民」に遡ります。その後も新たな日本人移民グループがこの地に根を下ろし、1993 年 9 月 25 日に正式に「Asociación Edomura A.C.」として法人化されました。</p> <p>【活動】 アカコヤグア江戸村協会では、文化的行事(祭り、七夕、生け花、地域清掃活動)、学術活動(日本語講座、書道)、スポーツ行事(運動会)、食文化(日本料理、茶道)、手工芸(折り紙、浴衣制作)、農業活動(民族植物園、在来種の実証農場)など、様々なプログラムを実施しています。</p> <p>【展望】 「日本とメキシコの文化的な架け橋」として、持続可能な協力関係を促進し、知識・伝統・技術の交流を深めることを目指しています。両国の豊かな文化を融合させ、新たな世代にインスピレーションを与えながら、日系コミュニティの結束を強め、グローバルな環境の中で地域社会を豊かにしていきます。</p>		
住所	Av. Carlos Kasuga Osaka Norte S/N. Barrio Morelos II. Acacoyagua, Chiapas, Mexico. C.P. 30590		
電話番号	+52 962 116 1353		
E-mail	asociacionedomura@gmail.com		
ウェブサイト			

[2] 組織の活動

2-1 主要農産物

	作物	生産面積	生産量	データ年
(1)	マンゴー*	15 ha	8 t/ha	2024
(2)	マンゴー**	4 ha	8 t/ha	2024
(3)	マンゴスチン	2 ha	4 t/ha	2024
(4)	ランブータン **	2 ha	2 t/ha	2024
(5)	コメ *	2 ha	3 t/ha	2024

地域に生産者団体がいないため、農産物情報は Horita* / Tsuzuki**グループの合計

2-2 栽培カレンダー

	作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1)	マンゴー	5 月	3 月・4 月		
(2)	コメ	6 月	10 月		
(3)	白いんげん豆	10 月	1 月		

(4)	マンゴスチン	5月	6月		
(5)	ランブータン	5月	6月		
(6)	サワーソップ	5月	6月		12月

2-3 農産物・加工品の輸出

	作物・製品	輸出先(国)	量
(1)	マンゴー *	USA、カナダ、ヨーロッパ	4 t
(2)	マンゴー **	USA、カナダ、ヨーロッパ	4 t
(3)	マンゴスチン **	USA	2 t
(4)	ランブータン **	USA	1 t

2-4 農業生産以外の活動

	トピック	内容
(1)	農業資材・機材	コメ作付機・精米機
(2)	農作物加工	マンゴー用乾燥機
(3)	農作物加工	食品乾燥機及びマンゴスチンの皮・種用製粉機
(4)	農業資材・機材	灌漑設備

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

農業機材。医療用マンゴスチン粉の販売

3-2 ニーズのある分野・課題

	分野	対象	課題	解決策
(1)	病害虫対策	マンゴー、コメ、 白いんげん	栽培の全過程で発生する病害虫への対応。企業レベルでの販売への障害	防カビ剤や殺虫剤。栄養剤(肥料)など
(2)	病害虫対策	マンゴスチン、 ランブータン、 サワーソップ	加工・商品開発が不足し付加価値がつかない	炭酸カルシウム(CaCO ₃)の散布、栄養状況の判断

3-3 関心のある技術・製品/

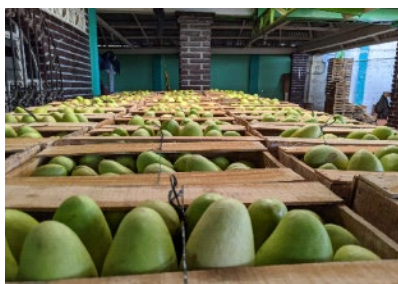
マンゴー：圧力灌漑用ポンプ。コメ：作付機、精米機、収穫機。

3-4 日本企業への期待

農業用機材。医療用マンゴスチン粉の販売。



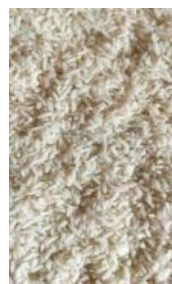
マンゴー



収穫済みマン



コメ栽培



精米後のコメ



マンゴスチンの花



マンゴスチンの木



ランブータンの実



サワーソップの実